

文 学 部

履 修 要 項

平 成 5 年 度

駒澤大學

学 年 暦

前 期

4月8日(木)	入学式	24日(金)	専攻コース指定届受付 (歴史・社会学科の1年次生)
9日(金)	新入生オリエンテーション	25日(土)	
12日(月)			25日(土)
9日(金)	在校生身分証明登録	10月1日(金)	
16日(金)			4日(月)
9日(金)	在校生成績発表	7日(木)	
10日(土)			15日(金)
9日(金)	体育実技II受講届(種目選択届)	27日(水)	
10日(土)			29日(金)
12日(月)	時事外国語受講届受付 (経済学部3年次生)	25日(月)	
13日(火)		在校生成績質疑応答	29日(金)
19日(月)			11月20日(土)
13日(火)	前期授業開始	12月1日(水)	転部・転科試験
20日(火)	履修届受付(学部・短大) (学部により受付日が異なる)	10日(金)	
23日(金)			5日(日)
19日(月)	春季健康診断(卒業年次生対象)	20日(月)	編入学試験 冬季休業第1日(1月7日まで)
23日(金)			
5月25日(火)	卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生) (締切日は正午まで)	24日(金)	体育実技II集中授業コース (学部2年次生)
6月10日(木)			
7月14日(水)	中間試験及び前期終了定期試験 (授業平常どおり)	1月8日(土)	後期授業再開
20日(火)			14日(金)
20日(火)	前期授業最終日	17日(月)	定期試験(専門・基礎・教職科目)
21日(水)	夏季休業第1日(9月15日まで)	26日(水)	
21日(水)	体育実技II集中授業コース (学部2年次生)	27日(木)	定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
25日(日)			
23日(金)	前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切	4日(金)	卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
9月6日(月)	補講期間	4日(金)	定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
10日(金)			4日(金)

後 期

9月16日(木)	後期授業開始	15日(火)	体育実技IIシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
16日(木)	前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付	19日(土)	
17日(金)			17日(木)
24日(金)	外国語指定届受付(仏教・文・除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生および昭和63年度以前入学の経済学部の2年次生)	23日(水)	
30日(木)			3月1日(火)
		19日(土)	卒業者名簿発表
		25日(金)	卒業式

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業論文 (7)
3. 卒業及び学位記の授与 (7)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (8)
2. 外国語科目の履修方法 (10)
3. 保健体育科目の履修方法 (13)
4. 基礎教育科目の履修方法 (13)
5. 専門教育科目の履修方法 (14)
6. 他学部科目の履修方法 (32)
7. 随意科目の履修方法 (34)
8. 再履修科目の履修方法 (34)
 - ※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (35)
 - ※ 授業科目のコード番号について (36)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (37)
2. 履修届記入上の注意 (38)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (39)
4. 授業時間 (40)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (41)
2. 中間試験 (41)
3. 追・再試験 (41)
4. 受験心得 (42)
5. 成績評価・単位認定 (42)

6. 試験時間	(42)
7. 成績発表	(43)
VI 進級について	(44)
VII クラス制およびクラス主任	(45)
VIII 教職課程・資格講座	(45)
IX 事務取扱いについて	
1. 事務室の事務受付時間	(46)
2. 休 講	(46)
3. 掲示・連絡	(46)
4. 問い合わせ	(46)
X 学籍について	
1. 修業年限と在学年数	(47)
2. 休 学	(47)
3. 復 学	(47)
4. 退 学	(48)
5. 除 籍	(48)
6. 懲 戒	(48)
7. 編 入 学	(48)
8. 再 入 学	(48)
9. 転部・転科	(48)
10. 留 学	(49)
11. 学生氏名・保証人	(49)
12. 学生番号	(49)
XI 既修得単位の認定について	(50)
XII 届書・願書について	(51)
XIII 各種証明書取扱い窓口	(52)
試験実施規程（抜粋）	(53)
講義内容	(55)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	28	} 128以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	12	36	72	
	選 択		28		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

英米文学科

A. 平成3年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	16	
	第2外国語	3	6		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 平成2年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		2	8	8	
専 門 教 育 科 目	必 修	6	16	72	
	選 択		48		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

歴史学科

[日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻]

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

[考古学専攻]

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	10	38	72	
	選択		26		
	卒業論文(必修)		8		

社会学科
〔社会学コース〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	13	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔心理学コース〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	8	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（火）～6月10日（木）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（水）～10日（金）正午まで（教務部⑥番・臨時窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い合否を判定する。

口頭試問日 2月4日（金）

3. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

	国文学科	………	学 士（国文学）
	英米文学科	………	学 士（英米文学）
文学部	地理学科	………	学 士（地理学）
	歴史学科	………	学 士（歴史学）
	社会学科	………	学 士（社会学）

Ⅲ 授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科とも「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 各学科とも2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英米文学科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地理学科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴史学科	16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社会学科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人 文 分 野			社 会 分 野				自 然 分 野				
	授 業 科 目	単 位	修得単位	授 業 科 目	単 位	修得単位	備 考	授 業 科 目	単 位	修得単位		
国 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修		
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4			
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4			
	歴 史 学	4		地 理 学	4							
	芸 術 学(日本美術)	4										
	芸 術 学(西洋美術)	4										
	芸 術 学(音 楽)	4										
英 米 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修		
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4			
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4			
	歴 史 学	4		地 理 学	4							
	芸 術 学(日本美術)	4										
	芸 術 学(西洋美術)	4										
	芸 術 学(音 楽)	4										
地 理 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。	数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修		
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			物 理 学	4			
	哲 論 学	4		社 会 学	4			化 学	4			
	文 学	4		文 化 人 類 学	4			生 物 学	4			
	芸 術 学(日本美術)	4										
	芸 術 学(西洋美術)	4										
	芸 術 学(音 楽)	4										
歴 史 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修		
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			地 学	4			
	哲 論 学	4		社 会 学	4			心 理 学	4			
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4			
	芸 術 学(日本美術)	4										
	芸 術 学(西洋美術)	4										
	芸 術 学(音 楽)	4										
社 会 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修		
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		政 治 学	4			生 物 学	4			
	論 理 学	4		経 済 学	4			地 学	4			
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4			
	歴 史 学	4										
	芸 術 学(日本美術)	4										
	芸 術 学(西洋美術)	4										
	芸 術 学(音 楽)	4										

※「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
2年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
3年次	—	—	1(1)	2(2)	—	—	—	—	—	—
計	4	8	5(5)	10(10)	4	8	4	8	4	8

第2外国語

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
2年次	—	—	1(-)	2(-)	—	—	—	—	—	—

※（ ）内数字は、英米文学科平成2年度以前入学生適用

1年次の履修

6か国語のうち英語 I A・I Bの2科目と、入学手続の際に指定した英語以外の外国語 I A・I Bの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 I A	2		I A・I Bの2科目を必修とする。ただし I Aは「英会話 I (定員40名)」または「英語 LL I (定員30名)」に振り替えることができる。(ただし英米文学科は「英会話 I」に振り替えてできない。)なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 I B	2		
英会話 I	2		
英語 LL I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 I A	2	文法	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語 I A・I Bの2科目を必修とする。
ドイツ語 I B	2	講読	
フランス語 I A	2	文法	
フランス語 I B	2	講読	
中国語 I A	2		
中国語 I B	2		
スペイン語 I A	2		
スペイン語 I B	2		
ロシア語 I A	2		
ロシア語 I B	2		

※ 英語科目内容

英語 I A：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 I B：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語 I B」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2か国語のうち、いずれかを第1外国語としてⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とする。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。また、英米文学科（平成3年度以降入学生）は、1年次履修の英語以外の外国語を第2外国語としⅡAの1科目2単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 Ⅲ	2	講 読	1 科 目 必 修

※「英語Ⅲ」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスで履修すること。
- ロ. 1年次の9月24日（金）～30日（木）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1か国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。（ただし、英米文学科は『英語』のため登録の必要はない。）なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。
また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、登録は必ず行うこと。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.34参照）。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次 通 年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

基礎教育科目とは専門教育の基礎となる授業科目で、各年次別履修順序は次表のとおりである。

年次	国 文 学 科		英 米 文 学 科		地 理 学 科		歴 史 学 科		社 会 学 科	
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉原論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会 話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会 話)	2						

(注意) 「社会福祉原論」は「社会福祉概論」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科	地理学科	歴史学科		社会学科		
				日本史 東洋史 西洋史	考古学	社会学	社会福祉	心理学
必修科目	36(12)	28(7)	16(6)	32(8)	38(10)	48(12)	48(13)	28(8)
選択科目	28	36	48	32	26	16	16	36
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72

※（ ）内の数字は科目数

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国 文 学 講 読 I	2		国 文 学 研 究	4	
2 年 次 必 修			国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 { 3 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 以 外 を 履 修 す る こ と 。 }
国 語 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 古)	4	
国 文 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 世)	4	
国 文 学 講 読 II	2		国 文 学 史 (近 世)	4	
中 国 文 学 講 読	2		国 文 学 史 (近 代)	4	
3 年 次 必 修			国 語 学 演 習 II	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 { 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と 。 }
国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	国 文 学 演 習 II (上 代)	2	
国 文 学 史 (中 古)	4		国 文 学 演 習 II (中 古)	2	
国 文 学 史 (中 世)	4		国 文 学 演 習 II (中 世)	2	
国 文 学 史 (近 世)	4		国 文 学 演 習 II (近 世)	2	
国 文 学 史 (近 代)	4		国 文 学 演 習 II (近 代)	2	
国 語 学 研 究	4		卒 業 論 文	8	7 頁 参 照
国 文 学 講 読 III	2				
国 語 学 演 習 I	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 { 原 則 として 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と 。 }			
国 文 学 演 習 I (上 代)	2				
国 文 学 演 習 I (中 古)	2				
国 文 学 演 習 I (中 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 代)	2				

(注意) 3年次で「国文学演習 I」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習 II」を、また3年次で「国語学演習 I」を履修した者は4年次でも「国語学演習 II」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A	上 代 文 学	4		国 学 学 特 講 II	4	
	中 古 文 学	4		国 学 学 特 講 III	4	
	中 世 文 学	4		国 学 学 特 講 IV	4	
	近 世 文 学	4		国 学 学 史 (上 代)	4	選 択 科 目 と し て 履 修 を 希 望 す る 者 は 必 修 と し た 科 目 以 外 を 3 年 次 ま た は 4 年 次 で 履 修 す る こ と。
	近 代 文 学	4		国 学 学 史 (中 古)	4	
	国 語 史	4	休 講 } 隔 年 開 講	国 学 学 史 (中 世)	4	
	国 語 学 史	4		国 学 学 史 (近 世)	4	
	文 学 概 論	4	休 講	国 学 学 史 (近 代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	
	有 職 故 実	4		近 代 文 学 講 読	2	
国 学 学 特 講 I	4					

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B	中 国 文 学	4		日 本 民 俗 学	4	
	中 国 文 学 演 習	4		現 代 美 術	4	
	中 国 文 学 概 論	4		書 道 実 習 I	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 II	4	
	英 米 文 化	4		書 道 概 論 (書 論 ・ 鑑 賞)	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 I	4	古 代 ・ 中 世	書 道 実 習 III	2	
	日 本 史 概 説 II	4	近 世 ・ 近 代	書 道 史	2	半 期 科 目
	日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	編 集 実 務	2	半 期 科 目
	日 本 文 化 史 II	4				

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上、「B群」より2科目以上選び履修されたい。

[廃講科目]

美 術 史

英米文学科

必修科目

A. 平成2年度以降入学生適用 (36単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
英 語 音 声 学	4		米 文 学 演 習 II	4	休 講	
2 年 次 必 修			米 文 学 演 習 III	4		
英 語 学 概 論	4		英米語学演習 (言語学)	4		
英 作 文 I	4		英米語学演習 (音声学)	4		
3 年 次 必 修			英米語学演習 (英語史)	4		
英 語 史	4		4 年 次 必 修			
英 文 学 演 習 I	4	} 1科目4単位選択必修	卒 業 論 文	8	7頁参照	
英 文 学 演 習 III	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修			
英 文 学 演 習 V	4		英 文 学 史 I	4	} 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修	
英 文 学 演 習 VI	4		英 文 学 史 II	4		
英 文 学 演 習 VII	4		米 文 学 史	4		
米 文 学 演 習 I	4					

B. 平成元年度以前入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 学 概 論	4		卒 業 論 文	8	7頁参照
英 作 文 I	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			英 文 学 史 I	4	} 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
音 声 学	4		英 文 学 史 II	4	
英 語 史	4		米 文 学 史	4	
シェイクスピア	4				

選 択 科 目 (36単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 特 講 I	4	2・3・4		米 文 学 演 習 VI	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II	4	2・3・4		英 米 演 劇 演 習	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 III	4	2・3・4		時 事 英 語	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV	4	2・3・4		商 業 英 語	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 V	4	2・3・4		ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI	4	2・3・4		英 米 文 化	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I	4	2・3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	} 隔年開講 休講
米 文 学 特 講 II	4	2・3・4		日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III	4	2・3・4		現 代 美 術	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 IV	4	2・3・4	休講	英 文 学 演 習 I	4	3・4	}
米 文 学 特 講 V	4	2・3・4		英 文 学 演 習 III	4	3・4	
英 米 演 劇 特 講	4	2・3・4		英 文 学 演 習 V	4	3・4	
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		英 文 学 演 習 VI	4	3・4	
英 米 語 学 演 習 (英作文Ⅱ)	4	3・4		英 文 学 演 習 VII	4	3・4	※イ、ロ
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4		米 文 学 演 習 I	4	3・4	
英 文 学 演 習 II	4	2・3・4		米 文 学 演 習 II	4	3・4	
英 文 学 演 習 IV	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III	4	3・4	
英 文 学 演 習 VII	4	2・3・4		英 米 語 学 演 習 (言語学)	4	3・4	休講 旧「英米語学演習(英語学)」
米 文 学 演 習 IV	4	2・3・4	休講	英 米 語 学 演 習 (音声学)	4	3・4	
米 文 学 演 習 V	4	2・3・4	休講	英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4	

※イ. 平成2年度以降入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

※ロ. 平成元年度以前入学生は、3年次または4年次に選択科目として履修できる。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

- イ. 2・3・4年次に演習1科目(4単位)ずつ、あわせて3科目(12単位)を極力履修すること。
- ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。
- ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。
※ 平成2年度以降入学生は、1科目必修のこと。
- ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。
※ 平成2年度以降入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

II) 履修上の注意

- イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に『単位履修届』を提出する前に、受講希望の科目担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。
- ロ. 担当の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地理学科

必修科目(24単位)

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (7頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

(注意) 「地理学演習」および「野外巡検(Ⅰ・Ⅱ)」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部の掲示板および地理学教室の掲示板(体-8前)に掲示するので注意すること。

選 択 科 目 (48単位以上)

2・3・4年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
地 形 学 I	4		地 質 学	4	
集 落 地 理 学	4		地 球 物 理 学	4	休講
郷 土 地 理 学	4		地 形 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		土 壌 地 理 学	4	
交 通 地 理 学	4		環 境 地 理 学	4	
都 市 地 理 学	4		歴 史 地 理 学	4	
地 図 学	4		人 口 地 理 学	4	
日 本 地 誌 I	4		経 済 地 理 学 II	4	
日 本 地 誌 II	4		地 理 学 特 講 I	2	半期科目
外 国 地 誌 I	4		文 化 地 理 学	4	
外 国 地 誌 II	4		計 量 地 理 学	4	
気 候 学	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		日 本 地 誌 III	4	
原 書 講 読	4		外 国 地 誌 III	4	
			応 用 地 理 学 I	4	
			応 用 地 理 学 II	4	

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学（I・II）」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学（I・II）」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科

歴史学科学生が希望する各専攻については、1年次の9月24日（金）～25日（土）に、「歴史学科専攻指定届」を教務部に提出すること。

必修科目

(1) 日本史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考古学）に振り替えれる。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ（古代・中世）	4		演習Ⅱ（日本史）	4	
日本史概説Ⅱ（近世・近代）	4		卒業論文	8	7頁参照
東洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4	2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
西洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
西洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
考古学概説Ⅰ（日本）	4				
考古学概説Ⅱ（外国）	4				

(2) 東洋史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（東洋史）	4	演習Ⅰ（考古学）に振り替えれる。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4		演習Ⅱ（東洋史）	4	
東洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4		卒業論文	8	7頁参照
日本史概説Ⅰ（古代・中世）	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
西洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
西洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
考古学概説Ⅰ（日本）	4				
考古学概説Ⅱ（外国）	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	7頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻 (46単位)

2・3・4年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古学実習(写真)	4	1科目4単位 選択必修
考古学史	4		考古学実習(測量)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学実習(石器)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修	3年次必修		
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		考古発掘実習	2	
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰを振り替える。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	7頁参照

選 択 科 目（2年次以降の履修科目）

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻（32単位以上）

考古学専攻（26単位以上）

授 業 科 目	単位	備 考	授 業 科 目	単位	備 考
日 本 史 各 説 I	4		東洋史特講 I（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 II	4		東洋史特講 II（古 代）	4	
日 本 史 各 説 III	4		東洋史特講 III（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 IV	4		東洋史特講 IV（中 世）	4	休 講
東洋史各説 I（古 代）	4	休 講	東洋史特講 V（中 世）	4	
東洋史各説 II（古 代）	4		東洋史特講 VI（中 世）	4	休 講
東洋史各説 III（中 世）	4	休 講	東洋史特講 VII（近 世）	4	休 講
東洋史各説 IV（中 世）	4		東洋史特講 VIII（近 世）	4	
東洋史各説 V（近 世）	4		東洋史特講 IX（近 世）	4	休 講
東洋史各説 VI（近 世）	4	休 講	東洋史特講 X（近・現代）	4	
東洋史各説 VII（近・現代）	4		東洋史特講 XI（近・現代）	4	
東洋史各説 VIII（周 辺 史）	4		東洋史特講 XII（近・現代）	4	休 講
東洋史各説 IX（周 辺 史）	4		東洋史特講 XIII（周 辺 史）	4	
東洋史各説 X（周 辺 史）	4		東洋史特講 XIV（周 辺 史）	4	休 講
西 洋 史 各 説 I	4		東洋史特講 XV（周 辺 史）	4	
西 洋 史 各 説 II	4	休 講	西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4		西 洋 史 特 講 II	4	休 講 } 隔年開講
西 洋 史 各 説 IV	4	休 講	西 洋 史 特 講 III	4	
考 古 学 各 説 I	4	休 講	西 洋 史 特 講 IV	4	
考 古 学 各 説 II	4	休 講	西 洋 史 特 講 V	4	休 講
考 古 学 各 説 III	4		西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4		西 洋 各 国 史 II	4	
日本史特講 I（古 代）	4	休 講	西 洋 各 国 史 III	4	休 講
日本史特講 II（中 世）	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日本史特講 III（中 世）	4		考 古 学 特 講 I	4	休 講
日本史特講 IV（近 世）	4		考 古 学 特 講 II	4	
日本史特講 V（近 世）	4		考 古 学 特 講 III	4	休 講 } 隔年開講
日本史特講 VI（近 代）	4		考 古 学 特 講 IV	4	
日本史特講 VII（近 代）	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		哲 学 史	4	
古 文 書 講 読 II	4		歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4		仏 教 美 術	4	
日 本 仏 教 史 II	4	休 講	西 域 美 術 史	4	
日 本 仏 教 史 III	4	休 講	美 術 史 概 説	4	
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔年開講	ラ テ ン 語 特 講	4	
日 本 文 化 史 II	4		演 習 I	4	※イ ※ロ 選択科目として履修を希望する科目は、必修科目として履修した科目以外の科目を履修すること。
西 洋 文 化 史 I	4	休 講	演 習 II	4	
西 洋 文 化 史 II	4	休 講	日本史概説 I (古代・中世)	4	
西 洋 文 化 史 III	4		日本史概説 II (近世・近代)	4	
考 古 学 実 習 (写 真)	4	選択科目として履修を希望する科目は、必修科目として履修した科目以外の科目を履修すること。 ※イ	東洋史概説 I (古代・中世)	4	
考 古 学 実 習 (測 量)	4		東洋史概説 II (近世・近代)	4	
考 古 学 実 習 (石 器)	4		西洋史概説 I (古代・中世)	4	
考 古 学 実 習 (土 器)	4		西洋史概説 II (近世・近代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		考古学概説 I (日 本)	4	
有 職 故 実	4		考古学概説 II (外 国)	4	
中 国 歴 史 文 学	4		日 本 史 学 史	4	
日 本 民 俗 学	4		東 洋 史 学 史	4	
歴 史 地 理 学	4		西 洋 史 学 史	4	
人 文 地 理 学 概 説	4		考 古 学 史	4	
地 誌 学	4				

※イ. 3年次の履修科目

※ロ. 4年次の履修科目

(注意) 歴史学科の学生は、2年次の外国語科目履修指定届(1年次の9月24日~30日提出)を提出する際、次のように指定すること。

- (1) 日本史専攻希望者(日本考古学を含む)
1年次に履修中の外国語の中、何れかを第1外国語として指定。
- (2) 東洋史専攻希望者
中国語または英語を、第1外国語として指定。
- (3) 西洋史専攻希望者
ドイツ語またはフランス語を、第1外国語として指定。
- (4) 東洋考古学専攻希望者
中国語または英語を、第1外国語として指定。

社会学科（1年次の9月24日（金）～25日（土）に専攻コース決定のための届け出を行うこと。）

(1) 社会学コース

必修科目 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	休講 5科目20単位 選択必修
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習Ⅰ	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習Ⅱ	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	7頁参照	外書講読Ⅰ	4	
			外書講読Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅰ	4	
			社会学特講Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅲ	4	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

(2) 社会福祉コース
必修科目 (56単位)

2 年 次 必 修			2 ・ 3 ・ 4 年 次 必 修				
授 業 科 目	単 位	備 考	部 門	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会福祉調査論	2		方法・ 援助技術部門	社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※ 3科目12単位 選択必修	
社会福祉援助技術総論	4	※		社会福祉援助技術各論ⅠB	4		※
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※		社会福祉援助技術各論ⅡA	4		※
法 学 (福 祉)	4	*		リハビリテーション論	4		
				社会福祉計画論	4		
				社会福祉運営論	4		
3 年 次 必 修			分 野 部 門	家 族 福 祉 論	4	* 3科目12単位 選択必修	
演 習 I	4	社会福祉		児 童 福 祉 論	4		*
社会福祉調査実習	2			障 害 者 福 祉 論	4		*
				老 人 福 祉 論	4		*
4 年 次 必 修				地 域 福 祉 論	4		*
演 習 II	4	社会福祉		公 的 扶 助 論	4		*
卒 業 論 文	8	7頁参照		医 療 福 祉 論	4		
				婦 人 福 祉 論	4		
			保 健 福 祉 論	4			

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【注】イ. 本カリキュラムは『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づいている。

ロ. ※印および*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ハ. 3年次選択科目の「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」および「社会福祉援助技術演習(I・II)」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

ニ. 「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」(2年次選択科目)および「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」(3年次選択科目)の履修時には、本学が定める実習費を別に納入しなければならない。

なお、社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」および「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」の両方を卒業時まで単位修得していなければならない。また、両科目の単位を修得した者については、成績証明書の上では両科目を合わせて「社会福祉援助技術現場実習」(6単位)と表記される。

選 択 科 目 (16単位以上) (2年次以降の履修科目)

2 年 次 選 択			2・3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	2	※旧「社会福祉援助技術実習」	社 会 保 障 論	4	*
			社 会 福 祉 発 達 史	4	
3 年 次 選 択			社 会 福 祉 外 書 講 読	4	
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	4	※旧「社会福祉援助技術現場実習」	海 外 社 会 福 祉 論	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	社 会 学 (福 祉)	4	*
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	心 理 学 (福 祉)	4	*
			医 学 一 般	4	※
2・3・4 年 次 選 択			介 護 概 論	4	※
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障 害 児 教 育 原 論	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障 害 児 教 育 方 法 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障 害 児 病 理	4	休 講
リハビリテーション論	4		障 害 児 心 理	4	休 講
社 会 福 祉 計 画 論	4		家 族 社 会 学	4	休 講
社 会 福 祉 運 営 論	4		法 社 会 学	4	
家 族 福 祉 論	4		産 業 社 会 学	4	
児 童 福 祉 論	4	* (注)	社 会 病 理 学	4	
障 害 者 福 祉 論	4	*	心 理 検 査 法 Ⅰ	4	旧「心理検査法」
老 人 福 祉 論	4	*	環 境 心 理 学	4	旧「グループ・ダイナミクス」
地 域 福 祉 論	4	*	カ ウ ン セ リ ン グ	4	
公 的 扶 助 論	4	*	精 神 医 学	4	
医 療 福 祉 論	4		図 書 館 学 Ⅰ	4	
婦 人 福 祉 論	4		図 書 館 学 Ⅱ	4	
保 健 福 祉 論	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		労 働 法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		民 法	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		経 済 原 論	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。
「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
心 理 検 査 法 I	心 理 検 査 法
環 境 心 理 学	グ ル ー プ ・ ダ イ ナ ミ ッ ク ス
社会福祉援助技術現場実習 I	社会福祉援助技術実習
社会福祉援助技術現場実習 II	社会福祉援助技術現場実習

(3) 心理学コース
必修科目 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ (実習)	2	休 講 1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ (実習)	2	
心理学実験 (実習)	2		心理学研究Ⅴ (実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	心理学研究Ⅵ (実習)	2	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 (2 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として履修した科目 以外を履修すること。)
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ (実習)	2		演 習	4	
心理学研究Ⅱ (実習)	2		卒 業 論 文	8	7 頁 参 照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

選 択 科 目 (36単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単位	備 考	授 業 科 目	単位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	} 必修として履修した科目以外を履修すること。	心 理 学 特 講 I	4	
基 礎 心 理 学 II	4		心 理 学 特 講 II	4	
基 礎 心 理 学 III	4		心 理 学 特 講 III	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		精 神 医 学	4	
基 礎 心 理 学 V	4		情 報 処 理 I	4	旧「心身医学」
心 理 学 研 究 I (実 習)	2	} 休 講 3・4年次選択 3年次で必修とした 科目以外を履修する こと。	情 報 処 理 II	4	旧「精神病理学」
心 理 学 研 究 II (実 習)	2		宗 教 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 III (実 習)	2		産 業 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 IV (実 習)	2		家 族 社 会 学	4	休 講
心 理 学 研 究 V (実 習)	2		社 会 病 理 学	4	
心 理 学 研 究 VI (実 習)	2		マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	4	
生 理 心 理 学	4		社 会 福 祉 援 助 技 術 総 論	4	
児 童 心 理 学	4		障 害 者 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
環 境 心 理 学	4	旧「グループ・ダイナミクス」	児 童 福 祉 論	4	
カ ウ ン セ リ ン グ	4		民 法	4	
心 理 検 査 法 I	4	旧「心理検査法」	経 済 原 論	4	
心 理 検 査 法 II	4		行 政 法	4	
禅 心 理 学	4		労 働 法	4	

(注意) 2年次における「基礎心理学I～V」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
環 境 心 理 学	グ ル ー プ ・ ダ イ ナ ミ ッ ク ス
情 報 処 理 I	心 身 医 学
情 報 処 理 II	精 神 病 理 学
心 理 検 査 法 I	心 理 検 査 法

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.33参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，必ず最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。

なお，『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は，教務部⑩番窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（単位履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.34）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開 設 科 目	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	開 設 科 目	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
禅学 科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		経済 学 科	ロシア・東欧経済論	4	3・4	※イ
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			社会政策	4	3・4	社会学科除く
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			国民所得論	4	3・4	
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			中国経済論	4	3・4	
	禅学思想史	4	3・4			アジア経済論	4	3・4	
	哲学史	4	3・4	歴史学科除く		日本経済史	4	3・4	
仏教 学 科	インド仏教史	4	3・4		中小企業論	4	3・4		
	中国仏教史	4	3・4		教育経済論	4	3・4	地理学科除く	
	日本仏教史	4	3・4		アメリカ経済論	4	3・4		
	日用経典	4	3・4		財務会計論	4	3・4		
	仏教美術	4	3・4	歴史学科除く	管理会計論	4	3・4		
国文 学 科	現代哲学概説	4	3・4		会計監査論	4	3・4		
	上代文学	4	3・4	国文学科除く	商業政策	4	3・4		
	中世文学	4	3・4	国文学科除く	貿易論	4	3・4		
	近世文学	4	3・4	国文学科除く	マーケティング	4	3・4		
	近代文学	4	3・4	国文学科除く	原価計算論	4	3・4		
	中国文学	4	3・4	国文・歴史学科除く	労務管理論	4	3・4		
英米 文 学 科	英文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く	商 学 科	行政法Ⅱ	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4	英米文学科除く		民法Ⅳ(1)	4	3・4	社会学科除く
	英文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く		民法Ⅳ(2)	4	4	
	英文学特講Ⅳ	4	3・4	英米文学科除く		比較憲法	4	3・4	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4	英米文学科除く		地方自治法	4	3・4	休講
	英文学特講Ⅵ	4	3・4	英米文学科除く		経済法	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4	英米文学科除く		国際関係論	4	3・4	
	米文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く		西洋政治史	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く		宣伝広告論	4	3・4	
地理 学 科	時事英語	4	3・4	英米文学科除く	比較社会構造論	4	3・4	休講	
	地質学	4	3・4	地理学科除く	政党論	4	3・4		
	地形学Ⅰ	4	3・4	地理学科除く	国際経営論	4	3・4		
	人口地理学	4	3・4	地理学科除く	経営統計	4	3・4		
	応用地理学Ⅰ	4	3・4	地理学科除く	保険経営論	4	3・4		
歴史 学 科	文化地理学	4	3・4	地理学科除く	財務会計論	4	3・4		
	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	歴史学科除く 休講	経営分析論	4	3・4		
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4	歴史学科除く	税務会計論	4	3・4		
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	歴史学科除く	経営労務論	4	3・4		
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4	歴史学科除く 休講	商業史	4	3・4		
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	歴史学科除く 隔年開講・休講	短大 国 文 学 科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	国文学科除く
	歴史哲学	4	3・4	歴史学科除く		国文講読Ⅱ(中古)	2	3・4	国文学科除く
	哲学史	4	3・4	歴史学科除く		国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	国文学科除く
	日本民俗学	4	3・4	歴史・国文学科除く		国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4	国文学科除く
マスコミュニケーション	4	3・4	社会学科除く	国文講読Ⅴ(近・現代)		2	3・4	国文学科除く	
社会 学 科	産業社会学	4	3・4	社会学科除く	国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4	国文学科除く	
	都市社会学	4	3・4	社会学科除く	短英 文 大 科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	国文学科除く
	社会福祉発達史	4	3・4	社会学科除く		時事英語	4	3・4	国文・英米文学科除く
						英語演習Ⅰ	4	3・4	
				短放 射 線 大 科	計算機言語概論	2	3・4	国文学科除く 半期科目 ※ロ	
					臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	国文学科除く 半期科目	
					応用計測学	2	3・4	国文学科除く 半期科目	

※イ。「ロシア・東欧経済論」旧「ソビエト経済論」ソビエト経済論の単位を修得した学生は履修できない。

※ロ。計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
宗教学概説	4		日本仏教史	4	※イ	ドイツ語FLL(中級)	2	
哲学概説	4		日本文化史Ⅰ	4	※ニ 休講 } 隔年 開講	フランス語FLL(初級)	2	
倫理学概説	4		日本文化史Ⅱ	4		フランス語FLL(中級)	2	
宗教人類学	4		英会話Ⅱ	2	※ハ	中国語FLL(初級)	2	
民間信仰論	4		ドイツ語F	2		中国語FLL(中級)	2	
日本宗教文化史	4		フランス語F	2		スペイン語FLL(初級)	2	
民衆宗教成立史	4		中国語F	2		スペイン語FLL(中級)	2	
歴史哲学	4	※イ	スペイン語F	2		ロシア語FLL(初級)	2	
日本民俗学	4	※ロ	ロシア語F	2		ロシア語FLL(中級)	2	
美術史概説	4	※ロ	英語LLⅡ	2	※ハ	英語(海外演習)	2	※ホ
東洋思想研究	4	※ハ	ドイツ語FLL(初級)	2				

※イ. 歴史学科を除く。

※ロ. 国文・歴史学科を除く。

※ハ. 国文学科を除く。

※ニ. 国文・英米文・歴史学科を除く。

※ホ. 「英語(海外演習)」は、海外姉妹校で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.71)を参照のこと。

※ハ. 「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新規修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語科目・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。なお、外国語科目の再履修は『外国語再履修科目授業時間表』(教務部@番窓口で配布)から履修し、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けること。ただし、原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。この場合の外国語科目は、『外国語再履修票』を必要としない。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で，原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は，各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は，外国語科目の卒業所要単位に算入する。
 - 日本事情科目の修得単位は，8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
 - 各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は，これを随意科目として単位認定する。
- （注）詳細は，『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.49参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修)・2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	2
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1・2・3
選 択 科 目		5・6・7・8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3・4・5・6・7・8

Ⅳ 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ，随意科目は，上記表の制限外とする。

（注）再度履修する科目であっても，前年度において履修登録していない場合は，新履修科目数に含める。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けなが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

ニ. 課程・講座科目を履修する場合

認める …… 新履修制限科目数 14科目以内+課程・講座科目数=18科目

認めず …… 新履修制限科目数 15科目以上+課程・講座科目数=18科目

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し，指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部⑨番窓口で相談すること。）

ロ. 履修届は，4月21日(水) 9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.33参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は『課程・各種講座授業時間表』（教職係窓口で配布）から履修し，教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. いったん提出（登録）した履修科目の変更は認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

III) 履修確認表の配布

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

（記）5月13日(水)・14日(木) …… 9:30～16:00 昼休み除く

履修届（本人控）と照合の上，誤りのある場合は，5月15日(金)～18日(月)までに教務部⑨番窓口で

訂正すること。

※ 受付時間（9：30～16：00 昼休み除く，土曜日は9：30～正午まで）

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

正しい記入例

曜日	時限	科目名	科目コード	担当者名	担当者コード
月	1	ドイツ語 I A	212201	百 済 勇	879
月	2	保健体育理論 (前期)	214201	長 濱 友 雄	A10
		保健体育理論 (後期)			622
月	3	宗 教 学 I	210101	岡 部 和 雄	157
月	4	論 理 学	210203	国 嶋 一 則	306
月	5	自然科学概論	210401	宇和川 正人	104

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担当	担当コード
	1		ドイツ語 I A	2 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論 (前期)	2 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
月	3		宗 教 学 I	2 1 0 1 0 1	岡 部	1 5 7
(1)	4	○	論 理 学	2 1 0 2 0 3	国 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	2 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。

ニ. 半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線（上記、正しい記入例参照のこと）を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

- (1) 科目名・科目コード，担当名（姓のみ）・担当コードが一致しない場合
- (2) 時限を誤って記入した場合
- (3) 判読できない数字で記入した場合（例として間違い易い数字 0と6，1と7）
- (4) その他，不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名（姓のみ）・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	専門教育科目	英語音声学（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

地理学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

歴史学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

社会学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技I (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉原論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
1年次履修制限科目数			15

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日（水）～7月20日（火）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月17日（月）～2月3日（木）に実施する。
 - ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。
 - ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。
なお、指定された日・時以外は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

- イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月23日（金）、後期2月4日（金）〕
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目1,000円とする。
（注意）前期終了科目の追・再試験は9月25日（土）～10月1日（金）に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日（水）～3月1日（火）に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机の上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間(前期)		定期試験実施時間(後期)	
1時限 9:20～10:20	4時限 14:40～15:40	1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30
2時限 10:50～11:50	5時限 16:10～17:10	2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50
3時限 13:10～14:10		3時限 13:00～14:00	

追・再試験実施時間（前期）	
1時限	16：10～17：00
2時限	17：10～18：00

追・再試験実施時間（後期）	
1時限	9：30～10：20
2時限	10：50～11：40
3時限	13：00～13：50
4時限	14：10～15：00
5時限	15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.53）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表	9月16日（木）、17日（金）
後期成績発表（卒業年次生）	2月17日（木）、18日（金）
” （在校生）	4月9日頃

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
 ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	〃	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

IX 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月20日	I期(前期)分納入済のこと。(II期分免除)
9月21日～11月30日	I期(前期)分・II期(後期)分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、I期(前期)学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業生（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部の他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可することがある。

ただし、編入学生の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することができる。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

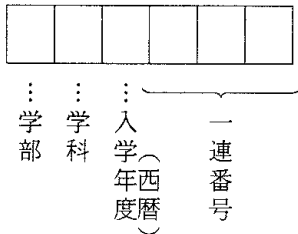
11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づき J I S 第 1 水準・第 2 水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

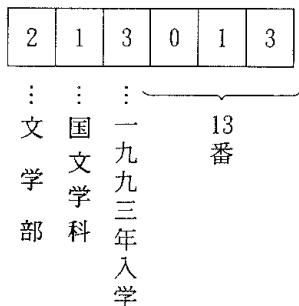
12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は 6 桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1993年度入学・文学部
国文学科13番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願出しなければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

XII 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類		要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届	単 位 履 修 届	・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること	要	不要	掲示
	欠 試 届	・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること （締切日は掲示参照）	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	・所定用紙あり ・掲示板にて指示	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後 1 週間以内	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県 名）変更届	・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後 1 週間以内	要	不要	
	保証人変更届	・所定用紙あり ・在学誓書（保証書）添付	要	要	
	保証人住所変更届	・所定用紙あり ・変更後 1 週間以内	要	不要	
死 亡 届	・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類（写し可）添付	/	要		
願 書	休 学 願	・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書	要	要	⑤
	復 学 願	・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・4月10日までに提出すること	要	要	
	退 学 願	・所定用紙あり ・学生証添付	要	要	

ⅩⅧ 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書	就 職 部	
人 物 考 査 書		
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

※ 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間審査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講義内容目次

一般教育科目（共通）	（ 58）
保健体育科目（共通）	（ 65）
随意科目（共通）	（ 66）
国文学科	（ 73）
英米文学科	（ 84）
地理学科	（ 94）
歴史学科	（105）
社会学科	（121）
他学部履修科目（共通）	（139）

〔卷末〕

教職および資格講座

一般教育科目（共通）

保健体育理論（再クラス）（宮沢 栄作）……………65

人文分野

宗教学Ⅰ（佐々木 宏幹）……………58
 宗教学Ⅰ（洗 建）……………58
 宗教学Ⅰ（山岡 隆晃）……………58
 宗教学Ⅰ（佐藤 憲昭）……………58
 宗教学Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）……………58
 宗教学Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）……………58
 宗教学Ⅱ（青竜 宗二）……………59
 宗教学Ⅱ（峰岸 孝哉）……………59
 宗教学Ⅱ（河村 孝道）……………59
 宗教学Ⅱ（原田 弘道）……………59
 宗教学Ⅱ（石井 修道）……………59
 哲学（戸田 洋樹・大石 紀一郎）……………59
 論理学（久保 陽一・片桐 茂博）……………59
 歴史学（粟野 俊之）……………60
 文学（平野 由紀子）……………60
 芸術学（日本美術）（松平 美和子）……………60
 芸術学（西洋美術）（宮崎 克己）……………60
 芸術学（音楽）（赤羽 由規子）……………60

社会分野

法学憲法（和知 恵一）……………60
 法学憲法（鶏徳 啓登）……………61
 経済学（徳永 俊明）……………61
 経済学（光岡 博美）……………61
 政治学（小林 正敏）……………61
 社会学（橋爪 敏）……………61
 文化人類学（蒲原 大作）……………62
 地理学（小田 匡保）……………62
 地理学（矢野 陽子）……………62

自然分野

自然科学概論（宇和川 正人）……………62
 自然科学概論（綾野 雄幸）……………62
 数学（神田 茂雄）……………62
 生物学（清水 善和）……………62
 生物学（中村 敏枝）……………63
 心理学（横山 剛）……………63
 心理学（牧野 晋）……………63
 人類学（江藤 盛治）……………63
 地学（中島 義一）……………63
 化学（安部 喜也）……………63
 物理学（篠原 正雄）……………64

随意科目（共通）

宗教学概説（松田 文雄）……………66
 宗教学概説（洗 建）……………66
 哲学概説（篠原 壽雄）……………66
 哲学概説（国嶋 一則）……………66
 倫理学概説（久保 陽一）……………66
 宗教学人類学（佐々木 宏幹）……………66
 民間信仰論（谷口 貢）……………67
 日本宗教文化史（井上 順孝）……………67
 民衆宗教成立史（洗 建）……………67
 歴史哲学（麻生 建）……………67
 美術史概説（中島 亮一）……………67
 東洋思想研究（館野 正美）……………67
 日本仏教史（廣瀬 良弘）……………67
 日本文化史Ⅰ（廣瀬 良弘）……………68
 日本民俗学（谷口 貢）……………68
 英会話Ⅱ（P. A. Bendinelli ・ T. A. Grange
 W. Hubbard ・ D. J. Nolan
 J. K. Wells ・ P. Ziegler）……………68
 英語L LⅡ（T. J. Cogan ・ 岩山 義春
 大庭 直樹）……………69
 ドイツ語F（柴野 博子）……………69
 ドイツ語F L L（初級）（小林 ゲアリンデ）……………69
 ドイツ語F L L（中級）（松岡 晋）……………69
 フランス語F（桑田 禮彰）……………70
 フランス語F L L（初級）（小玉 齊夫）……………70
 フランス語F L L（初級）（M. マルタン）……………70
 フランス語F L L（中級）（M. マルタン）……………70
 中国語F（岩崎 皇）……………70
 中国語F L L（初級）（小川 隆）……………70
 中国語F L L（中級）（松本 丁俊）……………70
 スペイン語F（ソニア・エレロ・ガルシア）……………71
 スペイン語F L L（初級）（ホワン・ナバロ）……………71
 スペイン語F L L（中級）（ホワン・ナバロ）……………71
 ロシア語F（杉山 秀子）……………71
 ロシア語F L L（初級）（廣田 英靖）……………71
 ロシア語F L L（中級）（滝川 ガリーナ）……………71
 英語（海外演習）……………71

保健体育科目（共通）

保健体育理論（森本 葵）……………65
 保健体育理論（竹田 幸夫）……………65
 保健体育理論（江口 淳一）……………65
 保健体育理論（再クラス）（田中 佳孝）……………65

一般教育科目(共通)

人文分野

宗教学 I

佐々木 宏 幹

講義はつぎのように展開される。(1)宗教は諸文化のなかでどのような位置を占め、また社会的にどのような役割を果たしているか、(2)宗教をめぐるどのような学説が唱えられたか、(3)世界にはどのような宗教形態があるか、(4)仏教はどのような特色をもつ宗教か、(5)日本の宗教と日本人との関係はどうなっているか。具体的な事例を挙げて考察する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗教学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗教学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象である。宗教は時代を超えて、人間社会の様々な場面で重要な役割を演じ続けてきた。人間はなぜ宗教を必要とし、宗教は人間にとってどのような意味をもち、個人または社会に対していかに機能してきたか。宗教の起源や構造・機能をめぐる学説を概観することにより、宗教に関する基礎的な理解を深めると

もに、人間理解の一助としたい。また、様々な宗教が共存する日本の宗教についても考えてみたい。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

¥2,000

宗教学 I

佐 藤 憲 昭

呪術=宗教は、人間・社会にとってどのような意味と役割をもっているか、他の文化諸領域との関連のもとに考察する。さらに、仏教の基本的な観念や行動についても考えてみたい。

〔教科書〕水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』(世界書院)

佐々木宏幹『仏と霊(タマ)の人類学—仏教文化の深層構造—』(春秋社)

〔参考書〕授業中に適宜紹介する。

宗教学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪廓を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
『仏教の歩んだ道 I』(東京書籍)

宗教学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来うるかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 II

青 竜 宗 二

この講座は「宗教学Ⅰ」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学Ⅱは、宗教学Ⅰを学んだ後を受けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日的意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関わり合いと、そこからの種々の問題について考察する（なお、坐禅も行う）。

〔参考書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

宗 教 学 II

原 田 弘 道

仏教就中禅を中心に講義を進めてゆく。まず禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、人間生活と禅の真理、禅的生活の展開、禅と文化、禅と現代といった問題を順次とりあげてゆく。

そして禅の日常性の構造、公案の意義、禅の人間像、実践規範と順次とりあげる。禅と文化、禅と現代においては、広く禅と芸術、西欧思想と禅との関係等についても触れるつもりでいる。

〔参考書〕水野・柴田編『宗教学ハンドブック』

（世界書院）¥2,000

原田弘道『禅を喝破する』（曹洞宗宗務庁）¥800

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学Ⅱとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Ⅰの後を受けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

¥2,370

哲 学

戸 田 洋 樹・大 石 紀一郎

哲学は生きるための支え、拠り所を求めつつ、同時にそれが確かめられた学問的知識であることを求める。その意味で、哲学は諸学と経験の基礎づけをめざし、それにより生きることを学ぶものである。授業では、最初、この哲学的思索がいかにして行われ、いかなる問いが立てられねばならないか、について一般的な要点を説明する。それを、更に、具体的に過去の哲学の営みを通して検討し、現代的視点から過去の哲学 — 古代ギリシア哲学から現代哲学にいたるまで — の意味を学ぶことにする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

論 理 学

久 保 陽 一・片 桐 茂 博

科学であれ哲学であれ、また日常的な行為においても、正しい論理的思考が求められるが、それを主題的に探求するのが論理学である。授業では、前期では主にアリストテレス以来の伝統的論理学（概念論、判断論、推理論等）を取り上げる。後期では、現代の記号論理学の基礎的内容（命題論

理学と述語論理学)を学ぶ。
〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕その都度指示する。

歴史学

栗野俊之

前半では、日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを概観する。後半では、中世から近世初期の時期を対象として、この時期の社会について、領主と農民の関係、習俗や慣習などさまざまな角度から見て行きたい。
〔教科書〕授業で指示する。

文学

平野由紀子

文学の発生の問題や日本語の表記の歴史をとりあげ、さらに日本文学の原点とも言える万葉集について講義する。具体的には万葉集の歌をよみ、歴史・地理・社会的背景と歌との関係について考えていく。また、万葉集がその後の文学に与えた影響についても考えていく。

〔教科書〕小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）
〔参考書〕金井清一・小野寛編『年表資料上代文学史』（笠間書院）

芸術学（日本美術）

松平美和子

日本美術は常に外来美術の影響を受けて発展して来た。古代から近世にいたる日本美術を東西美術交渉史の中でとらえ、その本質を考えていきたい。

なお、美術史を学ぶ上で実物を見ることは最も大切であるので、講義の中でも実物に近いスライド、図版を多用したい。

〔参考書〕『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

芸術学（西洋美術）

宮崎克己

前期は、ヨーロッパのルネサンスから近代までの絵画史を概観する。後期には、各時代に共通す

る事柄、すなわち自然・空間表現、リアリズム、図像などについて掘り下げて考える。

受講者には、年2～3回、美術館、展覧会の見学、およびレポート提出が要求される。

芸術学（音楽）

赤羽由規子

前期には、明治以来、日本で最高の音楽として学ばれてきた西洋の芸術音楽（クラシック）が、現代においてどのように展開されているかを見て、そこに至る音楽史の流れを簡単にたどる。実際に音楽を沢山聴きながら、わかりやすく講義を進めていくので、受講者は、特に専門的な知識や音楽的な教養を必要としない。

後期には、1960年代から始まった、アジアやアフリカの音楽をも視点に入れた“エスニック”、そして更に“ワールド・ミュージック”への動きについて、やはり音楽を沢山聴きながら考えていく。

なお、第1回目に、オリエンテーションを行うから、必ず出席すること。

〔教科書〕印牧由規子著『現代からの音楽史』（公論社）¥2,700

社会分野

法学憲法

和知恵一

法と聞くと、人によっては、非人間的であると面白味に欠けるといって嫌悪感すら抱く場合もあるようだ。しかし我々の日常生活は、すべてといえる程法的な側面を持っており、人は知らず知らずのうちに法と関わり合っているのである。例えばアパートを借りる契約は借地借家法や民法の規定に従って結ばなくてはならず、1年未満や20年を越える期間の約束は効力を否定されてしまう。また部屋を修繕する費用は誰が負担すべきか、家賃はいつどこで支払うべきかなども民法の中で定められている。この様に実生活に密着している法を、頭っから自分と無縁のものとして決めつけず、一般社会人として身につけるべき教養として法を学んでもらいたい。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著『法学・憲法』

(八千代出版)

『ポケット六法』(有斐閣)

〔参考書〕小林弘人他著『事例法学入門』(東京
教学社), その他授業の中で紹介しま
す。

法 学 憲 法

鷄 徳 啓 登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならぬ問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中枢をなす憲法の理念や原則などについて説明してゆきたいと思う。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著『法学・憲法』
(八千代出版) ¥3,500

〔参考書〕『ケースメソッド現代法学入門』
(圭文社) 等教場にて説明致します。

経 済 学

徳 永 俊 明

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。言い換えれば、「私たちはどのような社会に生きているのか?」という問題です。そして、あらゆる社会の〈土台〉をなしているものが〈経済〉です。

この講義では、私たちが生きている今日の社会の〈土台〉をなす〈資本主義経済〉の基本的な構造を勉強したいと思います。

前期は、今日資本主義経済が直面している主な問題を具体的に観察します。

後期は、それらの問題の根底にある資本主義経済の基本的メカニズムを検討します。

講義はプリントを使ってすすめます。

経 済 学

光 岡 博 美

この授業では、経済学の基礎的な理論について解説する。講義は、戦後日本経済の諸問題について説明し、そこから、現代の経済問題を理解するための“キイ・ワード”とは何かを考えていくといった順番で進めることとする。そのうえで、経済学が、これらの“キイ・ワード”をどのように組み立てて社会を認識してきたのかを、これまでの経済学の理論と歴史のなかから考えていくこととしたい。

そして、再び現代世界の政治経済に目を向け、経済学の理論の世界から、現代という時代がどのように見えてくるのかについて述べてみたい。

〔教科書〕特に使用しない。

〔参考書〕授業のなかで適時指示し、また解説する。

政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会科学の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な視点をも重視したい。

〔教科書〕高橋正則他著『現代日本の政治構造』
(芦書房)

社 会 学

橋 爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』
(学文社)

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

文化人類学

蒲原大作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粋な形で保っていることの多い未開民族（未開社会）が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』（有斐閣双書）

地理学

小田匡保

地理学の大枠を概観した後、特に歴史地理学の諸分野について述べる。後期には、地理学と文学との関わりについても触れたい。

〔教科書〕藤岡・矢守・足利『歴史の空間構造』（大明堂）¥1,600

地理学

矢野陽子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質（地域の特性）を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕『日本地誌』（改訂増補版）¥1,900
地図帳使用。

自然科学分野

自然科学概論

宇和川正人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

綾野雄幸

前半では、自然科学とはどういうものであるか、それは人間の歴史の中でどのようにして生まれ、発展してきたかについて解説し、後半では、日常生活との関連を重視し、私の専門である食を中心に目的を絞り、食べ物について最新の科学・技術、食生活、将来の展望などについて述べる。

〔教科書〕小島道也・伊東正編『食べ物の科学（NHKブックス）』（日本放送出版協会）¥750

数学

神田茂雄

微分・積分の初歩的な事柄をできる限り多くの図を書きながら説明していく。予備知識は高校初年級で十分です。

〔教科書〕小寺平治著『教養数学ポブリー』（裳華房）¥1,648

生物学

清水善和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起原から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦系に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横系に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれてバイオテクノロジー、脳死、生殖革命などの現代的な問題についても言及する。

〔教科書・参考書〕なし

生物学

中村 敏枝

'92年10月、気象庁は「南極昭和基地の上空13-18km層のオゾン濃度がゼロになった」と発表した。私達は破滅への一步を踏み出したのだ。私達にできることは、いかにその瞬間を先に送るかなのだ。人類が救わなければならないのは「地球」ではなく人類自身である。これ以上の地球環境の悪化を防がなくてはならない。

この一年間、生物と環境について考えていきたい。まず生物の営みをいろいろの段階（個体・個体群・生態系）で紹介する。次に環境破壊の幾つかについて、その背後にある社会・経済問題も視野に入れて考察したい。人類が絶滅した恐竜たちと同じ運命をたどらないために、私達はこうしたらよいかを一緒に考えましょう。

〔教科書〕未定

〔参考書〕講義中に紹介します。

心理学

横山 剛

本講義は心理学の主要な領域と心理学の対象・方法について基礎的な知見を与える入門の講義である。内容としては、感覚や知覚、学習、記憶などの基礎の分野から情緒、知能、性格、異常などの応用・臨床的な分野などを解説する。いずれにせよ、学生諸子が己れの理解を深め、複雑な現代の社会現象を見ていく上の一助となれば幸いである。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

〔参考書〕村山貞雄監修、霜山徳爾編『臨床心理学』（学術図書出版）

心理学

牧野 晋

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、人間理解への一つの方法として心理学のとり、「科学的アプローチ」とはどのようなものであるかを考えていく。日常生活において見られる人間の様々な行動について、従来の研究成果をもとに解説しながら、心理学的なものの方、考え方がどのようなものであるかを理解してもらいたい。また講義では、随時供覧実験などを

折り込み、心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

〔参考書〕齋藤 勇編『心理学ビギナーズトピックス100』（誠信書房）

田島信元編『心理学キーワード』（有斐閣双書）

その他、開講時に指示する。

人類学

江藤 盛治

生物としての人類について、自然人類学の視点から考察を加え、文化をもつ唯一の動物といわれている人類を総合的に理解することを目的とする。人類は生物に違いないのか、動物だと言い切ってしまう間違いはないのか。常識とされているはずのことについて検証を加えてみることから始まり、過去から現在に至る道程のなかから、動物としての人類の本質を探り、また人類の将来をみつめてみたい。3本の柱をおく。「進化」「変異」「適応」である。「進化」は長いタイムスパンのなかでの形態的「変異」としてとらえられるが、本質的には「進化」も「変異」も「適応」の所産に他ならない。「文化」とは何かを含めて、人類という特殊な動物にせまってみよう。

教科書は使用しない。参考書は必要に応じてそのつど紹介する。なるべく平易に講義するつもりである。できれば中学校程度の生物学の知識を思い出してくれれば有難い。

地学

中島 義一

地学のはんいは広いが、陸水学・気候学・地形学の主要問題を講義する。地図帳（高校生の時に使用したものでよい）を忘れずに持ってくること。

化学

安部 喜也

前半では原子、分子の概念・構造、物質の化学的特性・化学反応等、基礎的な事項の説明を行う。後半においては資源、エネルギー、環境問題等に

ついて化学的側面から考察を行う。

〔教科書〕伊藤・今井・金井・滝山・水野『基礎
の化学』改訂版（培風館）¥1,730

物 理 学

篠 原 正 雄

「光とは何か」という問を立て、この問をめぐるさまざまな事柄を取り上げる。これは内容を「光学」に限定することを意味しない。17世紀にはこの問題は力学的に議論されたし、19世紀には光が電磁波であることが示された。さらに、熱現象や、今世紀の物理学の二本柱である相対論、量子論とも深く関わっている。この問に導かれて、さまざまな主要な分野を旅することとなる。

数式の使用は極力避け、用いる場合は式の意味をできる限り平易な言葉に置き換えて説明する。

講義の理解を深めていただくために問題を考えていただくこともある。評価は期末の筆記試験と平常点により行う。中間試験を行うこともあり得る。

〔教科書〕教科書は用いない。

〔参考書〕講義の中で必要に応じ適宜紹介する。

保健体育科目（共通）

保健体育理論

森 本 葵

体力づくり

- 〈若年層における体力づくりの必要性〉
- 〈体力のメカニズム〉
- 〈体力づくりの方法〉
- 〈体力づくりにかわる疲労の問題〉
- 〈疲労の判定法〉

オリムピックゲーム

- 〈歴史〉
- 〈問題点〉
- 〈その将来〉

〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

いて学ぶことで“Quality of life”を実践するための基礎を養うことを主眼にしていくつもりである。

保健体育理論（再クラス）

田 中 佳 孝

健康生活を維持する為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を展開する。内容はビタミンの生理作用と薬理作用・ストレス・喫煙と飲酒・身体に良い食物・間違ったダイエット等について話し、AIDSについて識る。

保健体育理論（再クラス）

宮 沢 栄 作

大学保健体育の目的をふまえ、我が国体育の変遷にふれ、併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし、身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理、解剖学的根拠をもって図る。

具体的には、栄養学を含めた体力トレーニング論と、価値あるべきスポーツが、方法を誤ると重大な障害を引き起こすスポーツ障害の原因、予防、更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて、ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

保健体育理論

竹 田 幸 夫

体育・スポーツに関する基礎的な知識についての講義を行なう。とくに、スポーツ運動学の立場から人間の運動の様々な特徴を具体的な例によって解説する。また、現代における社会生活と健康・スポーツとの関わりを考えていく。

〔教科書〕駒沢大学保健体育部編『保健体育概論』（カツサ出版部）¥1,700

〔参考書〕白石 豊編『スポーツ上達の基礎理論』（自由現代社）¥1,200

保健体育理論

江 口 淳 一

現代文明は経済性、利便性、効率性の名の下に人間を身体運動から遠ざけ、結果として運動不足症候群と呼ばれる様々な現象を生んできた。本講義では、このような社会において、より良く、より遅く生きていく為に、人間生活の基本である健康、体力、身体運動に対する理解を科学的アプローチで深め、さらには、運動の文化的意義につ

随 意 科 目 (共 通)

宗教学概説

松 田 文 雄

初めに宗教学の研究方法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕 随時指示する。

それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとして。

哲学思想の基礎的概念や考え方の解明に重点をおく。また書物の読解力を養成するために、教材の重要な箇所を読んで解説する。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 その都度指示する。

倫理学概説

久 保 陽 一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、実存主義等—現代における倫理の問題—国際的正義、生命倫理学—について考えることにしたい。

〔教科書〕 プリント等を配布する。

〔参考書〕 川戸好武他『西洋哲学の歴史』
(公論社)

哲 学 概 説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにかに受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで莊子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『莊子』〔内篇¥360・外篇¥400〕
(中公文庫)

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔教科書〕 佐々木宏幹著『仏と霊の人類学—仏教文化の深層構造』(春秋社) ¥2,400

哲 学 概 説

国 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

日本宗教文化史

井 上 順 孝

日本の宗教文化が、近世から近代・現代にかけて、どのように変化したかを、社会の変化と関連づけながら述べていく。とくに新宗教が宗教文化に与えた影響に焦点を当てる。また日本宗教が海外に進出した場合、どのような変化をこうむるかについても述べる。こうしたテーマを通じ、日本の宗教文化が、どのような面で時代・社会の変化の影響を受けやすいか、また逆にどのような面が影響を受けにくいかにも注意を払う。

教室の都合がつけば、できる限り視聴覚教材を利用して説明を行なう予定である。

〔参考書〕 井上順孝『新宗教の解説』（筑摩書房）
¥1,350

井上順孝『海を渡った日本宗教』（弘文堂）¥1,550

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、

今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕 麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

美術史概説

中 島 亮 一

日本美術の特質と問題点について、各時代にまたがって道教・仏教・儒教あるいは神道からの要請又は影響から、さまざまに変容をとげた姿を再検討し、様式史・精神史の両面から古今の名作の真価を問いなおしてみる。時に東洋・西洋の名作との対比も試み、それぞれの模倣、独自性も考察してみたい。

〔教科書〕 特になし。

〔参考書〕 その都度指示する。

東洋思想研究

館 野 正 美

本年度は、インド伝統医学（アーユルヴェーダ）、グレコ・アラブ伝統医学（ユナニイ）と並んで、世界の三大伝統医学の一つに数えられる中国古代の医学について、医学思想の観点から哲学的に分析し、講じてゆきたい。特にこの中国古代の医学思想の最も原初的な諸形態を、秦の宰相呂不韋の編纂になる『呂氏春秋』を直接的な資料として考究してゆく。

かくして、その医学思想の根幹をなすところの、中国哲学における独自の人間観・生命観を明らかにしつつ、現代医学における諸問題に対する、中国古代医学思想の意義にまで論及してゆきたい。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。

日本仏教史

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

日本文化史 I

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

英会話 II

P. A. Bendinelli · T. A. Grange
W. Hubbard · D. J. Nolan
J. K. Wells · P. Ziegler

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Iを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容 (syllabus) を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students. (UPPER LEVEL II CLASS). Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

T. A. Grange

Some mottoes : It is better to be forced to learn than not to know (AElfric) ; ... gladly would he learn and gladly teach (Chaucer) ; a little learning is a dangerous thing (Pope) ; it takes all kinds of in and outdoor schooling to get accustomed to my kind of fooling (Frost) ;

please don't be quiet — in English (tag).

You must learn to listen. Carefully. And you must talk, talk, talk, talk, talk, and talk some more. To your classmates. To yourself. To me.

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕 The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

Text to be announced in class.

J. K. Wells

Hello students! Welcome to my English Conversation II course. My class will be an extension of English Conversation I as Hiroshi Shimizu leaves his American host family and travels in the U.S.

Printouts will be handed out in each class, so join in the fun of learning English conversation through role-playing. We may have some future actors/actresses in the class!

Requirements : any 2nd year student

Attendance : only 3 absences will be allowed

Tests/Quizzes : 2 major tests (role-playing) ; announced quizzes

Class size : 40 students

See you in class

〔教科書〕 Printouts (Books will not be necessary)

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

〔教科書〕 英語の新聞記事のコピー・その他

英語 L L II

T. J. Cogan ・ 岩 山 義 春
大 庭 直 樹

英語 L L I のアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The materials for this year will probably include a recent, popular movie and a news program. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩 山 義 春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありません。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大 庭 直 樹

聞き取りと表現力のアップを目的とした中級から上級コースのクラスである。テキストは、

内容理解を中心としたヒヤリング用のものと日常英語を中心とした会話用のもの、2冊を使う。クラスは毎回、両方のテキストを使って行なう。

ドイツ語 F

柴 野 博 子

我々がドイツ文化をどうとらえているか、また、ドイツ人が日本文化をどうとらえているか、といういわゆる異文化理解の問題は、国際化がさげばれている今日、非常に重要なテーマだと思います。そこで本年は、ドイツ人の講演や新聞・雑誌の記事等を手がかりにして、この異文化理解の問題を考えて行きます。

なお、テキストは、随時コピーしてお渡しします。

ドイツ語 F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

松 岡 晋

本講義は F L L (初級) 終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、受講してかまわない。また初級・中級の両方を同時に履修してもさしつかえない。

学習上の目標は、毎年秋におこなわれる「ドイツ語検定試験」(独検)の四級ないし三級に合格できるための会話力・耳からの理解力・文章理解力の養成にある。

目標をもってドイツ語を学ぶ意欲のある学生の受講を期待している。テキストはコピーを用意するが、受講者の希望もとり入れる。

〔教科書〕 コピーを配布する。

フランス語 F

桑 田 禮 彰

フランスの文化と社会を、いくつかのテーマに沿って具体的に概観しながら、日本との違いを考えていきます。テーマとしては、家族/教育/趣味/宗教/思想などを予定しています。いずれの場合も、フランスの最新の社会科学・人文科学の成果を紹介しながら、授業をすすめます。出席者には資料を配布します。資料にはフランス語のものど日本語のものがありますが、フランス語の初心者でも歓迎します。フランス文化とフランス語は不可分です。この授業は特にフランス文化に重点を置き、フランス語については、出席者各人の能力を考慮した指導をしていきます。フランスという鏡に映る日本を見極めようとする意欲的な人の出席を望みます。

〔教科書〕 使いません。

〔参考書〕 授業の中で指示します。

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕 『BIENVENUE EN FRANCE 1』

中国語 F

岩 崎 皇

「一分間小説」を読みながら、講読の基礎を固めたいと思います。受講者の興味を考慮して作品を決めたいと思うので、自分の興味や学習程度を伝えられるようにしておいて下さい。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を利用して、初歩の聞きとり・会話の練習を行う授業です。音および画像からフランス語に入るつもりですので、文法的知識の有無を問いません。したがって、今までフランス語に触れたことのないひとでも「歓迎」しますが、しかしそのぶんだけ、新たに記憶したり書きつづけたりする「労力」は要求されるかもしれません。願わくば、一年後には、音としてのフランス語に、習熟とまではいかなくとも、まあ、恐怖心を抱かずに直面できるていどにはなれるように、と思っています。

〔教科書〕 『Avec Plaisir 1』 (4月にL L事務室で購入のこと)

中国語 F L L (初級)

小 川 隆

『学習中文』というビデオ教材を使って、会話と聴き取りの練習をします。中国語 I 既習ていどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽しく学んでいけるとおもいます。

プリントを用意しますので、履修希望者は必ず第一回の授業に出席して下さい。発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・B の成績が芳しくなかった人でも大丈夫。要はヤル気です。

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 『Entrée Libre』

中国語 F L L (中級)

松 本 丁 俊

中国語 F L L 初級を終えたものまたは中国語を1年以上履修したものを対象とする。中国語学習に熱意ある諸君の参加を歓迎する。

〔教科書〕 プリント配布。

〔参考書〕 随時指示する。

スペイン語 F

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。

〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロシア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のアガニョークやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布。

〔参考書〕露語辞書、NHKロシア語初級教科書の文法表（この教科書をもっていない人は文法表をさしあげます。）

ロシア語 F L L (初級)

廣田 英 靖

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (中級)

滝川 ガリーナ

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独得の言いまわし、イントネーションを小話等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

英 語 (海外演習)

この授業科目は、クインズランド大学・ブリテイッシュコロンビア大学・エクセター大学における短期留学セミナーでの四週間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、全学部の1年次生から卒業年次生までとする。

現地演習後に三大学より受講生の成績・評価等が出される。仏教学部、文学部、短期大学の受講生には単位認定がなされる。

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学 (高田 知波)	73
基礎国文学 (畑 實)	73
基礎国語学 (土井 光祐)	73
基礎中国文学 (中村 璋八)	73

専門教育科目

国文学概論 (水原 一)	73
国語学概論 (木村 晟)	73
国文学講読 I (村上 光徳)	74
国文学講読 I (田中 徳定)	74
国文学講読 II (田中 徳定)	74
国文学講読 III (林 達也)	74
国文学講読 III (富士 昭雄)	74
中国文学講読 (篠原 壽雄)	74
国語学研究 (木村 晟)	74
国語学研究 (若杉 哲男)	74
国文学史 (上代) (遠藤 宏)	75
国文学史 (中古) (日向 一雅)	75
国文学史 (中世) (村上 光徳)	75
国文学史 (近世) (林 達也)	75
国文学史 (近代) (菊地 弘)	75
国語学演習 I (木村 晟)	75
国文学演習 I (上代) (小野 寛)	75
国文学演習 I (中古) (高橋 文二)	75
国文学演習 I (中古) (田中 徳定)	76
国文学演習 I (中世) (水原 一)	76
国文学演習 I (中世) (村上 光徳)	76
国文学演習 I (近世) (林 達也)	76
国文学演習 I (近世) (富士 昭雄)	76
国文学演習 I (近代) (片岡 懋)	76
国文学演習 I (近代) (高田 知波)	76
国文学演習 I (近代) (畑 實)	76
国語学演習 II (木村 晟)	76
国文学演習 II (上代) (小野 寛)	77
国文学演習 II (中古) (高橋 文二)	77
国文学演習 II (中古) (田中 徳定)	77
国文学演習 II (中世) (水原 一)	77
国文学演習 II (中世) (村上 光徳)	77
国文学演習 II (近世) (林 達也)	77
国文学演習 II (近世) (富士 昭雄)	77
国文学演習 II (近代) (片岡 懋)	77
国文学演習 II (近代) (高田 知波)	77
国文学演習 II (近代) (畑 實)	78
国文学研究 (片岡 懋)	78

国文学研究 (畑 實)	78
国文学研究 (村上 光徳)	78
国語史 (若杉 哲男)	78
言語学概論 (飯島 周)	78
上代文学講読 (小野 寛)	78
近代文学講読 (高田 知波)	78
上代文学 (小野 寛)	79
中古文学 (原岡 文子)	79
中世文学 (水原 一)	79
近世文学 (富士 昭雄)	79
近代文学 (菊地 弘)	79
近代文学 (高田 知波)	79
国文学特講 I (近藤 瑞男)	79
国文学特講 I (延広 真治)	79
国文学特講 II (佐伯 真一)	80
国文学特講 III (日向 一雅)	80
国文学特講 IV (牧野 和夫)	80
中国文学 (中村 璋八)	80
中国文学演習 (中村 璋八)	80
中国文学概論 (篠原 壽雄)	80
仏教概論 (袴谷 憲昭)	80
東洋思想研究 (館野 正美)	81
日本史概説 I (古代・中世) (岡野 浩二)	81
日本史概説 II (近世・近代) (木槻 哲夫)	81
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	81
書道概論 (書論・鑑賞) (金子 卓義)	81
書道史 (那須 隆吉)	81
書道実習 I (金子 卓義)	81
書道実習 II (富岳 智猛)	81
書道実習 III (那須 隆吉)	82
美術史概説 (中島 亮一)	82
現代美術 (宮崎 克己)	82
編集実務 (長谷川 孝)	82
英米文化 (荒井 良雄)	82
日本民俗学 (谷口 貢)	82
有職故実 (大塚 英子)	82

国 文 学 科

基礎教育科目

基礎国文学

高 田 知 波

高校までの段階で読まれている率の高い夏目漱石『坊っちゃん』『こころ』と森鷗外『舞姫』を取り上げ、大学での学問として近代小説を《読む》とはどういうことかについて臨床的に学習する。ただ講義を聴くだけでなく、自分自身の《読み》を教師の《読み》と対決させるような積極的姿勢を受講者全員に望みたい。

〔教科書〕夏目漱石『坊っちゃん』『こころ』

森鷗外『阿部一族・舞姫』

(いずれも新潮文庫)

〔参考書〕『三好行雄著作集②森鷗外・夏目漱石』

(筑摩書房) ¥5,500

基礎国文学

畑 實

明治の文学評論

明治期に出た代表的な評論を読んでいく。その結果、近代文学評論の発展の跡をたどっていく事になる。テキストはプリントを配布する予定。

基礎国語学

土 井 光 祐

国語学の研究領域を概観した上で、特に「文法」の基礎につき各国語資料の性格に触れつつ国語史的観点から考察する。基本的な文献学的処理の方法にも言及し、将来の各専門分野の研究に不可欠の国語史学の常識を身につけてもらう。

〔教科書〕和田利政他著『国文法要説 文語篇』

(桜楓社)

基礎中国文学

中 村 璋 八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景を考えながら解読し、それによって中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の風土や習慣なども説明し、それらの中国の文化が如何に日本に伝来し、日本の文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕『中国思想文学通史』(明治書院)

¥1,600

専門教育科目

国文学概論

水 原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について国文学史の視野から各種作品の実例に触れつつ講じ、研究課題・研究法等について概観する。

〔教科書〕麻生・松田・市古著『日本文学概論』

(秀英出版) ¥1,900

国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。—— こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論

や文体論に重点を置く。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』（笠間書院）
¥1,000

〔参考書〕 橋本進吉著『国語学概論』（岩波書店）
時枝誠記著『国語学原論』（岩波書店）
山田忠雄著『国語学概論』（日大通信
教育部）

国文学講読Ⅰ

村上 光 徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕 『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕 『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読Ⅰ

田 中 徳 定

日本文学史の流れに沿いながら、古典文学の本文の読み取り方について学んでいく予定。

〔教科書〕 『日本文学史、上代-近世』（桜楓社）

¥1,600

国文学講読Ⅱ

田 中 徳 定

紫式部が見つめていた摂関貴族社会とはどのようなものであったのかを考えながら『紫式部日記』を講読する。

〔教科書〕 高橋文二編『紫式部日記』（桜楓社）

国文学講読Ⅲ

林 達 也

井原西鶴の『懐硯』を精読して、西鶴の雑話ものの世界に親しむことにしたい。本年は後半を講

む。

〔教科書〕 田崎治泰『校註懐硯』（笠間書院）

国文学講読Ⅲ

富 士 昭 雄

秋成の『雨月物語』を講読し、秋成の文学の特質を考察する。

〔教科書〕 水野 稔校注『雨月物語』（明治書院）
¥1,500

中国文学講読

篠 原 壽 雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにとめたい。

〔教科書〕 『詩文精粹』（明治書院）¥1,300

〔参考書〕 その都度紹介したい。

国語学研究

木 村 晟

院政期書写の『唐大和上東征伝』の国語学的研究を行なう。テキストとしては比較的容易に訓読可能な『観智院甲本』と『観智院乙本』の本文を対照せしめて、両本の訓法の特徴を学び、院政期の語彙・語法・仮名遣い・字体等について、その研究方法と解説を加える。『類聚名義抄』や『色葉字類抄』の古辞書の類は常に参照するし、他の訓点資料も必要に応じて採り挙げる。

〔教科書〕 プリントを用意する。

〔参考書〕 『唐大和上東征伝』（甲本の影印は1931年の古典保存会版、乙本の影印は1963年の東大寺版）

国語学研究

若 杉 哲 男

江戸時代初期の国字本『伊曾保物語』について、語彙・語法・仮名遣い・字体等の面から考察を加える。天草本と比較するのは勿論であるが、国字

本の他の版をも参照する。『日葡辞書』・『落葉集』・『節用集』を常に使用する。

〔教科書〕国立国会図書館蔵、中川芳雄解説『古活字版 伊曾保物語』（勉誠社文庫13）¥2,000

〔参考書〕改めて指示する。

国文学史（近代）

菊地 弘

明治初期から1920年代までの文学の思潮と流派の特質を、散文を中心に考察する。

国文学史（上代）

遠藤 宏

文学の発生から奈良時代末の文学まで、上代の文学の展開を具体例に基いて通観する。

〔教科書〕小野 寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

国語学演習 I

木村 晟

室町時代の国語資料である『仮名がき論語』の国語史的研究を行う。音韻・語彙・語法・仮名遣いの各方面から考察し、この資料の室町期の口頭語的性格や、古代からの伝統的な訓法の残存していることなどについても追究したい。またほぼ同時代成立の『論語抄』や『論語聞書』等の抄物の語法とも比較考察を加えたい。『名義抄』『字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の辞書類は常に参照する。

〔教科書〕プリントを用意する。

〔参考書〕授業中に紹介する。

国文学史（中古）

日向 一雅

枕草子の漢詩文の引用の見られる段を取りあげて、枕草子と漢詩文との関わり、枕草子の方法の特色について検討してみる。

〔教科書〕増田繁夫校注『枕草子』（和泉書院）¥2,500

国文学演習 I（上代）

小野 寛

『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当し、本文の異同、諸注釈の検討、用語の調査研究など、徹底的により込んでゆく。今年度は、万葉集巻二研究とする。

〔教科書〕鶴 久・森山 隆編『万葉集』（桜楓社）

〔参考書〕小野 寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）

国文学史（中世）

村上 光徳

中世文学史は昨年に引き続き「随筆、日記、法語」を中心に講ずる。

国文学史（近世）

林 達也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。本年は、近世小説の主人公の描かれ方を中心にして考えていくことにする。教材は、教場において、その都度配布する。

〔参考書〕原 道生・林 達也編『日本文芸史』（第四巻 近世）（河出書房）

国文学演習 I（中古）

高橋 文二

『源氏物語』の「権本」の巻を読み、王朝文学世界の特質を考える。古注釈の検討、本文の異同の確認、用語の通時的・共時的調査などを演習に臨む基礎的な作業とする。作業は、時間をかけた、緻密なものでありたい。

〔教科書〕日本古典全書『源氏物語』5（朝日新聞社）

国文学演習 I (中古)

田 中 徳 定

王朝詩歌の詞華集である『和漢朗詠集』を「私注」等の注釈書によって読解し、あわせて後世の文学に与えた影響について考察する。

〔教科書〕新潮日本古典集成『和漢朗詠集』
(新潮社) ¥2,300

国文学演習 I (中世)

水 原 一

西行法師研究を大枠として、その歌集『山家集』や説話的伝記『西行物語』とその絵巻、またかつては西行自作として扱われていた『撰集抄』さらに周辺を探る資料などにも触れつつ、各人の問題意識を活かす演習を行う。

〔教科書〕後藤重郎(日本古典集成)『山家集』
(新潮社)
〔参考書〕授業時に指導する。

国文学演習 I (中世)

村 上 光 徳

『平家物語』の研究。とくに巻一を中心に、作品論、時代背景、登場人物等多くの平家物語テキストと比較検討しながら読むことにする。

国文学演習 I (近世)

林 達 也

上田秋成の演習。本年は、昨年にひきつづき初期の『諸道聴耳世間猿』を読むことにする。尚、受講学生の数によっては、別の演習方法をも併せ行うことも考えている。

国文学演習 I (近世)

富 士 昭 雄

西鶴の『世間胸算用』の読解を通して、西鶴の

町人物の特質を解明する。

〔教科書〕富士昭雄校注『世間胸算用』
(明治書院) ¥1,500

国文学演習 I (近代)

片 岡 懋

川上眉山、泉鏡花、国木田独歩、夏目漱石、木下杢太郎、山本有三、菊地寛、芥川龍之介の小説、戯曲からそれぞれに幾つかを選び、その作品の内容と文学史の流れの中に於ける作家なり作品なりの位置について考察する。取り扱う作品については最初の時間に示す。

国文学演習 I (近代)

高 田 知 波

〈戦後前期の小説〉を演習テーマにする。敗戦から昭和30年代末頃までの約20年間に書かれた代表作・問題作を読んでいく。

〔教科書〕教場で指示する。

国文学演習 I (近代)

畑 實

明治期の小説

明治に出た主要な作品を取りあげて演習を行う。取りあげる作品演習方法等は最初の時間に指示する。

国語学演習 II

木 村 晟

「連歌」の国語学的研究を行なう。宗祇・肖柏・宗長・心敬等の連歌(特に百韻)を採り挙げることによって、連歌の用語の基本的な枠を把握し、それらの語彙が和歌の用語と如何なる異なりを示すものであるか、また和歌と同一の用語でありながら如何に連歌独特の用法を示すものであるかを、特に語法面を重視して考察する。さらに助詞・助動詞の辞的なものが、連歌と言う一定の式目の範囲内で、どのように自由にその機能を発揮してい

るかということも追究したい。併せて卒論指導も
行なう。

〔教科書〕プリントを用意する。

〔参考書〕『水無瀬三吟百韻・湯山三吟百韻本文
と索引』（笠間索引叢刊92）

国文学演習Ⅱ（上代）

小 野 寛

記紀・風土記・万葉集など上代作品から名品を
選んでよんでゆく。とり上げる作品は、開講時に
相談してきめる。後期には、各自が卒業論文に選
んだテーマに関して研究発表し、みんなで考え、
揉み合いながら、それぞれの卒業論文への結実を
図る。

国文学演習Ⅱ（中古）

高 橋 文 二

『古今和歌集』を読み、王朝文学世界の特質に
ついて考える。併せて卒論の指導をかねる。

〔教科書〕『古今和歌集』（新典社叢書）¥1,800

国文学演習Ⅱ（中古）

田 中 徳 定

『伊勢物語』を読みながら、歌物語の世界につ
いて考究する。併せて卒業論文指導も行う予定。

〔教科書〕『伊勢物語』（明治書院）¥1,100

国文学演習Ⅱ（中世）

水 原 一

昨年度演習Ⅰに引続き「建礼門院右京大夫集」
の後半を教材として、解釈・鑑賞を深め、周辺作
品にも視線を向けつつ、作者の人物や時代背景を
考察する。併せて研究テーマの設定のし方、研究
法等を体得して卒業論文作成に資するよう指導す
る。

〔教科書〕糸賀きみ子『建礼門院右京大夫集』
（新潮社）（演習Ⅰ使用のものの継続）

国文学演習Ⅱ（中世）

村 上 光 徳

『保元物語』の研究。本年は下巻が中心。テキ
ストは『半井本』を用い、他本との関係史実と作
品のかかわり、人物の描写等注意しながら読む。

国文学演習Ⅱ（近世）

林 達 也

近世文学の作品を読み、作品の読解方法を身に
つけることを目的とする。読む作品は、開講時に、
学生と相談のうえ、きめる。

国文学演習Ⅱ（近世）

富 士 昭 雄

受講生の卒業論文のテーマに関する近世文学の
演習。併せて卒業論文の指導をする。

〔教科書〕教場でプリントを配布する。

国文学演習Ⅱ（近代）

片 岡 懋

夏目漱石、志賀直哉、井伏鱒二の作品を考察し
ながら併せて卒業論文についての指導助言を行う。
取り扱う作品については最初の時間に示す。

国文学演習Ⅱ（近代）

高 田 知 波

学生の卒業論文テーマと関連させながら日本の
近代小説を対象にした演習を行う。

〔教科書〕教場で指示する。

国文学演習Ⅱ（近代）

畑 實

近代の小説

明治以降に出た主要な作品を取りあげて演習を行う。またあわせて卒業論文の指導も行う予定。取りあげる作品演習方法等については最初の時間に指示する。

国文学研究

片岡 懋

北村透谷、島崎藤村を中心に、浪漫主義文学の出發からその展開について考察する。

国文学研究

畑 實

明治初期の文学論

明治十年代に出た作品の序や坪内逍遙の「小説神髓」二葉亭四迷の「小説總論」その他の評論などを読み、それを通して近代小説成立期の問題を考えてみたい。テキストはプリントを配布する予定。

国文学研究

村上 光徳

中古の文学や作者についての中世に書かれた批評書『無名草子』の前半、物語批評の中の数々の論を中心に原作品を見ながら読む。

本書の作者は平安時代末から中世にかけて長く宮仕えをして宮廷生活の馴者として自他ともに許された、と自称する八十三歳の老尼と仮託して書いた。その真の作者の問題も考えてみたい。

〔教科書〕『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

国語史

若杉 哲男

近代語のはじまりである室町時代から以後の国語の歴史の変遷を音韻・文字・語彙・文法・文章・方言の各面から考察する。テキストの「資料とその解説」を大いに活用したい。

〔教科書〕佐藤喜代治編『国語史 下』（桜楓社）
¥2,500

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕V. マテジウス『機能言語学』（桐原書店）¥2,890

上代文学講読

小野 寛

上代とは奈良時代とそれ以前をさす。それは日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。そこにはまた「うた」が多く含まれている。古代人たちが節をつけ、楽器を伴奏に、唱い踊ったものである。これを「歌謡」という。そして「うた」はやがて文字で書き記されるようになり、記載文学としての「和歌」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髓に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

近代文学講読

高田 知波

“女性像”を視座として近代文学作品を読んでいく。

〔教科書〕高田知波他編『近代文学 ヒロインの系譜』（双文社出版）¥2,000

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。

『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料
上代文学史』(笠間書院)

中古文学

原岡 文子

それ以前の様々な物語や歌、或いは歴史等の多くのものを踏まえ成立した、中古文学の代表作

『源氏物語』を今年度は宇治十帖の発端、橋姫の巻から読み辿る。物語の表現の中に、宗教の問題がどう取り込まれてくるか、或いは物語史の系譜の中に個々の表現がどう位置付けられるか等、受講生と共に考えてみたいと思う。

〔教科書〕玉上琢弥訳注『源氏物語』第八巻
(角川文庫)

中世文学

水原 一

『新古今和歌集』は「万葉集」「古今集」と共に和歌史上特視すべき勅撰集である。日本美学史の上にも画期的な中世美を実現させた。これを教材として作品の解釈・鑑賞、歌人・歌壇の考察・言語美の探求などを実践する。

〔教科書〕久保田 淳『新古今和歌集』(桜楓社)

近世文学

富士 昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。

〔教科書〕萩原恭男校注『芭蕉 おくのほそ道』
(岩波文庫) ¥410

近代文学

菊地 弘

前期は有島武郎の小説と評論を、後期は芥川龍之介の小説と評論をとりあげ、その固有の文学を考察する。

近代文学

高田 知波

樋口一葉の《奇蹟の期間》と呼ばれる時期に発表された小説群の中から、『大つごもり』『十三夜』『たけくらべ』『にぎりえ』の4作品を取り上げ、精読する。

〔教科書〕木村真佐幸編『樋口一葉』(桜楓社)
〔参考書〕教場で指示する。

国文学特講 I

近藤 瑞男

歌舞伎戯曲の研究を行う。1ヶ月に1作品程度で、数多くの作品を取り上げたいと思う。

- (1) 出雲のお国『歌舞伎踊り』詞章
- (2) 近松門左衛門作『傾城壬生大念仏』
- (3) 近松門左衛門作『国姓爺合戦』
- (4) 『京鹿子娘道成寺』
- (5) 河竹黙阿弥作『三人吉三廓初買』
- (6) 『勸進帳』

参考文献の使用の仕方も、重点的に指導し、論文を書く際の一助ともなるようにしたいと考えている。

国文学特講 I

延 広 真 治

芸能と説話。講談・落語・浪曲などの江戸の芸能を、説話文学とみて、考察を加えたい。

〔参考書〕『中村幸彦著述集』第10巻

国文学特講Ⅱ

佐伯真一

説話と『平家物語』。独立説話の集合体として『平家物語』を読む。即ち、『平家物語』本文のみを読むのではなく、説話の流れの中で『平家物語』の各部分を考えてみたい。具体的には、巻一～六の中から、有王・文覚・慈心房などの問題をとりあげ、関連する諸作品についてプリントを用意しながら進めてゆく予定である。

〔教科書〕福田 晃他編『平家物語・上』（三弥井書店1993年1月刊行予定）
¥2,500（予価）

国文学特講Ⅲ

日向一雅

源氏物語第一部の前半を対象として、物語の構造について多面的に検討してみる。

〔教科書〕山岸徳平校注『源氏物語』1・2
（岩波文庫）

〔参考書〕日向一雅『源氏物語の主題』（桜楓社）

国文学特講Ⅳ

牧野和夫

中世文学作品（とりわけ説話・縁起など）は、想外に「動いて」いた。書物として、文章として、唱導としてなどなど、いろいろの「形」で動いてやまなかったのである。そうした「動き」を、資料を中心にして捉えていこうと思う。

〔参考書〕追って指示する。

中国文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻

する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

中国文学演習

中村璋八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智慧の結晶でもある易の書は、その後、儒家の根本経典、五経の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占卜の書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕中村璋八・古藤友子『周易本義』（明德出版社）¥2,900

中国文学概論

篠原壽雄

中国文学全般にわたって概観できるようにつとめる。このために中国文学の詩賦文章を中心に、その時代相と文人と、その作品を学ぶ。なお、日本文学との関連作品なども併せ講じたい。

〔教科書〕塩谷 温著『中国文学概論』（講談社文庫）¥900

仏教概論

袴谷憲昭

一般に仏教であると思われている考え方を広く概説するかたわらで、常に、正しい仏教とはなにかという視点から、通俗的に仏教であると考えられているかどうかというところに問題があるのかを、批判的に点検していくことにしたい。教科書としては、従来の代表的仏教入門書として下記のものを使用することにする。

〔教科書〕高崎直道『仏教入門』（東京大学出版会）¥1,600

東洋思想研究

館野正美

本年度は、インド伝統医学（アーユルヴェーダ）、グレコ・アラブ伝統医学（ユナニイ）と並んで、世界の三大伝統医学の一つに数えられる中国古代の医学について、医学思想の観点から哲学的に分析し、講じてゆきたい。特にこの中国古代の医学思想の最も原初的な諸形態を、秦の宰相呂不韋の編纂になる『呂氏春秋』を直接的な資料として考究してゆく。

かくして、その医学思想の根幹をなすところの、中国哲学における独自の人間観・生命観を明らかにしつつ、現代医学における諸問題に対する、中国古代医学思想の意義にまで論及してゆきたい。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

岡野浩二

古代国家の成立から平安時代初期までを、政治史と仏教史を中心として講義する。

〔参考書〕笹山晴生『日本古代史講義』（東京大学出版会）¥2,678

速水 侑『日本仏教史・古代』（吉川弘文館）¥2,400

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するように努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店）
¥4,800

日本文化史Ⅰ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

書道概論（書論・鑑賞）

金子卓義

漢字の起源といわれる甲骨文字から現代書まで、時代背景や書者の心理などを探りながら、書の美を鑑賞してゆきます。殊に鑑賞に重点をおき、直観的な鑑賞と理論的な鑑賞をバランスよくできるようにします。

〔教科書〕『中国古代書道史』（南書作（03-3951-6369））¥3,000

書道史

那須隆吉

現在見ることの出来る最古の文字である、殷代の甲骨文字を始めとし、その後時代と共に著しく変遷していく書体、書風、書法を通覧しながら、深遠な書道の歴史を講じたい。

〔教科書〕伏見冲敬著『書の歴史』（二玄社）

書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月頃まで）は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書『高貞碑』を細かに深く研究する。

〔教科書〕『書道Ⅰ』（高校用教科書）
（教育出版）
『高貞碑』（書学名蹟選）
（日本書道資料株）

書道実習Ⅱ

富岳智猛

代表的な古筆である高野切古今集・関戸本古今集・寸松庵色紙などの臨書を基として、かなの単体・連綿体に習熟し、表現力・鑑賞力を養い、かなの成立・発達の概略、古筆の基礎知識を学び創作へ導く。

〔教科書〕『書の古典美』（書芸文化新社）
『字典かな』（笠間書院）

書道実習Ⅲ

那 須 隆 吉

伝統芸術である書には、多様なジャンルがあるが、本講では篆書及び篆刻を中心に実習したい。篆書、篆刻は一般的になじみのうすい分野であり、平常目にすることが少ないが、書の原点とも言えるものであり書を理解する上で大変重要である。書体に於ける第一の典型であるといわれる篆書の古典を概観し、その特質を理解すると共に基礎的技法の習得に努める。又篆刻に於てはその発生から今日までの歴史を概観し、鑑賞力を養うと共に基礎的技法の習得に努める。

〔教科書〕コピーを配布。

〔参考書〕適宜紹介する。

美術史概説

中 島 亮 一

日本美術の特質と問題点について、各時代にまたがって道教・仏教・儒教あるいは神道からの要請又は影響から、さまざまに変容をとげた姿を再検討し、様式史・精神史の両面から古今の名作の真価を問いなおしてみる。時に東洋・西洋の名作との対比も試み、それぞれの模倣、独自性も考察してみたい。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕その都度指示する。

現代美術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

編集実務

長谷川 孝

情報社会の今、多様な情報を主体的に選択し活

用できる力が求められ、さらに自分から情報を発信できる能力も大事です。自分の中にある知識や体験、意見や批判、感動や思いなどを、さまざまな社会の出来事や状況との関係の中でしっかりと掘みとり形を与えて、他者に伝わるように表現することです。この講義では、物書き・編集者としての私の体験を語りながら、文章と印刷による表現（メディア）の担い手に必要な知識・技能や心構えと、なぜ・なにを・どう「伝える」のか、を考えていきます。また、個人のミニ新聞（雑誌）を作ってもらい、作り方とともに「ものごとを見る目」を育ててほしいと思っています。

〔参考書〕長谷川孝編著『新聞をつくろう』

（さ・え・ら書房 ¥1,236）を随時、使用します。

英米文化

荒 井 良 雄

イギリスの文化を、歴史、思想、教育、演劇、映画、音楽、美術などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕荒井良雄著『イギリス演劇と映画』

（新樹社）¥2,060

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

有職故実

大 塚 英 子

平安貴族社会の文化について、儀式書・有職故実書に記されている儀礼・年中行事や服飾の制度と、文学に描かれる風俗の関係を詳説する。

〔教科書〕河緒実英『有職故実』（塙書房）¥1,900

奥平英雄『源氏物語絵巻』（保育社）¥1,000

他、プリント使用。

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論 (高野 正夫)	84
米文学概論 (杉浦 銀策)	84
基礎英語 I A (東 雄一郎)	84
基礎英語 I A (河崎 征俊)	84
基礎英語 I A (高野 正夫)	84
基礎英語 I B (N. Readdy)	84
基礎英語 I B (R. M. Baxter)	85
基礎英語 II A (東 雄一郎)	85
基礎英語 II A (河崎 征俊)	85
基礎英語 II A (高野 正夫)	85
基礎英語 II B (R. M. Baxter)	85
基礎英語 II B (N. Readdy)	85

専門教育科目

英語学概論 (坂本 武)	85
英語音声学 (坂本 武)	85
(平成元年度以前入学生：音声学)	
英作文 I (東 雄一郎)	86
英作文 I (高野 正夫)	86
英作文 I (佐藤 千春)	86
英作文 I (岡田 尚)	86
英文学史 I (河崎 征俊)	86
英文学史 II (中岡 洋)	86
米文学史 (佐藤 千春)	86
英語史 (岡田 尚)	87
英米語学演習 (英作文 II) (佐藤 千春)	87
英米語学演習 (英作文 II) (河崎 征俊)	87
英文学演習 I (河崎 征俊)	87
英文学演習 II (広川 治)	87
英文学演習 III (荒井 良雄)	87
英文学演習 IV (高松 雄一)	87
(平成元年度以前入学生：シェイクスピア)	
英文学演習 V (高野 正夫)	87
英文学演習 VI (中岡 洋)	88
英文学演習 VII (高松 雄一)	88
英文学演習 VIII (芦澤 久江)	88
米文学演習 I (杉浦 銀策)	88
米文学演習 II (東 雄一郎)	88
米文学演習 III (佐藤 千春)	88
米文学演習 VI (利根川 真紀)	89
英米演劇演習 (荒井 良雄)	89
英文学特講 I (石原 孝哉)	89
英文学特講 II (高野 正夫)	89
英文学特講 III (岡崎 寿一郎)	89

英文学特講 IV (中岡 洋)	89
英文学特講 V (高松 雄一)	89
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	89
米文学特講 I (東 雄一郎)	90
米文学特講 II (杉浦 銀策)	90
米文学特講 III (原川 恭一)	90
米文学特講 V (利根川 真紀)	90
英米演劇特講 (落合 和昭)	90
英米語学演習 (英語史) (岡田 尚)	90
英米語学演習 (英文法) (岡田 尚)	91
英米語学演習 (英会話) (W. Hubbard)	91
英米語学演習 (英会話) (N. Readdy)	91
英米語学演習 (英会話) (B. Natusch)	91
英米語学演習 (英会話) (R. M. Baxter)	91
英米語学演習 (音声学) (坂本 武)	91
英米文化 (荒井 良雄)	91
時事英語 (坂本 武)	92
商業英語 (町井 靖)	92
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	92
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	92
現代美術 (宮崎 克己)	92

英 米 文 学 科

基礎教育科目

〔教科書〕 教場にて指示します。
〔参考書〕 未 定。

英文学概論

高 野 正 夫

英文学鑑賞研究に必要な時代背景，精神的背景，そして主要な文学観を解説しながらイギリス文学の特質について述べていきます。
〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎英語 I A

高 野 正 夫

さまざまな英文を読み，そして基本的な英作文の練習をしながら，総合的な英語力の向上を図るつもりです。
〔教科書〕 教場にて指示します。

米文学概論

杉 浦 銀 策

アメリカ文学入門の授業。ジャンル別にアメリカ文学の解説を行う。

基礎英語 I B

N. Readdy

In the first semester, we will be using one of the textbooks in the English 900 Series. Emphasis will be placed on grammar, sentence structure, substitution drills and listening /comprehension skills. Group and individual participation is required.

In the second semester, we will be studying in preparation for the STEP Test level 3. Emphasis will be placed on pronunciation, intonation and individual speaking. The STEP Test is divided into two sections ; listening and speaking. This class will concentrate on the speaking part only as listening skills should have improved after the first semester.

There will be two examinations during the schoolyear and students are required to attend both to receive a grade.
Textbooks ; 1st Semester. To be chosen later depending on the ability of the class as a whole.
2nd Semester. All materials will be supplied by the instructor.

基礎英語 I A

東 雄一郎

読解力を高める。同時にヒアリング力を高める。毎回，小テストを課す。
〔教科書〕 『オー・ヘンリー短編集』（研究社）
¥1,130

基礎英語 I A

河 崎 征 俊

英語の基礎力の向上をねらいとします。したがって，Reading , Translation , Hearing , Composition などを中心とした総合的学習を行います。予習・復習を欠かさないことが大切です。

基礎英語 I B

R.M. Baxter

This class will cover the four basic skills of language comprehension, using various methods to achieve efficiency in practice. Students will be expected to try to understand and communicate in English. This class will be challenging and educational.

〔教科書〕開講時に指示

基礎英語 II A

東 雄一郎

読解力を高める。同時にヒアリング力を高める。毎回、小テストを課す。

〔教科書〕『ヘミングウェイ短編集』（成美堂）
¥980

基礎英語 II A

河 崎 征 俊

英語の基礎力から応用力への向上をねらいとします。高度な英文構造の把握や、内容及び思考を必要とする Composition の演習を行ないます。予習・復習に努めて、積極的な学習を心がけることが大切です。

〔教科書〕教場にて指示します。
〔参考書〕未 定。

基礎英語 II A

高 野 正 夫

現代のイギリス作家の文章を読みながら、さまざまな英語の表現や言いまわしについてもふれていくつもりです。

〔教科書〕教場にて指示する。

基礎英語 II B (会話)

R.M. Baxter

This class will be based on using primarily listening and speaking skills to promote effective communication. students must participate actively in English to attain fluency. This will be a rewarding class for those who put forth a good effort.

〔教科書〕To be announced at the beginning of the term.

基礎英語 II B

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but on a more intermediate level.

〔教科書〕See content for 1st year students.

専 門 教 育 科 目

英語学概論

坂 本 武

英語学とは、英語を言語学の一部として捉え研究する学問である。なお言語学とは、音声学、文法論等を含め約10部門に分類されるが、それらに入る前の段階としての一般的、総論的知識の修得が必要となる。従って、この講義は、言語学や英米文学を学習しようとする学生諸君のために、その概説的知識を提供するものである。出欠は重視する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英語音声学

(平成元年度以前入学生：音声学)

坂 本 武

言語学の一分野としての音声学は、当該言語学習の重要な基礎学問の一つである。本講義では、

母音・子音・半母音についての調音音声学入門から、この科目に関する必須各論を講じる。音声記号のみをとりあげてみても、[ɪ] や [i] をはじめとする初見のものが数多く出てくるので、十分注意して受講されたい。Tapeを併用して、nativesの発音に習熟してもらうよう配慮する。また、年間数冊のノート提出を求めるとともに、出欠およびassignmentsの提出は、いずれも重視する。過去6年間学習してきた英(米)語発音について、各自の積極的な見直しが多分必要となろう。さて、[fənɛfəks]は何と発音するか。
〔教科書〕教場にて指示する。

英 作 文 I

東 雄一郎

基本構文から応用へと、ある程度自己の感情、思想を自由に英語で表現できるようになるためのtrainingを行う。しかし、英作文はあくまでもfour skills of English learningの一つであることを忘れずに。毎回、授業の始まりから20分間ほどの時間は、数問の小テストにあて、それを出席にかえる。授業に対するpreparationは必要不可欠。

〔教科書〕『基本口語の英作文』（桐原書店）
¥1,430

英 作 文 I

高 野 正 夫

英作文を書く時に比較的誤り易い例文を、文法的に見ていきながら、基礎的な英作文の力を養っていきます。

〔教科書〕教場にて指示します。

英 作 文 I

佐 藤 千 春

易しい英文の表現で、自分の考えを自由に書き記すことができるようになることを目指す。基礎力を十分に養ってもらいたい。テキスト、その他詳しい内容は授業開始の時に連絡する。

英 作 文 I

岡 田 尚

英文を書くことによって、英語の総合力の増進をはかりたい。積極的に発表し質問をして活気のある授業にしてほしい。テキストは教室で指示する。

英文学史 I

河 崎 征 俊

古代から中世をへて、ルネサンス及び18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品などの説明を中心に講義します。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕未 定。

英文学史 II

中 岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を数多く産み出してきた。Wordsworth, Scott, Austenらの時代以降それらの作品を年代順に跡づけ、現代に至る。不滅の作品群にふれる喜びを共に味わいたい。

〔教科書〕荒牧鉄雄・岡地 嶺著『英文学読本』（開文社）¥1,800

米 文 学 史

佐 藤 千 春

一般にアメリカの歴史は17c.から始まると言えるが、この地への植民がどんな夢を抱いてなされたものかという序論に始まり、ピューリタニズム、18c.の合理主義、やがてロマン主義へと、歴史は時代の動向と文芸思潮をからませながら進んで行く。この流れにそって、どのような作家が、どのような精神で、どのような作品を書きあげたのかを探ってみる。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の中心思想、作品の主要テーマなどに焦点をしばらく分析と解説を行いつつ、これを味わってみたい。

〔教科書〕井上謙治編『アメリカ文学史入門』（創元社）

英語史

岡田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕教室で指示する。

英米語学演習（英作文Ⅱ）

佐藤 千春

すでに英作文Ⅰで十分な基礎力が身についたとの想定で、ここでは応用の段階に入ってみる。作文だけでなく、読むことも時に応じて行いたい。テキスト、その他詳しいことは授業開始の時に連絡する。

英米語学演習（英作文Ⅱ）

河崎 征俊

短文から長文への応用力養成を主眼とします。予習、復習を欠かさず受講することが大切です。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕教場にて指示します。

英文学演習Ⅰ

河崎 征俊

14世紀の英詩人G. Chaucerの作品を読みます。今年も同じく、詩人の初期の作品*The Book of the Duchess*を読みながら、習作期の特徴及び大陸文学との関係を研究する予定です。積極的に授業に参加し、自らの研究に役立てるよう、着実に地道な努力を望みます。作品は、A. C. Baughのeditionをコピーにして配布します。教科書・参考書も授業で使いますので、そろえておくこと。詳細は開講時に指示します。

〔教科書〕都留久夫編『チョーサーの「公爵婦人の書」を読む』（学書房）¥1,500

〔参考書〕*A Chaucer Glossary*, ed. N. Davis (Oxford U. P.)

英文学演習Ⅱ

広川 治

William Shakespeare (1564-1616) の*Hamlet*を読みます。現代の英語とは異なる点も多い Shakespeare の英語ですが、英米では台詞の一部が慣用句的に用いられ、新聞、雑誌に引用されたりと、その英語や作品の内容は文化の根底をなしています。

演習では、作品の精読を通して劇作家 Shakespeare の人生観、劇作術を考えていきます。〔教科書〕教場にて指示します。

英文学演習Ⅲ

荒井 良雄

イギリスの文化（文学・演劇・映画・美術・音楽など）についての Current English の演習。英文の資料に基づく講読と発表とディスカッションが中心になる。各自が関心を持っている分野とテーマで小論文にまとめあげる作業を重視する。

〔教科書〕荒井良雄編『オスカリアーナ』（北星堂版）¥1,300

英文学演習Ⅳ

（平成元年度以前入学生：シェイクスピア）

高松 雄一

Evelyn Waughの小説*Decline and Fall*を読む。1920年代後半のイギリス社会の一面を戯画的に描いたもの。演習では厳密な訳読の訓練を行う。

〔教科書〕Evelyn Waugh, *Decline and Fall* (松柏社)

英文学演習Ⅴ

高野 正夫

アメリカに帰化しながら、イギリス的伝統を忘れることのなかった30年代のオーデン、そしてイギリスを愛し、イギリスの伝統を守ろうとした50年代のラーキンを中心に、現代詩人を読んでいきます。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学演習VI

中岡 洋

Emily Brontë作 *Wuthering Heights* (1847)
について勉強する。

英文学演習VII

高松 雄一

James Joyce, *A Portrait of the Artist as a Young Man* を読む。ジョイスは20世紀モダニズム文学運動の中心人物の一人で、さまざまな表現上の実験を試みたが、この自伝小説は基本的にリアリズムの手法によって書かれている。本演習では厳密な訳読の訓練を行う。

〔教科書〕 James Joyce, *A Portrait of the Artist as a Young Man* (英潮社)
¥2,300

英文学演習VIII

芦澤 久江

エリザベス・ギaskellの短編小説『従妹フィリス』を読み、自然や季節の移り変わりと主人公との関わりを考察する。

〔教科書〕 *Cranford, Cousin Phillis* by Elizabeth Gaskell (Penguin Classics)
¥1,490

米文学演習I

杉浦 銀策

J. D. Salingerの作品について演習形式で授業を行なう。

テキスト及び参考書は教場において指示する。

米文学演習II

東 雄一郎

エミリー・ディキンソンの作品、そしてイメージ作家たちの作品を読みます。ディキンソンの詩は、カール・サンドバーグが現代詩の先駆けとして深い共鳴を覚えたばかりか、ジョン・クロー・ランサムが形而上詩として高く評価したように、アメリカ詩の伝統の源泉を成しています。アメリカ詩のアダムはホイットマンですが、イブはディキンソンです。その詩世界は思考と感性のみごとな融合です。読む作品は百五十編ほどで、ディキンソンの全作品の十分の一にも満たないものですが、味読してゆきます。

〔教科書〕 『ディキンソン詩選』 (研究社)
¥1,200

〔参考書〕 新倉俊一『エミリー・ディキンソン』
(大修館書店) ¥1,854

米文学演習III

佐藤 千春

アメリカ文学史上、1850年から1855年にいたる五年間は、“moment of adult health” と呼ばれる黄金時代であり、アメリカ文学が世界に誇る名作を続々と世に出した。「アメリカ・ルネッサンス」と呼ばれるのはこの時期のことである。ここでは、その代表的作家、エマソン、ホーソーン等を取りあげ、問題点を探ってみることにする。

テキストその他に関しては、授業開始の時に連絡する。

米文学演習VI

利根川 真紀

前期はフォークナーの代表的短編を精読する。後期は主に、“A Rose for Emily”について様々な角度から書かれた最近の批評を読み、新しい読解の可能性を探りたい。

〔教科書〕William Faulkner, *A Rose for Emily and Other Stories* (英宝社) ¥1,180
批評はプリントを配布する予定。

英米演劇演習

荒井 良雄

今世紀のイギリス演劇界を代表する劇作家の一人であるテレンス・ラティガン(1911-1977)の代表作THE DEEP BLUE SEA(1952)の講読演習。読了後はノエル・カワードの一幕物を予定している。

〔教科書〕THE DEEP BLUE SEA (山脇百合子註、開文社版)

英文学特講 I

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』(三修社)

英文学特講 II

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの物語詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講 III

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむづかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の検証を経て、ハーディ、イェイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩(モダニズム)について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講 IV

中岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指定する。

英文学特講 V

高松 雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イェイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講 VI

丸小 哲雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになる。そのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム;ニュー・クリチシズム、受容理論(読者の立場)、構造主義、記号論、ポスト構造主義、ニュー・ヒストリシズムなどの批評的考え方を講義します。同時に、作品の読み方と研究の仕方を

覚えるためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになる。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および適宜必要に応じてプリントを配布します。

米文学特講 I

東 雄一郎

十七世紀のアメリカ女流詩人、アン・ブラッドストリートから二十世紀のシルヴィア・プラスまで、約四十六人の詩人の作品を読みます。ホイットマンの〈自我の歌〉、ポーの「詩の原理」、世紀末から出発したフロスト、パウンドやエリオットのモダニズム、フォーマリストのステイーヴンズ、客観主義の即物的実践者ウィリアムズ、物質文明の神を呪詛したギンズバークとビート詩人たち（デニーズ・レバトフ、ロバート・クリーリー等）の作品から、新世界・「楽園」の夢への憧憬、自負、挫折を考えてみます。アメリカ詩の新鮮な驚きを堪能して下さい。さらに、ハート・クレインに見られる原始主義を考え、神話のない国の包括性に言及します。

〔教科書〕新倉俊一『アメリカ詩の世界』（大修館）¥1,900

米文学特講 II

杉 浦 銀 策

主として20世紀アメリカ文学について講義を行う。

米文学特講 III

原 川 恭 一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頽廃をもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」(Southern Renaissance)の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社

会的視点をも構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選—風土と文学』（中教出版）

米文学特講 V

利根川 真 紀

トニ・モリソン（現代の代表的な黒人女性作家）の処女作*The Bluest Eye* (1970) を読みながら、実験的手法で書かれた本作品を分析するだけでなく、本作品とモリソンの他の5作品との関係、彼女が黒人の文化や文学の伝統の中で占める位置などについても触れたい。

〔教科書〕Toni Morrison, *The Bluest Eye* (Picador版) ¥1,900 前後

英米演劇特講

落 合 和 昭

前期は悲劇、メロドラマ、コメディの劇の要素（筋、登場人物、テーマ、台詞、音楽、背景等）について学ぶ。

後期は演劇史に見られる主義（～ism）をギリシャ時代から現代にいたるまでを時間が許すかぎり追ってみたい。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程）ほど提出してもらおう。

英米語学演習（英語史）

岡 田 尚

基本語について、諸君とともに英和字典を編集する立場から考察してみたい。ここでは語源、語

義、語法、成句などと同時にその語あるいはその語を用いた表現の背景や日本語とのイメージ・連想・用法などの違いを比較文化の視点から考えていく。教科書は用いない。

英米語学演習（英文法）

岡田 尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕教室で指示する。

英米語学演習（英会話）

W. Hubbard

Practical English for third and fourth year students. A variety of dialogues, plays and topics will be used. Class discussion and hearing comprehension emphasized. Text and class material will be furnished at class time.

〔教科書〕Will be decided later depending on the ability of the class.

英米語学演習（英会話）

N. Readdy

Method and materials similar to that of 2nd year students but of a more advanced level.

〔教科書〕See content for 1st year students.

英米語学演習（英会話）

B. Natusch

This course is designed to improve students' listening ability and speaking skills. The approach used will involve simulations such as phone calls, group problem solving activities, structured discussions, and quizzes. Practice will be given particularly in language functions such as description,

instructing, and narrating. Another component of the course will broaden active vocabulary. Evaluation will be based on regular class tests and spoken presentations.

英米語学演習（英会話）

R.M. Baxter

This will be an intensive conversation class which utilizes a variety of approaches which improve performance. We will study skills in listening comprehension and speaking. Students will be required to speak in English. The class will be challenging, exciting, and educational.

〔教科書〕開講時に指示

英米語学演習（音声学）

坂本 武

1必または3必で既に学習した英語調音音声学の大意に、さらに下記の諸項目を付加する。

記

- (1) 英米音の差異について、より詳述する。
- (2) Intonationの基本、応用、および英米表現における差異を考究する。
- (3) 英米語会話での、音韻変化 (phonological process)につき詳説する。例えば、英音における母音脱落、米音の tappings (無声子音の有声音化の各様) について再考する。
- (4) その他、reading, understanding (会話理解) に必須の音変化について、より詳細、専門的に論説する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英米文化

荒井良雄

イギリスの文化を、歴史、思想、教育、演劇、映画、音楽、美術などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕荒井良雄著『イギリス演劇と映画』
(新樹社) ¥2,060

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採りあげ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

商業英語

町井 靖

日本企業の国際的進出は、海外での子会社、合併会社の設立、外国企業の買収等めざましいものがあるが、「商業英語」では「商品の輸出入に関する英文の手紙」を勉強する。

取引先の発見、見積り、交渉、注文、船積み等、貿易取引の流れに従って良く使用される基本的表現を修得する。貿易の専門的用語も解説する。

〔教科書〕町井 靖著『基礎商業英語』

（梓出版社）¥1,700

ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパ言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕松本悦治著『ラテン語入門』（駿河台出版社）

〔参考書〕田中秀央編『羅和辞典』（研究社）

日本文化史 I

廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけて文化について詳述する。

地理学科

基礎教育科目

基礎人文地理学 (佐藤 哲夫)	94
基礎人文地理学 (長野 覚)	94
基礎自然地理学 (長沼 信夫)	94
基礎自然地理学 (早船 元峰)	94

専門教育科目

人文地理学実習 (桜井 正信)	94
人文地理学実習 (小田 匡保)	95
人文地理学実習 (土谷 敏治)	95
人文地理学実習 (菱口 善美)	95
人文地理学実習 (佐藤 哲夫)	95
人文地理学実習 (橋詰 直道)	95
自然地理学実習 (小池 一之)	95
自然地理学実習 (長沼 信夫)	95
自然地理学実習 (早船 元峰)	95
野外巡検 I (小池 一之)	96
野外巡検 I (中村 和郎)	96
野外巡検 I (小田 匡保)	96
野外巡検 I (橋詰 直道)	96
野外巡検 I (早船 元峰)	96
野外巡検 I (長野 覚)	96
野外巡検 I (佐藤 哲夫)	96
日本地誌 I (橋詰 直道)	96
外国地誌 I (矢ヶ崎 典隆)	96
経済地理学 I (佐藤 哲夫)	97
郷土地理学 (長野 覚)	97
集落地理学 (小田 匡保)	97
地形学 I (小池 一之)	97
地図学 (鶴見 英策)	97
交通地理学 (生井沢 進)	97
地理学総論 (佐藤 哲夫)	97
地理学総論 (菱口 善美)	98
地理学総論 (中村 和郎)	98
野外巡検 II (菱口 善美)	98
野外巡検 II (桜井 正信)	98
野外巡検 II (小田 匡保)	98
野外巡検 II (長沼 信夫)	98
野外巡検 II (土谷 敏治)	98
日本地誌 II (中俣 均)	98
外国地誌 II (土谷 敏治)	99
経済地理学 II (生井沢 進)	99
地形学 II (小口 高)	99
歴史地理学 (桜井 正信)	99
人口地理学 (土谷 敏治)	99

原書講読 (梅原 弘光)	99
地質学 (貝塚 爽平)	99
土壤地理学 (漆原 和子)	99
気候学 (中村 和郎)	100
海洋学及び陸水学 (長沼 信夫)	100
環境地理学 (早船 元峰)	100
日本地誌 III (中島 義一)	100
外国地誌 III (梅原 弘光)	100
都市地理学 (橋詰 直道)	100
計量地理学 (土谷 敏治)	100
応用地理学 I (鶴見 英策)	100
応用地理学 II (今野 修平)	100
文化地理学 (菱口 善美)	101
空中写真判読法及び測量学 (小池 一之)	101
地理学特講 I (半期) (長野 覚)	101
地理学演習 (小田 匡保)	101
地理学演習 (小池 一之)	101
地理学演習 (菱口 善美)	101
地理学演習 (桜井 正信)	101
地理学演習 (土谷 敏治)	101
地理学演習 (佐藤 哲夫)	101
地理学演習 (中村 和郎)	102
地理学演習 (長沼 信夫)	102
地理学演習 (長野 覚)	102
地理学演習 (早船 元峰)	102
地理学演習 (橋詰 直道)	102

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎人文地理学

佐藤 哲 夫

高校で学んだ地理の基礎的な知識を復習しながら、人文地理学の基本的な考え方に立って、その知識を体系化し、人文地理学の方法を学ぶ。

- I. 日本社会の基盤
 1. 自然環境の影響
 2. 人口の変化
 3. 経済の地域構造
 4. 社会の都市化
- II. 食料生産の環境
 1. 食生活と農業
 2. 土地資源の利用
 3. 産地形成と農村
 4. 山村と漁村
- III. 産業と地域経済
 1. 資源の輸入依存
 2. 工業立地の動向
 3. 地場産業と技術
 4. 消費者と流通
- IV. 都市景観の構造
 1. 都市の中の自然
 2. 歴史的景観
 3. 都市の内部地域
 4. 都市計画

〔教科書〕浮田典良編『人文地理学総論』（朝倉書店）¥3,811

〔参考書〕木村辰男ほか編『現代地理学の基礎』（大明堂）¥2,400

基礎人文地理学

長 野 覚

自然と人間活動の相関性を、世界的視野から考えながら、多彩な人文現象の基礎知識を、系統地理的に講義する。プリント資料を多用するほか、開講後に参考書などは指示する。

基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために、自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し、第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお、参考書は適時講義中に紹介する予定である。

〔教科書〕『自然環境の生い立ち』（朝倉書店）

¥2,300

基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく、かつ、人間と密接なかわりをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

人文地理学実習

桜 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが、とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は、そのつど指示し、実習の成果をあげるようにする。

人文地理学実習

小 田 匡 保

前期は、人文地理学の研究に必要な文献・地図・統計類について、その概要と利用方法を学ぶ。後期は、主題図・統計グラフの作成を行なう。最後に、歴史地理学の史料に言及する。

人文地理学実習

土 谷 敏 治

地理学の調査・分析に必要な資料の収集、整理、統計処理、作図、地図作成等について実習を行なう。また、コンピュータを使用した実習も合わせて行なう。毎回課題を与え、提出することを原則とする。

人文地理学実習

こも
菱 口 善 美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

人文地理学実習

佐 藤 哲 夫

人文地理学で用いられる各種資料の収集、整理、分析の方法や技術を学ぶ。「駒沢大学周辺の景観の変遷」という題でレポートを書くことを目標にして、レポートに挿入する統計資料の分析、地図の読図と、主題図、グラフ、表の作成を行う。

履修者は国土地理院の1万分の1地形図「自由が丘」と、ロットリング(0.3mmおよび0.5mm)、色鉛筆(12色)、電卓を用意すること。

人文地理学実習

橋 詰 直 道

前半は、地形図の読図、空中写真判読、各種主題図の利用法など、人文地理に必要な基礎技術を学ぶ。課題レポートや土地利用図などの作成作業が中心となる。

後半は、各種統計資料の利用法や統計処理法、文献調査法などを学び、人文地理事象の基本的な分析技術を修得する。パソコンによる統計処理、グラフ化、地図化作業とレポート作成が中心となる。

自然地理学実習

小 池 一 之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査法などについて実習する。

〔予定内容〕

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理
3. 野外調査データとその処理方法
4. 写真判読
5. その他

自然地理学実習

長 沼 信 夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点(レポート、図表等の提出物)で評価する。

〔参考書〕

- 谷岡武雄ほか著『新訂地理実習』(大明堂)
三野与吉編『自然地理調査法』(朝倉書店)

自然地理学実習

早 船 元 峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作

業を中心に行う。

- 地形図を用いた主題図の作成
- 資料の収集・分析・整理の方法
- 調査器機・器具の使用法
- 空中写真判読
- 微地形・表層地質調査

野外巡検 I

小池 一之

地形学を中心とした野外調査法の習得。

〔巡検予定地〕 大山～米子～弓ヶ浜

〔日時〕 10月初 3泊4日

3泊4日のうち、2日間は地形学に関連する野外調査を行う。1日～1.5日は3～4人の班を編成し、それぞれテーマをえらび、自主的な地理学的野外調査を行う。

野外巡検 I

中村 和郎

教科書や講義で学ぶ地理学的事象（自然・人文）を、学生自らの現地での観察・調査を通じて理解させる。

日時、場所はガイダンスのときに発表する。

野外巡検 I

小田 匡保

特定の地域を対象として、各自の関心に応じて調査を行ない、レポートを作成する。レポートはワープロを用いることとし、ワープロによる文書作成にも慣れてもらう。巡検地・期日は、ガイダンスの時に発表する。

野外巡検 I

橋詰 直道

都市化進行地域における地理的諸問題についてフィールド調査を行い、調査レポートを作成する。

巡検地域、日程などについては、ガイダンスの際に発表する。

野外巡検 I

早船 元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理学的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

野外巡検 I

長野 覚

自然と人間のかかわりについて、南九州の霧島山を中心に巡検する。山岳信仰によって残された自然、シラス台地、麓集落などに焦点を置く。期日等は巡検振分けのときに説明する。

野外巡検 I

佐藤 哲夫

現地での観察、調査を通して地域調査法を学ぶ。とくに土地利用の研究に必要な資料の収集、聴き取りの方法、情報整理の方法を身につける。巡検の場所・日程についてはガイダンス時に指示する。

日本地誌 I

橋詰 直道

日本の都市と農村は、いかに変容してきたか。この地域の変容に関する事例研究成果を紹介しながら、動態地誌的に日本列島の空間構造とその変容過程を明らかにする。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。

〔参考書〕 図説日本地理（大明堂）

外国地誌 I

矢ヶ崎 典隆

本講義では、アメリカ合衆国の地域性と風土について考察を試みる。自然環境、植民・開発過程、

文化景観と文化地域、人口と民族集団、都市の発展と機能、農業と農村地域の変貌などについて検討しながら、アメリカ合衆国の全体像を明らかにする。

〔教科書〕指定しない。

〔参考書〕授業の中で、参考となる図書をあげていく。

経済地理学 I

佐藤 哲夫

ホイットルセーの農業分類をもとにして、世界各地で行われている農業について講義する。現代の農業は、複雑な国際経済の仕組みの中に組み込まれており、ホイットルセーが研究を行った当時とは、その様相を大きく異にしている。生産の場における技術の変化、消費の場における食生活の変化を視点の中心に据えて、農業を取り巻く環境の変化を論じる。

〔教科書〕渡部忠世『産業および生業としての農業』（放送大学教育振興会）¥1,650

〔参考書〕グリッグ著、飯沼ほか訳『世界農業の形成過程』（大明堂）¥3,296

郷土地理学

長野 寛

郷土の地域概念を理解する必要上、古代から現代までの、日本の行政区変化を学習すると共に、域内の地名について（大字・小字など）、その意味するものを全国的視野から検討する。講義と併行して、各自の所属する郷土について、課題の提起や作業図などの点検を行う。講義はプリント資料を中心に進める。

〔参考書〕『地名大辞典』（角川書店）、『日本歴史地名大系』（平凡社）、吉田東伍『大日本地名辞書』（富山房）

集落地理学

小田 匡保

社会地理学的観点から集落地理学について概論する。その後、集落を対象としたそれ以外の立場からの研究事例を紹介する。

〔教科書〕水津一朗『新訂社会地理学の基本問題（増補版）』（大明堂）¥1,751

〔参考書〕浜谷正人『日本村落の社会地理』（古今書院）

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにしたい。（内容は最先端の知見を含む）

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

地図学

鶴見 英策

測量と地図の発達史、わが国の測量・地図体系にふれたあと、現代の地図作成工程と最新技術を解説する。さらに、地図の利用法について具体的な事例をもとに解説する。実習を行う。

交通地理学

生井沢 進

商品の流れ（貨物流）の変化について、この変化の要因となる港湾・道路等諸施設の変化ならびに情報システムの変化に焦点を当てて、現在の交通体系を理解してゆく。

〔教科書〕講義の最初に指示する。

地理学総論

佐藤 哲夫

地理学の重要な概念の一つである「景観」を手掛りとして、環境論や地誌と関連させながら、地理学の方法論について検討する。

- I. 地理学の対象
- II. 景観の分析
 1. 自然景観
 2. 文化景観
 3. 景観の領域
- III. 地域概念
 1. 分布と境界
 2. 地域の類型
 3. 地域区分

IV. 地域構造

1. スケール
2. 地域の動態
3. 地域問題

〔教科書〕中村和郎ほか著『地域と景観』（古今書院）¥2,800

地理学総論

こも
菱 口 善 美

現代地理学の概念と主要な地域分析法について講義を行なう。

地理学総論

中 村 和 郎

3年生は年度の途中で卒論のテーマを決めなければならない。どんなテーマを選んで、どんな方法で研究すればよいかを思い悩む学年である。そのときに少しでも役に立つように、古今東西の研究例をとり上げて研究方法や地理学的な考え方を学ぶ。

〔参考書〕中村和郎ほか著『地理学への招待』

（古今書院）¥2,900

中村和郎ほか著『地域と景観』（古今書院）¥2,800

野外巡検Ⅱ

こも
菱 口 善 美

目 的：地域の変貌についての実態調査とレポート作成

調査地：未定（ガイダンスの際に発表）

野外巡検Ⅱ

桜 井 正 信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

野外巡検Ⅱ

小 田 匡 保

近世の地誌書・名所図会を受講者全員で読み、記載事項の残存と変容の状況を現地で調査する。

・巡検地：奈良県吉野郡吉野町吉野山

・巡検期日：10月

〔教科書〕コピーを配布する。

野外巡検Ⅱ

長 沼 信 夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時（ガイダンス）に報告する。

1. 巡検地域：新潟県村上市とその周辺地域

2. 巡検期間：平成4年6月上旬（3泊4日）

3. 巡検テーマ：自然環境と人々の生活

野外巡検Ⅱ

土 谷 敏 治

都市の地域構造・都市問題・都市計画を中心に巡検を行なう。また、各自がそれぞれのテーマに従って、現地調査を行ない、その結果をレポートとして提出する。巡検地域・日程については、追って指示する。

日本地誌Ⅱ

中 俣 均

日本という政治的領域のなかであって、いわゆる本土とはかなり異質な文化を保持している「沖縄」（奄美諸島以南の南西諸島全域を指す）を取り上げて、その地誌を講義する。自然環境、集落の形態、衣食住の特色などの生活様式全般といったさまざまな側面から考察をすすめる、それを通じて日本という地域、日本の文化を相対的に認識することが、目標である。テキストや参考文献など詳しいことについては、開講時に指示する。

外国地誌Ⅱ

土谷 敏 治

ヨーロッパ諸国，とりわけドイツを中心に，都市の発達，都市内部の地域構造，都市交通，都市問題，都市システムなどについて講義する。実例については，スライド，ビデオ等で紹介する予定である。また，各自にレポートを課することも予定している。

人口地理学

土谷 敏 治

人口の分布やその変化，人口移動について，研究の方法やこれまでの地理学の方針からの研究成果を紹介する。

経済地理学Ⅱ

生井 沢 進

地方における生活活動の中心となる商業活動について，商店街形成という観点から分析，講義を行う。夏季休暇中に各自調査を行い，レポートを作成することを条件とする。

〔教科書・参考書〕講義中にその都度指示する。

原 書 講 読

梅 原 弘 光

熱帯地域の農業に注目して，その人びとと環境との関係を考察する。

〔教科書〕Francesca Bray, *The Rice Economies; Technology & Development in Asian Societies*, Basil Blackwell, Oxford, 1986.

地 形 学 Ⅱ

小 口 高

山地の地形変化を土砂の生産と移動に注目して講義する。

1. 風 化
2. 崩壊と地すべり
3. 溪流での土砂移動
4. 段丘と扇状地
5. 世界的に見た日本の山地の特徴

〔参考書〕貝塚爽平ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）¥4,532
武居有恒監修『地すべり・崩壊・土石流—予測と対策』（鹿島出版会）
¥4,017

地 質 学

貝 塚 爽 平

前期には関東・東海地方でみられる，地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また，日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

〔教科書〕貝塚爽平著『平野と海岸を読む』（岩波書店）¥1,200

歴史地理学

桜 井 正 信

歴史と地理を，実証と理論に基礎をおいて，総合的にみていきます。

土壌地理学

漆 原 和 子

世界の土壌の生成と分布について解説する。土壌生成因子のうち，特に地形，気候，時間について詳しく考察する。さらに人間活動によって，土壌がどのように変わりつつあるのかについても述べる。

〔教科書〕『世界の土壌』（古今書院）¥3,800

気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

〔参考書〕中村和郎『雲と風を読む』（岩波書店）
¥1,200

海洋学及び陸水学

長沼信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学（水文学）の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

環境地理学

早船元峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用、水利用を通じ歴史的観点をふまえて論じる。

〔参考書〕氷見山幸夫、岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

日本地誌Ⅲ

中島義一

歴史地理学の諸問題に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳（高校生の時に使ったものでよい）を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕矢守一彦著『空からみた歴史景観』（大明堂）¥2,400

〔参考書〕授業の際に紹介する。

外国地誌Ⅲ

梅原弘光

対象地域は東南アジア。1960年代以降この地域の農業と農村は大きな変化過程に入っているが、その実態を検討して変化の基本的性格を明らかに

し、その空間的展開を考察する。

都市地理学

橋詰直道

都市の概念、都市の分類、都市システム、都市圏、都市の内部構造、都市化、都市空間の知覚と行動、都市計画、都市環境などについて最近の都市地理学の研究成果を中心に概説する。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

計量地理学

土谷敏治

地理学の分析に必要な統計的手法・計量的手法を紹介するとともに、実際にデータを用いて操作を行ない、分析の手順や解釈のし方について学習する。データの処理には、コンピュータを使用する予定である。分析の結果は、レポートとして提出する。

応用地理学Ⅰ

鶴見英策

地理学の知識と考え方及び手法を用いて行う環境調査、災害調査と予測、土地評価など、各種の調査について具体的な事例をもとに解説する。

応用地理学Ⅱ

今野修平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第四次全国総合開発計画および長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『第四次全国総合開発計画』

文化地理学

こも
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

地理学演習

小 池 一 之

前 期：地理学調査方法（野外調査・文献調査）の習得、調査資料の分析法、データの統計処理などについて学ぶ。
後 期：各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

空中写真判読法及び測量学

小 池 一 之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること（課題数は年間5-6）。また、対数、三角関数（数学Ⅰ程度）の復習もしておくこと。実習も含まれる。

本年度は、自然地理の基礎となる写真判読法にも力を入れる予定である。

- (1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定
- (4)水準測量 (5)多角測量 (6)地形測量
- (7)写真測量 (8)写真判読法
- (9)リモートセンシング

〔教科書〕〔前期〕小田部和司著『図解土木講座 測量学』（技報堂出版）
¥2,800

地理学演習

こも
菱 口 善 美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に包含される問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

地理学演習

桜 井 正 信

地理学の演習を通じて、最終学年の成果をあげよう努力します。また卒業論文の作成の指導もしたい。

地理学特講Ⅰ（半期）

長 野 覚

高等学校・中学校社会科の教員を目指す希望者を対象とする。教員採用試験の体験や教育現場の地理・社会科教育の実情、カリキュラムの変更に伴う地歴科・公民科分離への対応など、現職教員と対話の機会などもつくりながら学習を進めたい。

〔参考書〕教育小六法・文部省学習指導要領・高等学校地理教科書（地図帳を含む）・中学校社会科教科書（地図帳含む）。

地理学演習

土 谷 敏 治

前半は、各自の研究テーマに関する論文を読み、内容の紹介をするとともに、研究の進め方、論文の書き方について学習する。後半は、各自が研究の中間報告を行ない、お互いに議論し合いながら、論文の完成をめざす。

地理学演習

小 田 匡 保

卒業論文作成の指導を行なう。既往の研究や自身の調査結果などについて、各自に中間発表を行なってもらう。

地理学演習

佐 藤 哲 夫

卒業論文の作成指導を中心に行う。前期は文献講読や共同作業を通して、参加者の論文の構成および調査法を検討する。後期は各自が行った調査結果の中間報告に基づいて、資料の整理・補足を

指導する。参加者の発表、共同作業と討論により進める。

地理学演習

中 村 和 郎

卒業論文の作成指導を中心に行う。テーマの決定、研究の進め方、文献収集とその読み方、資料の整理のし方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表のし方などについて指導する。

地理学演習

橋 詰 直 道

前半は、卒業論文の研究テーマ・地域の設定、研究方法、研究の計画などについて十分な検討を加えた上で、文献・資料調査法、現地調査法などについて指導する。

後半は、各人の調査結果の中間発表を随時行い、議論を積み重ねながら、論文の書き方について具体的に指導する。

地理学演習

長 沼 信 夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理・調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。

出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期・後期に各1回合宿（総合報告・中間検討会）を行う予定である。

地理学演習

長 野 覚

卒業論文の課題に即して、調査・研究と論文提出までの指導を行なう。前期と後期に必ず中間発表を行なうことを必要条件としている。

地理学演習

早 船 元 峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成・現地調査・文献資料の収集・整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果の発表（中間報告）や関連した論文の内容の紹介をさせる。

歴史学科

基礎教育科目

基礎歴史学 (飯島 武次)	105
基礎歴史学 (廣瀬 良弘)	105
基礎歴史学 (久保田 真継)	105

専門教育科目

史学概論 (伏島 正義)	105
日本史概説 I (古代・中世) (岡野 浩二) ..	105
日本史概説 II (近世・近代) (木根 哲夫) ..	105
東洋史概説 I (古代・中世) (松田 俊道) ..	106
東洋史概説 II (近世・近代) (渡辺 惇) ..	106
西洋史概説 I (古代・中世) (伏島 正義) ..	106
西洋史概説 II (近世・近代) (青木 道彦) ..	106
考古学概説 I (日本) (倉田 芳郎)	106
考古学概説 II (外国) (飯島 武次)	106
日本史学史 (葉貫 磨哉)	106
東洋史学史 (松田 俊道)	106
西洋史学史 (石川 澄雄)	107
考古学史 (西江 清高)	107
演習 I (岡野 浩二)	107
演習 II (岡野 浩二)	107
演習 I (葉貫 磨哉)	107
演習 II (葉貫 磨哉)	107
演習 I (久保田 真継)	107
演習 II (久保田 真継)	107
演習 I (所 理喜夫)	107
演習 II (所 理喜夫)	108
演習 I (廣瀬 良弘)	108
演習 II (廣瀬 良弘)	108
演習 I (南 和男)	108
演習 II (南 和男)	108
演習 I (山口 一之)	108
演習 II (山口 一之)	108
演習 I (阿部 肇一)	108
演習 II (阿部 肇一)	108
演習 I (渡辺 惇)	109
演習 II (渡辺 惇)	109
演習 I (石川 澄雄)	109
演習 II (石川 澄雄)	109
演習 I (伏島 正義)	109
演習 II (伏島 正義)	109
演習 II (倉田 芳郎)	109
演習 I (飯島 武次)	109
演習 II (飯島 武次)	109
演習 I (加藤 晋平)	110

演習 II (加藤 晋平)	110
日本史各説 I (岡野 浩二)	110
日本史各説 II (久保田 真継)	110
日本史各説 III (土肥 鑑高)	110
日本史各説 IV (山口 一之)	110
東洋史各説 II (古代) (宇都木 章)	110
東洋史各説 IV (中世) (町田 隆吉)	110
東洋史各説 V (近世) (野沢 佳美)	110
東洋史各説 VII (近・現代) (安藤 正士)	111
東洋史各説 VIII (周辺史) (田中 通彦)	111
東洋史各説 IX (周辺史) (松田 俊道)	111
東洋史各説 X (周辺史) (片岡 一忠)	111
西洋史各説 I (岩本 裕子)	111
西洋史各説 III (伏島 正義)	111
西洋各国史 I (青木 道彦)	111
西洋各国史 II (阿部 三樹夫)	112
西洋各国史 IV (石川 澄雄)	112
考古学各説 III (西江 清高)	112
考古学各説 IV (関根 孝夫)	112
古文書学 (葉貫 磨哉)	112
古文書講読 I (久保田 真継)	112
古文書講読 II (廣瀬 良弘)	112
日本史特講 II (中世) (宮本 由紀子)	113
日本史特講 III (中世) (久保田 真継)	113
日本史特講 III (中世) (芥川 龍男)	113
日本史特講 IV (近世) (土肥 鑑高)	113
日本史特講 V (近世) (小暮 正利)	113
日本史特講 VI (近代) (南 和男)	113
日本史特講 VII (近代) (山口 一之)	113
東洋史特講 II (古代) (宇都木 章)	113
東洋史特講 V (中世) (町田 隆吉)	113
東洋史特講 VIII (近世) (野沢 佳美)	114
東洋史特講 X (近・現代) (安藤 正士)	114
東洋史特講 XI (近・現代) (渡辺 惇)	114
東洋史特講 XII (周辺史) (田中 通彦)	114
東洋史特講 XV (周辺史) (片岡 一忠)	114
西洋史特講 I (長谷川 岳男)	114
西洋史特講 III (三小田 敏雄)	114
西洋史特講 IV (中村 純)	115
考古学特講 II (高浜 秀)	115
考古学特講 IV (飯島 武次)	115
日本仏教史 I (廣瀬 良弘)	115
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	115
西洋文化史 III (三小田 敏雄)	115
考古発掘実習 (千葉 基次)	115
考古学実習 (写真) (鈴木 昭夫)	115
考古学実習 (測量) (栗山 稔)	116
考古学実習 (石器) (田中 英司)	116
考古学実習 (土器) (酒井 清治)	116
地誌学 (橋詰 直道)	116
地誌学 (長野 覚)	116
地誌学 (宮口 侗迪)	116
人文地理学概説 (小林 高壽)	116
歴史地理学 (桜井 正信)	117

哲学史 (丸山 豊樹)	117
歴史哲学 (麻生 建)	117
美術史概説 (中島 亮一)	117
西域美術史 (相馬 隆)	117
仏教美術 (中島 亮一)	117
中国歴史文学 (中村 璋八)	117
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	118
日本民俗学 (谷口 貢)	118
有職故実 (大塚 英子)	118

歴史学

基礎教育科目

専門教育科目

基礎歴史学

飯島武次

中国古代史の入門的研究。
〔教科書〕貝塚茂樹『中国の歴史』上（岩波新書）
¥520

基礎歴史学

廣瀬良弘

歴史とは何か、なぜ歴史を学ぶのか、など歴史研究を行っていく上での基本的な問題をはじめとして、研究方法論や史料批判等について講述する。テキストはコピーして配布。ただし実費を徴収する。

基礎歴史学

久保田真継

「歴史」とは何か、また「歴史」を学ぶとはどういうことか。この基本的な問いかけについて考える機会としたい。その際、さまざまな歴史観や研究方法、史料などを紹介する。

これらを通じて「歴史」をみる眼を自分なりにひろげてほしいと思う。テキストは適宜配布する。

史学概論

伏島正義

古来多くの哲学者や歴史学者を悩ませてきた『歴史とは何か』という古くて新しい問題について、その考究の跡を追ってみたい。また古典的名著を二、三取り上げ、この問題について考えてみたい。なお、教科書は特に指定しないものの、参考書については開講時に一括紹介し、また講義の進行に伴い、その都度挙げる。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

岡野浩二

古代国家の成立から平安時代初期までを、政治史と仏教史を中心として講義する。

〔参考書〕笹山晴生『日本古代史講義』
（東京大学出版会）¥2,678
速水 侑『日本仏教史・古代』
（吉川弘文館）¥2,400

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店）
¥4,800

東洋史概説Ⅰ（古代・中世）

松田俊道

開講時に指示します。

東洋史概説Ⅱ（近世・近代）

渡辺惇

中国の近世（明・清）、近代（アヘン戦争～辛亥革命）の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕特に定めない。プリント資料を配布する。

〔参考書〕授業の中で指示する。

西洋史概説Ⅰ（古代・中世）

伏島正義

私達が日常経験する土地所有をめぐる問題は、さまざまな話題を提供している。しかしこの近代的土地所有形態も一つの歴史的形態である。本講ではそうした近代的土地所有形態の淵源を尋ねたい。つまり、西洋古代末期から近世初頭までを範囲として、土地の「所有」形態、経営形態の変遷について概説する。特にゲルマン民族大移動を契機として生まれた新しい社会、つまり西洋中世社会の成立過程、その社会構造、発展と盛衰を基軸に据える。講義では通説を紹介し、特にその力点を史料の根拠に置く。地域としてはイギリス、フランス、ドイツを中心とする。教科書は特に指定しない。参考文献を開講時および各講義時にその都度示す。

西洋史概説Ⅱ（近世・近代）

青木道彦

ヨーロッパの近世初頭から現代に至る歩みを概観するが、必要な限りにおいてヨーロッパ中世にもふれて講義したい。中世においては必ずしも他の文化世界に対して優位にたっていた西歐世界が、なぜ近代工業化の先頭にたって、他の

文化世界に強い衝撃を与えるようになったのかという問題を念頭において、受講して頂きたい。西洋史に関する平易な文献を指定し、読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕 祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）¥1,200

大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』〔近現代編〕（ミネルヴァ書房）¥2,000

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

（山川出版社）1985年 ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

（山川出版社）1991年 ¥11,000

日本史学史

葉貫磨哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

東洋史学史

松田俊道

開講時に指示します。

西洋史学史

石川 澄 雄

西洋史学専攻者必修の課目。主要な西洋史の古典について、重要部分を原文（欧文、おもに英語、他に独・仏文）で読みながら進めるゼミ形式を一部採用の予定。プリントその他開講後配布する。西洋史概説の知識のほか、十分な外国語の勉強をもって臨むこと。

〔教科書〕簡単なテキスト使用の予定、開講時に指示する。

考古学史

西 江 清 高

今世紀における中国考古学の研究史を中心に、東洋考古学の流れを概論する。また欧米に生まれ発展した考古学研究の枠組や方法と比較することで、東洋考古学の特質を理解し、さらにその現状を把握することを目標としたい。必要な資料は授業の中で配布する。

〔参考書〕関野 雄監訳『新中国の考古学』（平凡社）1988年 ¥18,000

演 習 I

岡 野 浩 二

『続日本紀』を神護景雲3年7月条から講読する。

〔教科書〕『新訂増補国史大系・続日本紀 後篇』（吉川弘文館）¥2,700

演 習 II

岡 野 浩 二

『続日本後紀』を承和元年正月条から講読する。あわせて卒業論文作成の指導も行う。

〔教科書〕『新訂増補国史大系・続日本後紀』（吉川弘文館）¥2,500

演 習 I

葉 貫 磨 哉

『蔭涼軒日録』の文明19年9月より講読して、室町將軍の動静や時代思潮などを考える。また五山派のあり方を理解するために見学も行う。

演 習 II

葉 貫 磨 哉

鎌倉・室町時代の歴史を通観し、研究発表を通して問題点を探り、併せて卒業論文の指導も行う。

演 習 I

久 保 田 真 継

織田信長の右筆太田牛一の著した「信長記」（池田本）をテキストとして、史料の読解力を養いながら、室町幕府の滅亡から織田政権の形成と展開過程を考えていきたい。なおテキストは適宜配布する。

演 習 II

久 保 田 真 継

室町・戦国期の諸相を追究し、あわせて卒業論文作成の指導を行なう。なお参考書は適宜指示したい。

演 習 I

所 理 喜 夫

「朝野旧聞哀藁」を、原史料のコピーによって、講読する。

〔教科書〕史料コピーを配布する。

演習 II

所 理喜夫

卒業論文指導のため、研究論文作成の方法を講述する。

〔教科書〕史料は配布する。

演習 II

南 和 男

幕末維新の諸問題の研究発表を通して、卒業論文の作成指導をする。

演習 I

廣 瀬 良 弘

下記の史料を用いて、織豊政権期を経て近世幕藩体制社会が成立していく過程を考察し、併せて近世史料の読解力・分析力を養う。

〔教科書〕徳川家康の発給文書、歴代将軍の事歴を記録した『徳川実紀』、家康の家臣である松平家忠の『家忠日記』と江戸前期から中期にかけて町奉行から町方へ出された法令を集めた『正宝事録』のコピーを配布する。

演習 I

山 口 一 之

近代文書のコピーを使用し、史料の読解力と批判力をつけることに主眼を置く。教材については当方で準備する。

〔参考書〕児玉幸多編『くずし字解読辞典』

〔普及版〕（近藤出版社）¥2,000

演習 II

廣 瀬 良 弘

近世史料を講読し、その読解力を養い、併せて受講者の研究発表を通じて卒業論文の指導を行う。

〔教科書〕史料はコピーして配布。

演習 II

山 口 一 之

各自の研究報告とそれについての討論を行う。自分の研究テーマだけに関心を限定せず、歴史を色々な角度から考える様にしてもらいたい。

演習 I

南 和 男

幕末の諸史料を読みながら、諸問題を考察する。
〔教科書〕コピーを配布する。

演習 I

阿 部 肇 一

『二十二史劄記』趙翼撰、前巻部分の講読と研究。

演習 I

南 和 男

幕末の諸史料を読みながら、諸問題を考察する。
〔教科書〕コピーを配布する。

演習 II

阿 部 肇 一

『入唐求法巡礼行記』（円仁）の講読と研究発表。

〔教科書〕プリント配布。

演習 I

渡辺 惇

趙翼著『二十二史劄記』の明代の部分（漢文）を講読する。
〔教科書〕プリントを配布する。

演習 II

渡辺 惇

范文瀾著『中国近代史』のアヘン戦争の部分（現代中国文）を講読する。
〔教科書〕プリントを配布する。

演習 I

石川 澄雄

西洋史近・現代，3年。欧文のテキスト輪読形式で進める。教材は開講時に指示する。山川出版社『世界史小辞典』のほか，できたら平凡社『カラー世界史百科』をも携行すること。（卒業論文作成のための予備指導を兼ねる。）

演習 II

石川 澄雄

卒業年次生の卒論指導を兼ねるので，該当者は必ず出席すること（出席重視）。古典の熟読を行う。
テキストは開講時に指示する。

演習 I

伏島 正義

当該演習では，歴史に抱く興味は人により多岐に亘るとはいえ，受講生にとって共通となる文献（論文，専門書）を分担発表などにより輪読する。またこの演習は4年次に課される卒論作成の準備

段階としての役割を負わんとするため，特にその年度の後半部分において，各自によって進められてきたその研究の成果を発表し，その質疑応答を通して，その研究の問題（疑問）点を認識し，4年次の卒論作成に資する。テキスト等は受講生と相談し，決める。

演習 II

伏島 正義

当該演習では，西洋史上の古典的名著を輪読する。また卒業論文の完成を目指す。テキスト等は受講生と相談し，決める。

演習 II

倉田 芳郎

年度第1週目の授業に必ず出席のこと。

演習 I

飯島 武次

中国語原典の講読。パソコンの使用実習。
〔教科書〕栗山好夫『パソコン入門』（池田書店）
¥1,200
〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年 ¥7,000

演習 II

飯島 武次

卒業論文の指導を兼ね，考古資料の調査研究を行なう。発表方法については，最初の授業の折りに指示する。また考古学におけるパソコンの使用について研究指導をする。
〔教科書〕栗山好夫『パソコン入門』（池田書店）
¥1,200

演習 I

加藤 晋 平

旧石器時代から縄文時代にかけての生業活動に関する論文をとりあげ、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

日本史各説IV

山 口 一 之

本年は明治維新史の講義とする。

演習 II

加藤 晋 平

先史時代に関し、受講者それぞれが抱く関心について、適当な論文を与え、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

東洋史各説II (古代)

宇都木 章

秦漢時代を中心として、中国古代史の諸問題を概説する。

日本史各説I

岡 野 浩 二

平安時代の政治史およびそれに付随する諸問題を講義する。前期は9・10世紀の官司組織の改編を、後期は撰関家の動向を中心に考察する。

東洋史各説IV (中世)

町 田 隆 吉

魏晉南北朝時代における豪族の土地経営や貴族制の成立などの諸問題を、研究史の整理をおこないつつながら検討し、あわせてこの時代の国家の特徴について考察する。

日本史各説II

久保田 真 継

鎌倉・室町時代について、研究史を紹介しながら講義する。とくに教科書・参考書は指定しない。

東洋史各説V (近世)

野 沢 佳 美

本講義では、宋代以降の中国と周辺諸民族及び諸国家との関係を中心に、中国王朝の変遷を見ていく。前半では、宋元時代を中心に、宋と征服王朝(遼・金・元)との関係を概観し、後半では漢民族王朝を復活した明、さらに再び出現した満洲族の清の歴史を跡付けながら、近世中国の変遷を見ていきたい。

〔教科書〕 笠沙雅章『征服王朝の時代』(講談社現代新書、新書東洋史③) ¥600
岩見 宏他『伝統中国の完成』(同上新書東洋史④) ¥600

〔参考書〕 宮崎市定『中国史』(下)(岩波全書) ¥1,500

日本史各説III

土 肥 鑑 高

江戸時代の元禄—天保期について、いわゆる三大改革を中心に講ずる。田沼時代や化政期についても再評価してゆきたい。

〔教科書〕 『改革の虚像』(秀英出版) ¥1,200

東洋史各説Ⅶ（近・現代）

安藤正士

1930年代の中国の政治史を国内建設の諸問題と日本をはじめとする列強との関係を西安事変を中心に概論する。教科書および参考書は開講時に指示する。

東洋史各説Ⅷ（周辺史）

田中通彦

朝鮮近代史の展開を講ずる。

東洋史各説Ⅸ（周辺史）

松田俊道

西アジアの中世「イスラーム都市」をとり挙げる。「イスラーム都市」とは何か、都市空間の構成、人・物・情報の結節点としての都市のあり方、都市の住民の多様性、都市の権力構造、農村や遊牧民との関係といった点に注目し講義を行う。

東洋史各説Ⅹ（周辺史）

片岡一忠

日本と中国とは長い交流の歴史を有する。その間に多くの人々が往来している。講義では主に中国を旅行した日本人の記録（旅行記等）をとりあげて、各時代・各人の中国との関係を考える。

西洋史各説Ⅰ

岩本裕子

アメリカ「合衆国」史を概観する。縦軸として時代順に通史（植民地時代～現代）を概観した昨年度を受けて、今年度は、先住民インディアン、黒人、女性、ワスプ以外のマイノリティ、地域と

しての西部、南部、宗教など、特徴的なトピックを中心に、横割りでアメリカ社会の断面をとらえていく。昨年度受講していない学生の参加も大いに歓迎する。2年間をかけて縦横にアメリカを語ることで、とかく歴史が浅く若い国と言われやすい合衆国の抱える諸問題に対し、学生諸君の興味を引き出す糸口としたい。教科書としては入門的な下記の概説書を使用し、参考書は、トピックに応じて適宜講義の中で指示する。

〔教科書〕有賀 貞・大下尚一編『概説アメリカ史〔新版〕』（有斐閣選書）¥1,700

〔参考書〕清水 博編『アメリカ史〔増補改訂版〕』（山川出版社）¥2,990

西洋史各説Ⅲ

伏島正義

中世史に興味がひかれる契機は、ある伝説的物語のもつ魅力に負うところが少なくない。本講ではそうした物語を選んでみたい。そして、そうした物語がある特定の歴史的背景を反映したものであるとの認識に立ち、それがいかなる社会的背景に基づくものであるかについて考えてみたい。具体的にどのような物語を扱うかについては、受講生と相談のうえ決める。文献、関係論文（邦文、英文）、史料などを読みつつ、演習形式により授業を進めたい。テキスト、文献等は授業時に指示する。

但し、受講生の希望により、必ずしも物語に限定されるものではない。

西洋各国史Ⅰ

青木道彦

ピューリタニズムを扱ってきた過去四年間の講義のまとめとして、今年度は「イギリス共和政期の宗教問題」をテーマとして講義する予定である。この時期については、すでに「ピューリタン」という名称を用いることは困難で、長老派・独立派・バプティスト・クェイカーなどの活動として捉えられるべきであろう。今年の講義ではこの時期に政権を握っていた政治上の独立派の国民的教会の構想を中心に講義を進めることになるであろう。担当者作成の英文年表についてレポートを提出させる課題を課す。4年生を除きこの課題を提出しない学生には、期末試験の受験資格を与えないので、よく注意すること。

〔参考書〕浜林正夫『イギリス宗教史』（大月書店）

田村秀夫編『イギリス革命と千年王国』
(同文館)

を通して検討する。とくに東国の資料を中心とする。

西洋各国史Ⅱ

阿部三樹夫

ロシアの近・現代史上の諸問題を多民族国家の歴史という視点から考察することを課題とする。主としてロシア帝国及び旧ソ連の西部国境地方(エストニア・ラトビア・リトアニア・白ルーシ・ウクライナ等)に重点を置き、その併合・統合の経過とこれらの地域が近代ロシア史上にもつ意義を考えていくとともに、ペレストロイカの中で「歴史の見直し」として浮び上がってきている諸民族や連邦制を巡る問題も取り上げる。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕授業中に適宜紹介する。

古文書学

葉貫磨哉

文書作成の目的や様式・保存・伝来等の理由、文章・料紙・筆蹟等の鑑賞用に至るまで、古文書についての概括的な講義を行う。後期は演習も行う。

古文書講読Ⅰ

久保田真継

普段は兎角、活字などで読みがちな史料としての古文書を、写真版で解読することにより親しむことにつとめる。なおとくに中世古文書を中心に講読する。一応教科書を設定するが、随時コピーなども使用していきたい。

〔教科書〕『演習古文書選(古代・中世編)』
(吉川弘文館) ¥1,400

〔参考書〕『古文書解読辞典』(柏書房) ¥2,500

西洋各国史Ⅳ

石川澄雄

主にドイツ史を専攻する学生に対して、独文によりドイツ文化の理解を深めたいと考える。ゼミ形式で進める。2, 3年生のほか、4年生の出席をも期待する。教材は開講時に指示する。

古文書講読Ⅱ

廣瀬良弘

どこの市町村にも豊富に存在するのが近世以降の古文書であろう。これらの新しい史料を解読し、地域の歴史を組み立てていくのは歴史を学ぶ者にとっての醍醐味である。しかし、せっかくの史料も解読できないのでは、どうすることもできない。本講座では、ともかく古文書に親しみ、読解できる力を養い、原文書から歴史を読みとる作業を試みたいと思う。古文書の写真等のコピーも随時配布する。

〔教科書〕日本歴史学会編『演習古文書選(近世編)』(吉川弘文館) ¥1,500

〔参考書〕『くずし字解読辞典』(近藤出版社)
¥2,000

『古文書解読辞典』(柏書房)
¥2,500

考古学各説Ⅲ

西江清高

東アジアの古代史において、「中国」と「周辺」との文化的関係をどのようにとらえるかという問題は、「中国」的文化伝統それ自身の形成を考える上からも、「周辺」における自立的な地域伝統や国家的な形成を考える上からも重要である。本講義では、紀元前一千年紀の中国南部に展開した楚、呉・越、巴蜀などをとりあげ、それらとさらにその南方のベトナムなど東南アジア大陸部との文化的関係を論じたい。必要な資料は授業の中で配布する。

考古学各説Ⅳ

関根孝夫

弥生時代から古墳時代への転換を、土器の研究

日本史特講Ⅱ（中世）

宮本 由紀子

特に中世という時代にとらわれず、古代から近世に至る女性観について各階層の女性に焦点をあて、その時代の社会構造と関連させて講義する。具体的に女性の地位、性的役割分担などの考察によって「歴史のなかの女性」の実像に迫りたい。ノート中心とし、教科書の指定はない。

日本史特講Ⅴ（近世）

小暮 正利

主に近世村落の成立期や解体期の地方文書に直接ふれながら、村落生活のさまざまな様相について論じる。

〔参考書〕木村 礎『近世の村』（教育社歴史新書）¥800

日本史特講Ⅲ（中世）

久保田 真 継

戦国期の社会を日本史上、中世封建制から近世封建制への移行（過渡）期とみるか、固有の社会とみるかは意見の分れるところであるが、戦国期の社会が中世の総括として、また近世の先駆としての時代的要請をうけていたことは認められよう。こうした問題関心により、本講座では「東国戦国大名」を例としながらその実態と歴史的意義を考えたい。

日本史特講Ⅵ（近代）

南 和 男

幕末期の政治や社会の推移を考察する。

日本史特講Ⅲ（中世）

芥川 龍 男

本年度は中世の初期、つまり鎌倉期を中心にして、武士の基本的性格・武士団・惣領制などについて考察する。一方的な講義でなく、教科書以外にも史料・文献を読破し発表するなどのゼミナール方式もとり入れるので積極的な学習を期待する。
〔教科書〕石井 進著『鎌倉武士の実像』（平凡社）¥2,300

日本史特講Ⅶ（近代）

山口 一 之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

日本史特講Ⅳ（近世）

土 肥 鑑 高

近世は「米遣い経済」といわれている。そこで、米を軸としてその流通→統制の過程を考えるとともに、「天下の台所」といわれる大坂の市場構造にもふれてゆきたい。

〔教科書〕『米と江戸時代』（雄山閣出版）

¥1,800

『江戸の米屋』（吉川弘文館）¥1,200

東洋史特講Ⅱ（古代）

宇都木 章

春秋後半期から戦国時代にかけての政治的変遷を考える。特に中国古代社会の特色について、貴族政治の面から考察を行う予定である。

東洋史特講Ⅴ（中世）

町 田 隆 吉

中国西北辺、新疆ウイグル自治区のトゥルファン盆地より出土した漢文文書の分析を中心に、麴氏高昌国～唐・西州時代の社会と国家および東西交渉などの諸問題を検討する。

東洋史特講Ⅷ（近世）

野 沢 佳 美

本講義では、10世紀以降の宋・元・明時代における中国と日本との交流を、中国側の史料などから、禅僧や商人らの活動を通して見ていく。まず前半では、遣唐使廃止以降の中日交渉史、とくに宋代における交易史を概観していく。後半では、元・明代のいわゆる元寇・倭寇などの事件を取りあげ、両国の交流史を見ていく。

〔教科書〕石原道博編訳『新訂旧唐書倭国日本伝・宋史日本伝・元史日本伝』（岩波文庫）¥520

〔参考書〕藤家礼之助『日中交流二千年』（東海大学出版会）¥1,800

東洋史特講Ⅸ（周辺史）

田 中 通 彦

近代以前の朝鮮半島と中国東北で活躍した諸民族の文化と国家形成の過程を講ずる。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

安 藤 正 士

第2次大戦後から現在に至る日中関係を考察する。

主な観点は、

- I. 時期区分
- II. 国際政治における日中関係の位置づけ
- III. 各時期における両国間を連係する主要な要素とイシュー
- IV. 日本の各時期における代表的な中国論など、政治、経済、文化など広い視野から資料を提示して講義を行う。

東洋史特講Ⅺ（近・現代）

渡 辺 惇

近代中国民衆結社史。近代化中国における民衆史、社会史を理解する一環として、秘密結社（会党・帮会・黒社）をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕酒井忠夫『中国民衆と秘密結社』（ユーラシア文化史選書）（吉川弘文館）¥1,900

東洋史特講Ⅻ（周辺史）

片 岡 一 忠

現在、中国には55の少数民族が主に周辺（辺境地域）に居住している。この周辺・少数民族に対する中国政府の対応・政策等について、1912年以降の中華民国政府時代を中心に考察する。

西洋史特講Ⅰ

長谷川 岳 男

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Ⅰでは、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および昨年度履修できなかった西洋史専攻希望の3年生は必ず出席すること。テキストは第1時限目に指示する。

西洋史特講Ⅱ

三小田 敏 雄

キリスト教の歴史を古代・中世は簡単に概説し、本年度は宗教改革以後の近世・現代に焦点を合わせ講義する。19世紀の爆発的世界伝道がなぜ起こったか、その結果キリスト教内部にいかなる変化が起こりつつあるか、という問題意識をもって進んで行きたい。出席を重視し、成績はレポート試験によって評価する。

〔教科書〕倉松『教会史』中巻（日本基督教団出版局）

西洋史特講Ⅳ

中 村 純

古典期アテネの政治と社会について考える。詳細は開講時に述べる。

日本文化史Ⅰ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

考古学特講Ⅱ

高 浜 秀

吉林・遼寧・内蒙古・甘肅など中国北辺の地域では、漢代以前には中原とは異なった文化が知られている。当時、ユーラシア北方草原地帯では、スキタイ系文化と総称される遊牧騎馬民族の諸文化が栄えていたが、中国北辺の青銅器文化はその東端に位置する重要な文化といえる。これは一方では朝鮮半島の青銅器文化とつながりを持つとともに、中原の文化にも大きな影響を及ぼした。講義ではこの文化について述べる。

西洋文化史Ⅲ

三小田 敏 雄

本年度は西洋文化史のうちローマ帝政時代の後期から中世ヨーロッパの成立、ビザンチン文化、中世文化の最盛期に焦点をあてて講義を進める。出席を重視し、成績はレポート試験によって評価する。

〔教科書〕未定

考古学特講Ⅳ

飯 島 武 次

周文化の考古学研究。講義内容は極めて専門的なものにした。

考古発掘実習

千 葉 基 次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くことではないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

日本仏教史Ⅰ

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

考古学実習（写真）

鈴 木 昭 夫

前期に於ては、講義を主体とし随時実技実習を組込み写真基礎技術をマスターし、後期には、実技を中心とし特殊写真特に考古、美術写真の撮影及び暗室技術の習得を旨とする。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

尚夏期に於て、発掘現場写真撮影の実習を行なう事も考慮している。

〔参考書〕鈴木昭夫他共著『研究者のための資料写真の撮り方』（理工学社）

考古学実習（測量）

栗山 稔

遺跡調査等において必要となる測量の基礎知識と技術取得、特に後者に重点を置き講義・実習を行う。夏休みに3～4日の集中実習に参加することが必要である。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

〔教科書〕壇原 毅著『測量の基礎』（山海堂）

考古学実習（石器）

田中英司

石器研究の基礎である石器の観察と石器実測図についての講義を行う。石器の研究史と実測図の歴史、石器製作と打撃の原理、投影法、表現法等の基本的知識と、それをふまえた実技を通して、考古資料の記録と観察法を学ぶ。

〔教科書〕プリントを配布する。

考古学実習（土器）

酒井清治

出土遺物である「もの」の調査は考古学の基本であるとともに、その後の研究の基礎資料となる。出土遺物の一つである土器を通して、実測の目的および基礎技術、観察の方法などを理解できるようにする。

〔参考書〕大井晴男著『野外考古学』（東京大学出版会）

『発掘調査の手びき』（国土地理協会）

服部敬史著『発掘と整理の知識』

（東京美術）

『考古学調査研究ハンドブック 2. 室内編』（雄山閣）

地誌学

橋詰直道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関わり方など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学

長野 寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている国、および中華人民共和国の地誌を学習することにしたい。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学

宮口侗迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小林高壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編『地理統計』

歴史地理学

桜井 正 信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

哲学史

丸 山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学との関係を明確に示せるように講義を進めたい。

〔教科書〕講義中に、その都度指示する。

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

美術史概説

中 島 亮 一

日本美術の特質と問題点について、各時代にまたがって道教・仏教・儒教あるいは神道からの要請又は影響から、さまざまに変容をとげた姿を再検討し、様式史・精神史の両面から古今の名作の

真価を問いなおしてみる。時に東洋・西洋の名作との対比も試み、それぞれの模倣、独自性も考察してみたい。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

相 馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大な絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。

（スライド使用）

仏教美術

中 島 亮 一

仏教の発生から仏像の誕生、そして敦煌を経て竜門・雲岡へ、更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで）、仏像の様式の変遷を通観し、あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を、精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し、政治と仏教、風土と仏教、特に道教とのかかわりなど、広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野 健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

中国歴史文学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻

する人々には欠かせない内容を含むものと思う。
是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、特に文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕松本悦治著『ラテン語入門』（駿河台出版社）

〔参考書〕田中秀央編『羅和辞典』（研究社）

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

有職故実

大塚 英子

平安貴族社会の文化について、儀式書・有職故実書に記されている儀礼・年中行事や服飾の制度と、文学に描かれる風俗の関係を詳説する。

〔教科書〕河緒実英『有職故実』（塙書房）

¥1,900

奥平英雄『源氏物語絵巻』（保育社）

¥1,000

他、プリント使用

社会学科

基礎教育科目

社会学概論 (坪井 健)	121
社会福祉原論 (伊藤 秀一)	121
心理学概論 (篠原 英壽)	121

専門教育科目

社会統計学 (川崎 賢一)	121
社会学史 (安藤 喜久雄)	121
社会学方法論 (金丸 由雄)	122
社会調査 (川本 勝)	122
社会調査実習 (江上 渉・川崎 賢一)	122
マスコミュニケーション (川本 勝)	122
産業社会学 (安藤 喜久雄)	122
都市社会学 (江上 渉)	122
農村社会学 (江上 渉)	122
法社会学 (小林 弘人)	123
宗教社会学 (芳賀 学)	123
社会心理学 (坪井 健)	123
社会病理学 (山本 康正)	123
外書講読Ⅰ (金丸 由雄)	123
外書講読Ⅱ (坪井 健)	123
社会学特講Ⅰ (橋爪 敏)	124
社会学特講Ⅱ (山本 康正)	124
社会学特講Ⅲ (川崎 賢一)	124
社会学原論 (渡辺 源樹)	124
図書館学Ⅰ (山崎 慶子)	124
図書館学Ⅱ (源 昌久)	124
社会福祉調査論 (坂田 周一)	125
社会福祉援助技術総論 (高橋 重宏)	125
社会福祉援助技術各論Ⅱ B (社会福祉調査技法) (小林 昭二)	125
法学 (福祉) (小林 弘人)	125
社会福祉援助技術各論Ⅰ A (ケースワーク論) (田村 健二)	125
社会福祉援助技術各論Ⅰ B (グループワーク論) (川廷 宗之)	125
社会福祉援助技術各論Ⅱ A (コミュニティ・ワーク論) (川廷 宗之)	126
リハビリテーション論 (原田 信一)	126
社会福祉計画論 (坂田 周一)	126
社会福祉運営論 (坂田 周一)	126
家族福祉論 (田村 健二)	126
児童福祉論 (高橋 重宏)	127
障害者福祉論 (原田 信一)	127
老人福祉論 (中野 いく子)	127

地域福祉論 (和田 敏明)	127
公的扶助論 (伊藤 秀一)	127
医療福祉論 (春見 静子)	128
婦人福祉論 (林 千代)	128
保健福祉論 (安梅 勅江)	128
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ (高橋 重宏)	128
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ (伊藤 秀一)	128
社会福祉援助技術演習Ⅰ (高橋 重宏)	128
社会福祉援助技術演習Ⅱ (高橋 重宏)	129
社会福祉調査実習 (坂田 周一)	129
社会福祉学特講Ⅰ (児童) (長谷川 重夫)	129
社会福祉学特講Ⅱ (老人) (長浜 恭子)	129
社会福祉学特講Ⅲ (障害児・者) (金子 勇)	129
社会福祉学特講Ⅳ (相談・援護) (松本 栄二)	129
社会福祉学特講Ⅴ (保健・医療) (安梅 勅江)	129
社会保障論 (近藤 功)	130
社会福祉発達史 (林 千代)	130
社会福祉外書講読 (伊藤 秀一)	130
海外社会福祉論 (中野 いく子)	130
社会学 (福祉) (江上 渉)	130
心理学 (福祉) (井上 孝代)	130
医学一般 (小林 臻)	131
介護概論 (石黒 チイ子)	131
障害児教育原論 (井田 範美)	131
心理学史 (寺岡 隆)	131
心理統計学 (篠原 英壽)	131
心理学実験 (実習) (篠原 英壽・小野 浩一 谷口 泰富・茅原 正)	131
心理学研究法 (小野 浩一)	132
基礎心理学Ⅰ (人格) (谷口 泰富)	132
基礎心理学Ⅱ (発達) (篠原 英壽)	132
基礎心理学Ⅲ (学習) (小野 浩一)	132
基礎心理学Ⅳ (社会) (萩原 滋)	132
基礎心理学Ⅴ (臨床) (前期: 中村 昭之)	132
(後期: 林 潔)	
心理学研究Ⅰ (実習) (寺岡 隆)	132
心理学研究Ⅱ (実習) (茅原 正)	132
心理学研究Ⅳ (実習) (篠原 英壽)	133
心理学研究Ⅴ (実習) (小野 浩一)	133
心理学研究Ⅵ (実習) (谷口 泰富)	133
生理心理学 (谷口 泰富)	133
環境心理学 (山本 多喜司)	133
情報処理Ⅰ (大塚 秀治)	133
情報処理Ⅱ (大塚 秀治)	134
児童心理学 (横山 剛)	134
産業心理学 (高橋 誠)	134
カウンセリング (鈴木 順一)	134
心理検査法Ⅰ (森山 敏文)	134
心理検査法Ⅱ (森山 敏文)	134
禅心理学 (茅原 正)	135
心理学特講Ⅰ (佐々木 雄二)	135

心理学特講Ⅱ (佐々木 宏幹)	135
心理学特講Ⅲ (讃岐 真佐子)	135
精神医学 (柴田 出)	135
社会政策 (光岡 博美)	135
民 法 (青山 尚史)	136
劳 働 法 (藤本 茂)	136
行 政 法 (鶏徳 啓登)	136
経済原論 (浅野 克巳)	137

社 会 学 科

基礎教育科目

社会学概論

坪 井 健

社会学は、多くの人にとって初めて出会う学問である。「社会学とは何か?」。この問いに答えることは難かしいが、要は私たちの日常的な様々の社会経験を社会システムとの関連で理解するための知的枠組の1つであると言える。

この講義では、そうした点を考慮して社会の経験的な諸事象に対する社会学的な見方の獲得を主眼とし、当初は社会学の基礎的概念の理解に努め、その後、現代社会の諸現象を選択的に分析していく中で、社会学的分析の有効性を見極めていきたい。

〔教科書〕『社会学概論』『統計からみる社会学』(学文社)

社会福祉原論

伊 藤 秀 一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』(誠信書房) ¥1,700

心理学概論

篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどの

ような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』(八千代出版)

専門教育科目

社会統計学

川 崎 賢 一

社会調査を企画・実施し、調査結果を集計・分析するための、知識と技術を習得することを目的とする。前半は、①社会調査のプロセス、②記述統計の理解、③ワープロソフトの基本操作、を目指す。後半は、①クロス集計、②統計的検定、③多変量解析、等の、分析法を中心にする。

いづれにしろ、出席を前提として、簡単なテストやパソコン実習なども、平行して行なう予定である。

〔参考書〕ホーエル(浅井・村上(訳))『初等統計学』(培風館)

ポーンシュテット、ノーキ(海野・中村(訳))『社会統計学』(ハーベスト社)1990年 ¥2,987

社会学史

安 藤 喜 久 雄

過去から現代に至る主要な社会学理論を概観する。とくに、社会学理論の中において現代に大きな影響を与えている主要な理論を中心に講義を進める予定である。

〔教科書〕児玉幹夫他『社会学史』(学文社)

社会学方法論

金丸由雄

社会学に於いては、しばしば社会構造という言葉が用いられているが、この言葉ほど実は人により様々な用い方がなされてきた概念はないと言って良い。にも拘らず、社会の構造という概念は、社会の安定した状態のみならず変化を考える為にも不可欠である。本講に於いては、従来行われて来たいくつかの定義を比較検討し、更にそれらをいくつかの調査結果に適応し、より満足すべき定義を試みる。

〔参考書〕その都度指示する。

マスコミュニケーション

川本勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりを持っているか、社会的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

社会調査

川本勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を実施するので、実習とのかねあいを配慮しながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点やデータ蒐集の技法、データの読み方、検定の仕方などを検討する。特に、前期は、パソコンを使ってのデータ集計、分析方法をマスターする。

産業社会学

安藤喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこで社会学の諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』（学文社）
¥2,500

都市社会学

江上渉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかということにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということと、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

社会調査実習

江上渉・川崎賢一

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひとつと理解した上で、調査の企画、設計、データの収集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

データの集計及び解析には、コンピュータも併用する予定である。

尚、調査実習は、通常の講義科目とは異なり、実際の作業を通じて社会調査の技法を修得することが目的であるので、遅刻、欠席は厳しくチェックする。

〔参考書〕その都度指示する。

農村社会学

江上渉

日本の農村社会は戦後50年間に大きく変貌した。

農地改革を中心とする戦後改革や高度経済成長などが農村社会に及ぼした影響は大きいし、また農業政策によって農村社会が翻弄されてきたことも見逃すことができない。このような種々の要因と農村社会の変動との関連を、戦後の歴史をかえりみながら探っていくことを主なテーマとする。農村社会を理解するために必要な制度や慣行（例えば日本の伝統的家族制度、土地所有や用水確保にかかわる制度や慣行など）にも適宜ふれることになる。

〔教科書〕 蓮見音彦『苦悩する農村』（有信堂）
¥2,060

法 社 会 学

小 林 弘 人

前期は、法社会学の基礎理論（学説の説明が中心になる）の解説、後期は、法と社会の関連について、具体的テーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 及川 伸著『法社会学入門』（新版）
（法律文化社）

〔参考書〕 六本佳平著『法社会学』（有斐閣）

宗教社会学

芳 賀 学

現代日本は、第三次宗教ブームの渦中にあるといわれている。特に、青少年は、宗教現象に高い関心を見せている。この講義では、この宗教ブームの諸現象の紹介とその背後にある社会的背景・心理構造の解説を行うこととする。ジャーナリスト的な批判に反して、宗教現象に関与する人々の理解を中心に据えつつ、その上で再度考察を加えていく。取り上げる予定の現象は、新新宗教・占い・自己啓発セミナー・エステ等。中には宗教の日常的なイメージには入らないものも含む。さらに、対比すべき対象として、新宗教・共同体の宗教も取り上げる。講義の中で適宜ビデオ映像を取り入れ、イメージをより喚起してもらうよう留意することとする。

〔教科書〕 島 蘭 『新新宗教と宗教ブーム』
（岩波ブックレット） ¥350

〔参考書〕 開講時以降に指示する。

社会心理学

坪 井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』
（人間の科学社）

社会病理学

山 本 康 正

前期には、社会病理現象の分析に使用されてきた諸理論を歴史的に概観する。後期には、犯罪、非行、公害といった具体的な病理現象について、わが国の現状を明らかにする。教科書は特に指定しないが、参考文献については講義の中で随時指示する。

外書講読Ⅰ

金 丸 由 雄

講読する英文は易しすぎても難しすぎてもいけない。又内容は参加者の興味と出来るだけ合致することが望ましいので、テキストはクラスの諸君と相談して決定する。

外書講読Ⅱ

坪 井 健

外書講読Ⅱは、原書（英文）の講読を通して社会的なものの方や考え方を深めることを目的とする。具体的には、いくつかの論文を輪読しながら、討議し、理解を深めていくことになるが、テキストは開講時に指示する。

社会学特講 I

橋 爪 敏

本講では、政治社会学的諸問題について取り扱うことになる。政治社会学は、政治現象について社会学的アプローチを試みる一分野である。したがって、社会学の対象としての人間諸関係の政治的側面とそれ以外の社会的諸側面との関連が問題となってくる。そこで、政治社会学とは何かを問うことを始め、大衆民主主義社会の状況、大衆とエリート、政治（社会）運動、政治的社会化等を問題としたい。“特講”と名づけられているが、講義という形式よりも、参加学生諸君の主体的研究を促す意味において、文献の講読ならびにディスカッションを中心として授業を行うことになる。〔教科書〕未定。

社会学特講 II

山 本 康 正

災害の社会学的な研究について、その歴史と現状を講義する。前期には、災害全般について、その本質論、意識論、及び災害現象分析のための理論的枠組みについて講義する。後期には、いくつかの具体的な災害事例をとりあげて、人々の行動特性や組織的、地域的な対応について検討する。教科書は特に指定しないが、参考文献については講義の中で随時指示する。

社会学特講 III

川 崎 賢 一

文化について、比較社会学の観点から講義する。前半は、高度情報化が現代文化に与える影響について論じる。（具体的には、①メディア文化（TV・ビデオ・パソコン等）、②情報化と社会秩序（英・米・日の比較を中心に）、を予定している。）後半では、国際化と日本文化について講じる。予定としては、①比較青年文化あるいは青年の国際化に関する諸問題、②映画にみる日本人の国際化（黒沢明を中心として）、等を考えている。〔参考書〕高橋勇悦・川崎賢一（編）『メディア革命と青年』（恒星社厚生閣）1989 吉田民人（編）『社会学理論でとく現代のしくみ』（新曜社）1991

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

図書館学 I

山 崎 慶 子

小学校、中学校、高等学校等各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕もり・きよし原編『日本十進分類法新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』（日本図書館協会）

社会福祉調査論

坂 田 周 一

本講義では、社会福祉の分野でなされる調査の特質をおさえた上で、調査ならびに統計に関する基本的な知識・技術について講じてゆく。

本科目は、「社会福祉調査実習」に結びつき、実習前教育としても位置づけられるものであるため、調査技法に関しても具体的に展開するつもりである。

〔教科書〕 開講時に指示する。

〔参考書〕 随時紹介する。

社会福祉援助技術総論

高 橋 重 宏

社会福祉援助技術総論（ソーシャルワーク実践）は、福祉専門職に必要な「福祉倫理」、「専門知識」、「専門技術」の基礎を学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャルワークの基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、ソーシャルワーカーの専門性等についての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、臨床事例を用いながら、ソーシャルワーカーになるための基礎理解を深め、福祉倫理や専門対人援助関係の形成の実際についても追求したい。

〔教科書〕 福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術総論』（中央法規）
¥2,500

高橋重宏他編『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）¥1,700

〔参考書〕 社会福祉実践理論学会編『社会福祉実践基本用語辞典』（川島書店）¥2,000

社会福祉援助技術各論Ⅱ B （社会福祉調査技法）

小 林 昭 二

この講義では社会福祉を考へてゆくのに必要な、調査と統計に関する知識と技法を説明する。

社会福祉に関する調査統計は、人口をはじめとし一般の世帯や、高齢者世帯、生活保護世帯、身体障害者等特定のニーズを有するものなど、範囲がきわめて広い。

このような調査の実施や統計の分析が、どのようにして実証性と客観性をもち得るかを、具体的

に取扱う。

〔教科書〕 『厚生統計テキストブック』
（厚生統計協会）¥1,500

〔参考書〕 教場で指示する。

法 学（福祉）

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕 小川政亮著『社会事業法制』（第2版）
（ミネルヴァ書房）¥2,500

社会福祉援助技術各論Ⅰ A （ケースワーク論）

田 村 健 二

社会福祉専門技能に基づいて、ケースワークの基本的態度と資質を中心に、その歴史と社会的機能、倫理、そして相談過程における方法と技術について、学んでゆきたい。後半では、これらが現実の臨床事例の中で、どのように生かされ展開してゆくのかを、ケース・スタディにより、できるだけ体験的に学習してゆく。最後に、21世紀の人類の最大の課題となろう人間同士、そして人間と自然との生かし合う自己実現について、ケースワークの立場から考究しておきたい。

〔教科書〕 田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1（誠信書房）¥2,200

〔参考書〕 田村健二・田村満喜枝『離婚の人間学—ケース・スタディー』（システム・ファイブ）¥1,854

福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術各論』（中央法規）
¥2,500

社会福祉援助技術各論Ⅰ B （グループワーク論）

川 廷 宗 之

グループ・ワークは、ソーシャル・ワークにおける一つの専門技術と理解されるが、その原理および技術は単にソーシャル・ワークのみにおいて

活用されているばかりではなく、生涯教育活動や企業内研修などにおいても広く活用されている。この科目では、そのグループ・ワークについて、原理となっているグループ・ダイナミクス理論、実際のグループ・ワーク実践上の各種の原理原則、そして、具体的実践における専門技術について、具体的な課題にもとづく演習を中心しつつ、講義や実験（授業内での）実習などの方法で学ぶ。なお、テキストとして、大塚達雄他編著『グループワーク論』（ミネルヴァ書房）を使用するので用意されたい。

〔教科書〕大塚達雄他編著「グループワーク論」
（ミネルヴァ書房）

社会福祉援助技術各論Ⅱ A （コミュニティ・ワーク論）

川 廷 宗 之

社会福祉実践を考える時、その実践のフィールドである地域をどう考え、その地域にどう取り組むかは、その実践の成否を左右する主要なテーマとなりつつある。そこで、この科目では、①地域福祉の諸課題、②地域福祉の目標、③地域福祉の主体と客体、④地域福祉と地方自治体、⑤地域分析の手法、⑥地域に取り組む方法と技術、⑦診断－計画－実行－評価、⑧留意すべき幾つかの事項、⑨当面する諸問題への対応、⑩基本的タームと論理、等について学ぶ事で、地域福祉の課題及びその実践方法技術について学ぶ。テキストとして、前期は永田幹夫著『地域福祉論』全社協出版部を使用し、後期は高森敬久他著『コミュニティ・ワーク』海声社を使用する。

〔教科書〕永田幹夫著『地域福祉論』
（全国社会福祉協議会出版部）¥2,060
高森敬久著『コミュニティ・ワーク』
（海声社）¥1,751

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビ

リテーションの国際的展望等について概説したい。
〔教科書〕講義ノートによる。
〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

坂 田 周 一

社会福祉における計画の概念を明らかにし、計画策定の技法を実例に即して具体的に明らかにする。技法としては、人口推計方法、福祉ニーズ測定法、最適な福祉サービスの組み合わせを求めるデルファイ法、福祉サービスの効果測定法等の技法を中核としながら、これに関連して線形計画法、PERT法、シミュレーション等のオペレーションズリサーチの技法についても述べる。

〔参考書〕大村 平著『ORのはなし』

（日科技連）¥1,450

その他必要に応じ適宜紹介する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。

〔教科書〕大山 博・武川正吾編著『社会政策と社会行政－新たな福祉の理論の展開を求めて－』（法律文化社）

家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

〔教科書〕田村健二『家族－社会の鎖・夫婦親子の鎖－』（金子書房）
¥2,000

〔参考書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2 (誠信書房)
各¥2,200

児童福祉論

高橋重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというのではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』
(川島書店)

〔参考書〕開講時に指示する。

障害者福祉論

原田信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

老人福祉論

中野いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一

層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編

『老人福祉』第2版(海声社)¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説高齢者白書1992』

(全社協)¥2,800

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集1992年度版』(老人福祉開発センター)
¥3,500

地域福祉論

和田敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進展している。平成5年度は、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎える。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎理論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7『地域福祉論』(中央法規)¥2,500

〔参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』

(全国社会福祉協議会)
¥2,000

公的扶助論

伊藤秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向

5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 なお、テキスト等については開講時に指示する。

医療福祉論

春見 静子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論 医療の概念、医療の場、与え手と受け手医療法、現代医療の問題点
2. 医療領域のソーシャルワーク
歴史、意義、機能、方法、機関
3. 医療ソーシャルワークの実際
事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』
 (誠信書房) ¥2,500

婦人福祉論

林 千代

私は、婦人(女性)問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時(父子家庭とも関連)、売買春の問題(性とは何か、婦人保護事業について)、女と老い(老後問題の中で)等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』
 (ドメス出版)

保健福祉論

安梅 勅江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持す

る原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修
 『保健福祉学』(川島書店)

社会福祉援助技術現場実習Ⅰ

高橋 重宏

3年生での社会福祉援助技術現場実習の準備学習が中心となる。

社会福祉援助技術現場実習の意義を理解し、自己の実習分野を考え、かつ社会福祉実践の実態を把握することを目的に、グループ学習、見学、各種の教材を活用して講義及び討論を行うこととする。

〔教科書〕日本社会事業学校連盟・全国社会福祉協議会編『社会福祉施設現場実習指導マニュアル』(全国社会福祉協議会)
 ¥2,000
 厚生統計協会編『国民の福祉の動向』
 (厚生統計協会) ¥1,500

社会福祉援助技術現場実習Ⅱ

伊藤 秀一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、学生が履修できる。履修定員は20人である。

社会福祉援助技術演習Ⅰ

高橋 重宏

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格取得の指定科目の一つである。

社会福祉士(ソーシャルワーカー)の業務は相談・援助が中心となる。そこで、社会福祉士として必要な専門援助技法の体得が演習Ⅰ、Ⅱの課題

となる。

具体的には事例研究やロール・プレイ（役割演技法）の方法をもちいる。

なお、本科目は、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」履修者の20人のみが履修可能である。

〔参考書〕追って指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅱ

高橋重宏

社会福祉援助技術演習Ⅰを基盤に、主として、ソーシャルワーカーに必要な自己覚知（Self-awareness）を深めるために自画像法により展開する。

社会福祉調査実習

坂田周一

本実習においては、実際に調査実査をすることによって、調査の企画・設計から集計・分析・報告書の作成に至る一連の作業を体得してもらう。集計・分析には、パーソナル・コンピュータを使う予定である。

具体的には、4名程度の班を作り、班ごとに社会福祉に関する調査を企画・設計してもらう。実査後、集計・分析結果をもとに報告書形式のレポート提出を各人に課す。

なお、パーソナル・コンピュータの使用法については、必要に応じて教授するので未経験だからといって心配する必要はない。

〔参考書〕必要に応じて適宜紹介する。

社会福祉学特講Ⅰ （児童）

長谷川重夫

社会福祉・児童福祉の発達史のなかで最古の歴史をもち、児童福祉の原型ともいわれ、いまま児童福祉体系の中の児童入所施設の中核的位置にある養護施設を中心に、施設養護全般並びに里親養護の理念、歴史および具体的な方法論等について講述したい。

後半では、ケース研究を加え、また施設現場を見学しながら、理論と実践についての統合的理解が深まるようにしたいと願っている。

〔教科書〕特定のものを使用しない。

社会福祉学特講Ⅱ （老人）

長浜恭子

- 高齢化社会問題と老人福祉施設
 - 施設ケアの特質とその課題
 - 施設ケアの実際
- 主に痴呆性老人ケアとグループ活動

社会福祉学特講Ⅲ （障害児・者）

金子勇

日々の障害者福祉実践の中から導き出された身体障害者に対する専門的援助についての基本的な考え方及び諸技術（一般意味論、ケースワーク、カウンセリング、心理療法等）を障害者の様々な問題（生きがい、職業、結婚、人間関係、年金等）に沿って具体的に展開していくこととしたい。

なお、今年度は、昨年以上に人間理解を得るための実習を多く取り入れ、皆さん自身の課題の解決にも役立つよう配慮することとしたい。

社会福祉学特講Ⅳ （相談・援護）

松本栄二

ケースワーク及びグループワーク等社会福祉実践方法について、特にその援助技法についての特殊講義。

ビデオによる対人援助場面を観ることで自由討議をする外、社会福祉実践事例の分析などを通して社会福祉実践方法としてのソーシャルワークの技法について理解を深めることを目指す。

出来れば、ソーシャルワークとその隣接領域でもあるカウンセリングやサイコセラピーらとの共通点、相違点について具体的事例、例えば医療の場におけるクリニカル・ソーシャルワークの事例を通して検討してゆく予定。

教科書は使用しない。参考資料は適時配布（実費徴収の予定）

社会福祉学特講Ⅴ （保健・医療）

安梅勅江

わが国の保健・社会福祉の領域から21世紀を見据えた時、社会福祉学といった単一専門領域にと

どまる事なく、保健学とのより柔軟性に富んだ形で
の支援の統合は、社会的要請であると言える。
人口の高齢化、生活の質の向上に伴うニーズの多
様化の進展とともに、より人間中心的保健福祉の
統合への関心が極めて高まってきている現況であ
る。

本講義では、このような背景を鑑み、社会福祉
を保健・医療の連携と統合に関する概念、歴史、
方法といった基本的な課題は元より、実践に根ざ
した応用例を課題として、今後の保健・福祉のあ
り方等を概説するものである。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会福祉外書講読

伊 藤 秀 一

わが国の社会福祉が「変革」期にある今日、英
・北欧諸国の社会福祉の動向には極めて強い関心
を持たざるをえない。

本講では、社会福祉に関する原文を輪読しなが
ら、討議し、国際的な視野を広めることに努めた
い。

なお、テキストは受講者と相談のうえ決定した
い。

社会保障論

近 藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存
権の保障のための重要な政策体系であり、国政に
おいて、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史
的發展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、
その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な
部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児
童手当等）、医療保障（健康保険等）その他につ
いて、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

海外社会福祉論

中 野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させた
イギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデア
とその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを
編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国
の社会福祉の政策、制度を研究・発表してもらう
ことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保
障』『フランスの社会保障』『スウェ
ーデンの社会保障』『西ドイツの社会
保障』『アメリカの社会保障』

（東大出版会）

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化
と社会の変動によって生み出されてきたといえる。
社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は
生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会
の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中
心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る
歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、
方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、
その関連等が内容となる。一定の歴史的産物であ
る社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を
考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

社会学（福祉）

江 上 涉

戦後日本社会の変動を人口、家族、産業、教育
などいくつかの視点からデータに即して理解しな
がら、日本社会の特質を考える。（前期）

地域社会に焦点をあて、「コミュニティは崩壊
したのか」というテーマに関する議論の展開を紹
介して、今後の地域社会のあり方と可能性を考え
る。（後期）

心理学（福祉）

井 上 孝 代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論とし
て心理学が広汎に取り入れられているという現況

に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

医学一般

小林 臻

長寿社会を迎え、各自が心身ともに健全なライフサイクルを送れるための、医学に基礎をおいた健康科学の考え方を述べ、さらに社会福祉専門職としての社会福祉士・介護福祉士に要求されると考えられる保健学・医学の専門的知識について講義する予定である。

〔教科書〕講義開始時に指示する。

介護概論

石黒 チイ子

人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療における介護の役割について理解させ、介護行為の基礎知識、技術、態度を教授する。

後半では、特に成人期にある健康の維持増進の重要性を理解させ、また、老年期にある健康の特徴を理解し、老化に応じた介護、健康障害をもつ老人とその家族に対する介護について教授する。

さらに、社会福祉士及び介護福祉士と福祉関係者との連携の意義とすすめ方等について教授する。

障害児教育原論

井田 範美

障害児教育の理念、目標、内容について健常児の教育と比較対照しながら論述する。しかし、障害児教育は障害種別により成立基盤、発展の過程は異なる。

そこで、障害児全般にわたる基本的知識として各障害、(視覚障害、聴覚障害、運動障害、病弱虚弱、知能障害、情緒障害、等々)に関する諸概念ならびに教育の概要について講述する。さらに知能障害教育の立場から、学校、施設、家庭、社

会の各面からの諸問題について論述する。

〔参考書〕佐藤泰正編『障害児教育概説』

(学芸図書) ¥1,300

原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社) ¥2,800

井田範美著『知能障害児の指導』(明治図書) ¥2,700

心理学史

寺岡 隆

本講義は2年目学生を対象とした授業である。一般にある科学を理解し研究していく場合、その領域の知識的理解を深めるにせよ、ひとつの問題を自ら深く掘り下げるにせよ、その科学の歴史的背景に関する知識をもっていることはきわめて有効であるといえる。本講義は、心理学とくに基礎心理学における諸学説の歴史的背景と発展形態を心理学の発展に影響を及ぼした周辺科学領域の状況もふまえた上で、できれば新しい視点も加えつつ考察していく予定である。本年は教科書は用いない。

心理統計学

篠原 英壽

精神現象の測定に伴う問題点——精神現象の数量化と尺度化に関する問題点、統計的、推計的処理方法の心理学への適用とその限界、心理学において工夫された測定法、処理方法などについて説明したい。

〔参考書〕随時示す。

心理学実験(実習)

篠原 英壽・小野 浩一
谷口 泰富・茅原 正

心理学の各領域から基礎的な実験を選び、心理学における実験のデザインの組み方、実施方法、結果の処理法等を実習を通して理解してもらおう。さらに、実験レポートの作成について指導する。

〔教科書〕吉岡一郎編著『心理学基礎実験手引』(北大路書房)

心理学研究法

小野浩一

心理学における主要な研究法について概観する。その中で、心理学の方法全般にわたる根本的な問題、個々の技法の根底にある基本的な考え方や問題点を明らかにしながら、それぞれの具体的な手続き、また効用や限界について解説する。

基礎心理学Ⅰ（人格）

谷口泰富

人格（パーソナリティ）とは、個人の内部に存在する複雑で力動的な体制である。この講義は人格心理学の概論として、人格の本質論、形成発達論、諸々の人格理論の紹介、研究法の考察などを中心に進めてゆくつもりであるが、折りに触れて人格に関する興味あるトピックスを盛りこんでゆく予定である。

〔教科書〕講座心理学Ⅳ入門人格心理学
（八千代出版）

基礎心理学Ⅱ（発達）

篠原英壽

基礎心理学Ⅱにおいては、発達心理学を講述する。その内容は、心理学的成長の各位相である幼乳時期から青年期までを取扱う連続的過程としてのパーソナリティ発達に主眼を置きたい。

上述のことを特に、E. H. エリクソンの精神分析的理論、及びJ. ピアジェの認知理論を中心に取上げたい。

〔参考書〕随時指示する。

基礎心理学Ⅲ（学習）

小野浩一

「あの子はなぜ学校に行かなくなったのか」
「あの人はなぜ最近あんなに明るくふるまうようになったのか」。

学習心理学はこのような行動変化の原因を解明しようとする。本講義では、学習心理学の基礎的な理論ならびに手法について解説し、それらが現代の行動科学の中でどのように活用されているかについて概観する。さらに、人間を含む生物体の

行動をコントロールしている変数について実験的行動分析の立場から吟味する。

教科書はとくに指定しないが、参考書および参考文献については講義の際に詳しく教示する。

基礎心理学Ⅳ（社会）

萩原滋

対人関係に直接的なかわりをもつようなくつかのトピックスをとりあげながら個人の社会行動に関する心理学について概説する予定。

基礎心理学Ⅴ（臨床）

（前期）中村昭之
（後期）林 潔

- 一、行動療法の基礎
- 二、セルフコントロールについて

心理学研究Ⅰ（実習）

寺岡隆

本実習は3年目学生を対象とした演習形式の授業である。主題は本年度は「心理学的ゲーム論」・「意思決定論」または「問題解決論」などに限定されるが、主題・方法の細部は開講されてから実習参加者の人数・関心・水準などを考慮して決定する予定である。参考書は開講後必要に応じて示す。

心理学研究Ⅱ（実習）

茅原正

応用心理学の諸研究を通して、文献、実験計画、方法、結果、論文のまとめ方、などを学ぶ。照明、騒音、温熱など、実際の生活場面における社会的・物理的条件が、人間の行動に如何なる影響を及ぼすか、基本的な実験を行う。

参考書、文献については講義の際に指示する。

心理学研究Ⅳ（実習）

篠原英壽

心理学研究Ⅳは、これまで開講されていた実験実習（上級）が各領域ごとに分化されて開設されたものである。したがって本来ならば実験心理学的内容を備えるべきものである。しかし取扱う領域が発達心理学であるため、装置及び被験者等の関係上、実験的内容を実習的に行うことには問題もある。

そこで本年は、欧文の専門書及びジャーナルを精読し、その中で扱われている実験・調査研究の方法を習得し、追試可能なものを選択し、その方法に準拠して実験等を行いたい。

なお主たる参考書は下記のもので、そのコピーを用いる。

〔参考書〕 Readings in Child Development & Personality: Edited by P. H. Mussen, J. J. Conger, J. Kagan. Harper & Row, 1965

心理学研究Ⅴ（実習）

小野浩一

心理学研究のプロセスを統一的に習得することを目的として、文献検索法、論文の読み方、実験デザインの組み方、実験の実施方法、結果のまとめ方、論文の書き方などを含めた総合的な実習を行う。前期は知覚、学習、思考に関する代表的な研究をモデルとして、そこでなされた実験を追試するという形で進めるが、後期には受講者と相談の上適当なテーマを設定して実験を計画したいと考えている。

心理学研究Ⅵ（実習）

谷口泰富

ここでは主に、生理学的指標を用いた種々の測定を行う。実習内容については、初めの時間に説明する。

本講を受講する人は、予め、生理心理学を履修しておくことが望ましい。

〔参考書〕 随時紹介する。

生理心理学

谷口泰富

統合的有機体としての人間の行動を明らかにするため、本講は、心理学と生理学の隣接するところから出発し、意識・学習・知覚・情動などの諸概念について考えてゆく。

〔参考書〕 随時紹介する。

環境心理学

山本多喜司

人間と自然環境・構築環境・対人環境・社会的環境との相互作用を環境心理学・生態心理学・建築学の立場から述べる。具体的には次のようなテーマがある。自然風土と人間、開発と環境、認知地図、ウエイファインディング、個人空間と対人距離、都市環境と人間行動、混み合い、災害と人間行動、居住環境と快適性、高齢者施設の環境、環境移行の問題、学校環境、労働環境、環境教育などである。

〔参考書〕 山本多喜司編『人生移行の発達心理学』（北大路書房）

情報処理Ⅰ

大塚秀治

現在、大学においてコンピュータリテラシーは必要不可欠なものとなっている。心理学を研究する上でもコンピュータの利用範囲は広く、その必要性はますます高まっている。

本講座では①パソコンの基本的操作の習得、②統計計算、ワープロ、図形処理、データベース等の基本的ソフトウェアの利用法の習得等を目的とし、一部ビデオ教材を利用した実習形式で行う。

受講にあたってコンピュータの基礎知識は必要ない。遅刻、欠席を許さないので注意を要する。また、期末試験は行わないが十数回のレポート課題の提出が必要である。受講希望生多数の場合は、実習機材の関係で履修を制限する場合がある。

〔教科書〕 実習資料はすべて配布する。

〔参考書〕 随時紹介する。

情報処理Ⅱ

大塚 秀 治

現在、コンピュータ技術は心理学にとって必要不可欠なものとなっている。人間の情報処理といった、コンピュータモデルは心理学の各領域に取り入れられつつある。また、実験では刺激の生成・制御、反応計測、時間制御、自動化、データ変換等に応用されている。更に、データの統計処理等は心理学全般で利用されており、活用の範囲はさらに拡大している。

本講座では、①応用プログラムを作成するためのコンピュータ言語を習得する、②コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの構造を理解する、③心理学実験のプログラムを実際に作成して応用力をつける、ことを目的とする。

受講にあたっては、1年程度の(情報処理Ⅰ修了程度)コンピュータ経験が必要である。期末試験は行わないが、数回のプログラム作成を含むレポート課題の提出が必要である。

〔参考書〕随時紹介する。

カウンセリング

鈴木 順 一

カウンセリングにおけるPerson Centered Approach を確立したCarl Rogers の実践する「人間中心の教育」を現実化したい。カウンセリング・ロールプレイ、サイコ・ドラマ、ゲシュタルト・ワーク、エンカウンター等の体験学習を通じて、お互いのパーソナリティの理解と開発(自己実現)をめざす。

〔教科書〕『カウンセリングの理論』(誠信書房)

〔参考書〕『暮しの中のカウンセリング』

(有斐閣)

『カウンセラーへの道』(創元社)

¥1,200

『カウンセリング』(芸林書房)

『新訂カウンセリング』(誠信書房)

『エンカウンター』(誠信書房)

『人間尊重の心理学』(創元社)

『エンカウンター・グループ』

(創元社)

児童心理学

横 山 剛

ひとは、物理的環境・社会的環境との相互交渉を通して、その潜在的な可能性を実現してゆく。この発達の様相や発達のメカニズム、それを促進する働きかけについて講義する。内容としては、児童期までの行動・知覚・思考・言語・情緒・社会性などの諸側面の発達を考えていく。

〔参考書〕随時紹介する。

心理検査法Ⅰ

森 山 敏 文

近年、特殊教育の領域、矯正教育の現場、精神神経科領域、さらに産業関係の領域などにおいて、各々の主な目的は異なるものの、様々な心理テストが行われています。中でも質問紙法によるパーソナリティ・テストや知能テストあるいは器具を用いた知能テストなどは、その評価や解釈に伴う専門的なトレーニングは常識的なこととしても、少なくともある程度の知識や技能を習得していることは、時代の要請といえましょう。

本講座では、心理テスト・マニュアルとして、受講者の実際の体験を基本にしながらも、グループ・ディスカッション、レポート作成などを通じて、心理テストの原則について学んで頂きたいと考えています。

〔教科書〕必要に応じて紹介したいと思います。

産業心理学

高 橋 誠

オフィスや工場において、近年のコンピュータ技術革新が労働組織、労働形態、ワーカーの健康にどのような影響を与えているか。コンピュータのインタフェースを始め、職場を快適にするにはどの条件が必要か。こうした問題に対して、産業心理学・人間工学の分野からの知見をまとめるとともに、その研究方法を検討する。

心理検査法Ⅱ

森 山 敏 文

本講座では、ロールシャッハ・テスト、描画法、TAT、SCTなどという、いわゆるプロジェクトイブ・テクニクについて体験学習を中心に進

めていきたいと考えています。実際の臨床場面に役立つことを目指すという意味では、心理診断法としては勿論ですが、心理的なケアや心理療法のための基礎になる体験になれば、さらに良いと思います。

専門性とはもかく、一般的な興味や関心のある方々にとっても、プロジェクト・テクニク・マニュアルとして学ぶことは、自分や他人の理解に役立つでしょうし、心の健康について考えていく上での手掛かりとなると思います。

〔教科書〕必要に応じて紹介したいと思います。

禅心理学

茅原 正

複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかんに行われ、心身に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本講では、坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理論理学などについても考察する。

参考書、参考文献については、講義の際に指示する。

心理学特講 I

佐々木 雄 二

1. 心理療法

- (1) 心理療法とは何か
- (2) 心理療法の歴史
- (3) 心理療法の対象
- (4) 心理療法の種類

2. 自律訓練法

- (1) 自律訓練法とは何か
- (2) 自律訓練法の歴史
- (3) 心理療法における自律訓練法の位置づけ
- (4) 標準練習の理論と実習
- (5) 特殊練習の理論と実習

〔教科書〕佐々木雄二『自律訓練法の実際』

(創元社) ¥1,000

心理学特講 II

佐々木 宏 幹

日本を含む東アジア諸社会において、人生観・世界観の形成に宗教はどのようにかかわっている

か、個人や社会の危機に宗教はどのような役割を果たしているか、また教祖的・カリスマ的人格とは何か、その影響は何か、などの諸問題について考察する。時おりスライドを使用する。

〔教科書〕『シャーマニズムの世界』(講談社学術文庫) ¥950

心理学特講 III

讃 岐 真 佐 子

臨床心理学の勉強では、①人間の心をどう把握するのかという“理論的学習”，②多様な体験をとおして自分自身を理解していく“体験的学習”，そして③実際のカウンセリング場面で起こり得る様々な事柄を、事例によって学んでいく“事例研究”などが重要だと考えられる。

この講義ではこれらの点も考慮しつつ、主に事例の理解の仕方、そのプロセスの読み方などについて学んでいくことにしたい。扱う事例は幼児から成人まで多岐にわたる予定である。

〔参考書〕随時紹介する。

精神医学

柴 田 出

現代の厳しい現実社会で生きている現代人は、多くのストレスにさらされ、心を病む人も少なくない。しかし、現実の組織や集団に所属するからといって、全ての人が心の病いにおかされるわけではない。このように考えると、個人を取り囲む組織の問題だけに帰すわけにはいかず、個人の自我の成熟度も大きく関わっていることがわかる。演者はこのような観点に立って、個人の心の発達過程を臨床例にあげながら述べていきたい。

とくに、コドモからオトナへの移行過程の時期であり、コドモとオトナが共存している青年期を中心に述べていくつもりである。

〔参考書〕『こころ自己分析』(有斐閣) ¥1,300

社会政策

光 岡 博 美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国で

あったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史（戦前期）
- (4) 日本における社会政策の歴史（戦後期）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の実態とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成上の注意は、年

度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

民 法

青 山 尚 史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

勞 働 法

藤 本 茂

わが国労働法は、戦後、戦前の労働保護法制を受け継ぐとともに、国際的規準を受け入れたり、アメリカ法制を導入するなどして、発展してきました。その法理は、社会経済構造の変化、労働運動のあり様や社会生活における労働者意識の変化などによって、たえず既存の法理の妥当性が検証され、深化してきました。雇用平等、労働時間、労働協約、組合活動保障など、現在もそうです。

また、諸君にとって労働法は、将来、就職し労働生活をおくるなかで、欠かせない法領域です。

授業は、諸君が見聞きするであろう事項を念頭に、それについての基礎的な考え方を、具体的な事例を取り入れておこなうつもりです。今年は、集团的労働関係法の領域から始めます。

〔教科書〕最初の講義のときに話します。

〔参考書〕ジュリスト増刊『労働法の争点』

（有斐閣）¥2,200

菅野和夫著『労働法』（弘文堂）

行 政 法

鷄 徳 啓 登

現代国家は、一般に福祉国家又は文化国家といわれるようになり社会問題も多くなっている。そして、例えば社会の高齢化に伴う福祉問題では、必ずといってよいほど行政のあり方が問われるのである。このような問題を考える場合に、行政に

関する法令はどんなものであり、行政はどのように行われるのか、ということを経理的側面から考えてみることも、社会問題を客観的に考慮できるようになるための1つの方法であると思われる。

その意味で、「行政法」とはどのような法律であるのかを知っておくことは、公務員をめざす学生ばかりでなく、一般の学生にも、今後増々要求されてくるようになるだろうと思われる。

〔教科書〕『行政法の話』（第一法規）¥1,800

〔参考書〕教場にて説明致します。

経 済 原 論

浅 野 克 巳

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を以下の順序で解説する。なお、公務員試験（其他国家試験）の受験対策として必要に応じ問題練習も行うので、下記の問題集も用意されたい。

I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場と価格決定
4. 市場と企業

II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 経済の変動と成長
4. 賃金・物価・インフレーション

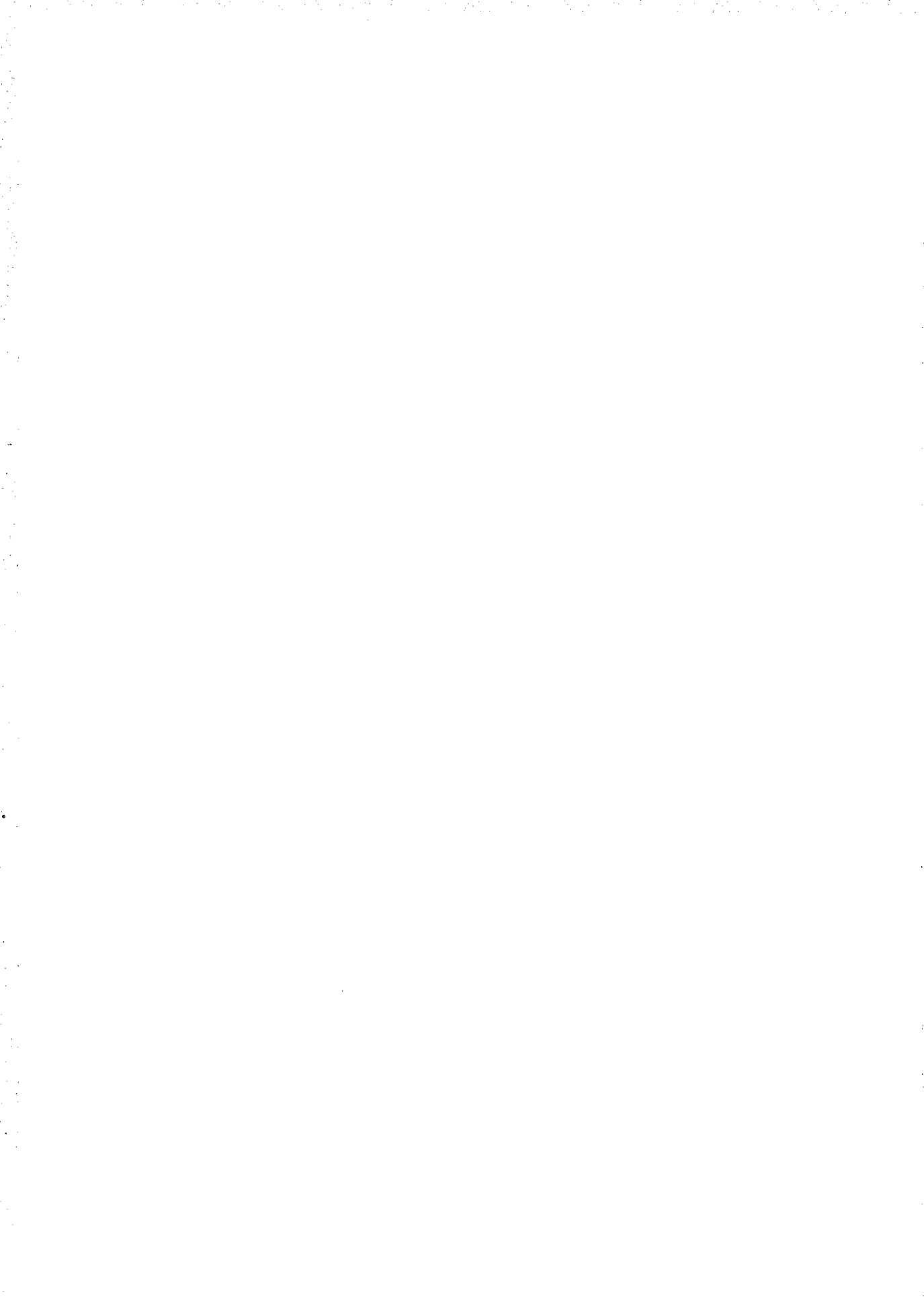
III 公共政策

IV 国際経済学

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1992年

〔参考書〕青山『経済原論の頻出問題』

（実務教育出版）1992年 ¥906



他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講 I (原田 弘道) ……………	1	教育経済論 (谷敷 正光) ……………	12
禅学特講 II (黒丸 寛之) ……………	1	アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘) ……………	12
禅学特講 III (石井 修道) ……………	1	財務会計論 (遠藤 孝) ……………	13
禅学特講 IV (鈴木 格禅) ……………	1	管理会計論 (中原 章吉) ……………	14
禅学思想史 (峰岸 孝哉) ……………	1	会計監査論 (飯岡 透) ……………	14
哲学史 (中村 友太郎) ……………	1	商業政策 (岩下 弘) ……………	15
インド仏教史 (田上 太秀) ……………	2	貿易論 (古沢 紘造) ……………	16
中国仏教史 (佐藤 達玄) ……………	2	マーケティング (曾我 信孝) ……………	16
日本仏教史 (石川 力山) ……………	2	原価計算論 (加藤 利安) ……………	17
日用経典 (皆川 広義) ……………	2	労務管理論 (前期: 石井 脩二)	18
仏教美術 (中島 亮一) ……………	2	(後期: 庄村 長)	
現代哲学概説 (田島 節夫) ……………	2	行政法 II (齊藤 寿) ……………	18
上代文学 (小野 寛) ……………	3	民法 IV (1) (青山 尚史) ……………	19
中世文学 (水原 一) ……………	3	民法 IV (2) (青山 尚史) ……………	19
近世文学 (富士 昭雄) ……………	3	比較憲法 (竹花 光範) ……………	19
近代文学 (菊地 弘) ……………	3	経済法 (川井 克俊) ……………	19
中国文学 (中村 璋八) ……………	3	国際関係論 (首藤 素子) ……………	19
英文学特講 I (石原 孝哉) ……………	3	西洋政治史 (浦田 早苗) ……………	20
英文学特講 II (高野 正夫) ……………	3	宣伝広告論 (上條 末夫) ……………	20
英文学特講 III (岡崎 寿一郎) ……………	3	政党論 (岩井 奉信) ……………	20
英文学特講 IV (中岡 洋) ……………	4	経営統計 (後藤 儀一郎) ……………	20
英文学特講 V (高松 雄一) ……………	4	国際経営論 (桑名 義晴) ……………	20
英文学特講 VI (丸小 哲雄) ……………	4	保険経営論 (石名坂 邦昭) ……………	20
英米演劇特講 (落合 和昭) ……………	4	財務会計論 (渡邊 恵一郎) ……………	21
米文学特講 I (東 雄一郎) ……………	4	経営分析論 (片桐 伸夫) ……………	21
米文学特講 III (原川 恭一) ……………	4	税務会計論 (高木 克己) ……………	21
時事英語 (坂本 武) ……………	5	経営労務論 (中村 真人) ……………	21
地形学 I (小池 一之) ……………	5	商業史 (山田 勝) ……………	21
地質学 (貝塚 爽平) ……………	5	国文講読 I (上代) (佐原 作美) ……………	21
人口地理学 (土谷 敏治) ……………	5	国文講読 II (中古) (鈴木 裕子) ……………	21
応用地理学 I (鶴見 英策) ……………	5	国文講読 III (中世) (園部 幹生) ……………	22
文化地理学 (菱口 善美) ……………	5	国文講読 IV (近世) (清田 啓子) ……………	22
日本史特講 VII (近代) (山口 一之) ……………	5	国文講読 V (近・現代) (田澤 英藏) ……………	22
東洋史特講 X (近・現代) (安藤 正士) ……………	5	国文講読 V (近・現代) (尾形 国治) ……………	22
歴史哲学 (麻生 建) ……………	6	国文特講 V (近・現代) (大室 英爾) ……………	22
哲学史 (丸山 豊樹) ……………	6	英文タイプライティング II (竹内 美恵子) ……………	22
日本民俗学 (谷口 貢) ……………	6	時事英語 (岡本 誠) ……………	22
マスコミュニケーション (川本 勝) ……………	6	英語演習 I (岡本 誠) ……………	22
産業社会学 (安藤 喜久雄) ……………	6	計算機言語概論 (杉田 徹) ……………	23
都市社会学 (江上 涉) ……………	6	臨床放射線特論 I (本間 襲) ……………	23
社会福祉発達史 (林 千代) ……………	6	応用計測学 (樞尾 英次) ……………	23
ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志) ……………	7		
社会政策 (光岡 博美) ……………	7		
国民所得論 (吉野 紀) ……………	8		
中国経済論 (小杉 修二) ……………	9		
アジア経済論 (小林 英夫) ……………	10		
日本経済史 (古庄 正) ……………	10		
中小企業論 (三井 逸友) ……………	11		

他学部履修科目

禅学特講 I

原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

黒 丸 寛 之

道元禅師と『法華経』について、『正法眼蔵』の所説を中心として講述し、併せて良寛の『法華転』『法華讃』を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意して受講されたい。

禅学特講 III

石 井 修 道

平成4年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕石井修道『禅語録』（中央公論社）
¥5,200
荒木見悟『大慧書』（筑摩書房）
¥3,500

禅学特講 IV

鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時まで決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

田上太秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕田上太秀『禅の思想』（東京書籍）

¥1,009

『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説－中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

石川力山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻善之助『日本仏教史』（全10巻、岩波書店刊）

家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修
『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉

〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）

川岸宏教・速水侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

日用経典

皆川広義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典について解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

〔教科書〕テキスト、プリント配布

仏教美術

中島亮一

仏教の発生から仏像の誕生、そして敦煌を経て竜門・雲岡へ、更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで）、仏像の様式の変遷を通観し、あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を、精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し、政治と仏教、風土と仏教、特に道教とのかかわりなど、広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあられた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号

論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』
(世界書院) ¥2,500

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料上代文学史』(笠間書院)

中世文学

水原 一

『新古今和歌集』は『万葉集』『古今集』と共に和歌史上特視すべき勅撰集である。日本美学史の上にも画期的な中世美を実現させた。これを教材として作品の解釈・鑑賞、歌人・歌壇の考察・言語美の探求などを実践する。

〔教科書〕久保田 淳『新古今和歌集』(桜楓社)

近世文学

富士 昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。

〔教科書〕萩原恭男 校注『芭蕉おくのほそ道』
(岩波文庫) ¥410

近代文学

菊地 弘

前期は有島武郎の小説と評論と、後期は芥川龍之介の小説と評論をとりあげ、その固有の文学を考察する。

中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版) ¥2,170

英文学特講 I

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』(三修社)

英文学特講 II

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの物語詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講 III

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむづかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の

検証を経て、ハーディ、イェイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講IV

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講V

高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イェイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講VI

丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになる。そのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義、ニュー・ヒストリシズムなどの批評的考え方を講義します。同時に、作品の読み方と研究の仕方を覚えるためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになる。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および、適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

落 合 和 昭

前期は悲劇、メロドラマ、コメディの劇の要素（筋、登場人物、テーマ、台詞、音楽、背景等）について学ぶ。

後期は演劇史に見られる主義（～ism）をギリシャ時代から現代にいたるまでを時間が許すかぎり追ってみたい。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程）ほど提出してもらおう。

米文学特講I

東 雄 一郎

十七世紀のアメリカ女流詩人、アン・ブラッドストリートから二十世紀のシルヴィア・プラスまで、約四十六人の詩人の作品を読みます。ホイットマンの〈自我の歌〉、ポーの「詩の原理」、世紀末から出発したフロスト、パウンドやエリオットのモダニズム、フォーマリストのステューヴンズ、客観主義の即物的実践者ウィリアムズ、物質文明の神を呪詛したギンズバーグとビート詩人たち（デニズ・レバトフ、ロバート・クリーリー等）の作品から、新世界・「楽園」の夢への憧憬、自負、挫折を考えてみます。アメリカ詩の新鮮な驚きを堪能して下さい。さらに、ハート・クレインに見られる原始主義を考え、神話のない国の包括性に言及します。

〔教科書〕新倉俊一著『アメリカ詩の世界』

（大修館）¥1,900

米文学特講III

原 川 恭 一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頹廃とをもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renaissance）の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社会的視点をも構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選—風土と文学』（中教出版）

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採り上げ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにしたい。(内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,532

地質学

貝塚 爽平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

〔教科書〕貝塚爽平著『平野と海岸を読む』(岩波書店) ¥1,200

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

鶴見 英策

地理学の知識と考え方及び手法を用いて行う環境調査、災害調査と予測、土地評価など、各種の調査について具体的な事例をもとに解説する。

文化地理学

こも
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ(近代)

山 口 一 之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ(近・現代)

安 藤 正 士

第2次大戦後から現在に至る日中関係を考察する。主な観点は、

- I. 時期区分
- II. 国際政治における日中関係の位置づけ
- III. 各時期における両国間を連系する主要な要素と 이슈
- IV. 日本の各時期における代表的な中国論など、政治、経済、文化など広い視野から資料を提示して講義を行う。

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲学史

丸山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学との関係を明確に示せるように講義を進めたい。

〔教科書〕講義中に、その都度指示する。

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容

過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安 藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会学的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄『産業社会学』（学文社）¥2,500

都市社会学

江 上 涉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかということにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということ、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、

方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かとはかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命

- (1) 社会主義論の歴史
- (2) マルクスの社会主義論
- (3) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —

2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代

- (1) 1920年代から30年代への根本的転換
- (2) 工業化と農業集団化
- (3) ソ連型「社会主義」の特質
- (4) ソ連・東欧経済圏の形成

3. 「計画経済」と经济管理システム

- (1) 「計画経済」の成立
- (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
- (3) ソ連型经济管理システム

4. ソ連経済の到達水準

- (1) 経済構造の特質
- (2) 軍事生産と工業生産力
- (3) 工業技術の諸問題
- (4) 農業政策と農業制度
- (5) 農業生産力

5. 停滞からペレストロイカへ

- (1) 経済改革の時代
- (2) ブレジネフと停滞の時代
- (3) ペレストロイカとその挫折

6. ロシア・東欧経済の現状と課題

- (1) ロシア・東欧社会の特質
- (2) 史上経済化の諸問題 — 何から何への移行か —

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るのとは当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

光 岡 博 美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学の中なかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労

働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史(戦前期)
- (4) 日本における社会政策の歴史(戦後期)
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)~(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作(映画)を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとつての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

吉野 紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これら間でさまざまな生産

活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産(GNP)440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ(巨視的)分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実を観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……………5回

GNP, GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

『平成2年日本経済の循環図』(配布資料)

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡(日経文庫)

「総需要、均衡産出量、均衡所得……………4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷(日本評論社)第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」……………8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」……………4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学(上)』ドーンブッシュ・フィッシャー(マグローヒル)第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」
..... 4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わせられる。

「最終講義」..... 1回

平成5年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験 85%

2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件） 15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもある。

〔教科書〕 開講時に指示する。

中国経済論

小 杉 修 二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気が見えなぎようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在

および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれまいであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ（1-201または1-301 教室）上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオをみる。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受け入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕 小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥3,300

アジア経済論

小林英夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式で行なう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、一昨年は野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係(戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的をしぼった、実態報告を行なう。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動(1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する)

1月

まとめ(1年間の講義について、まとめを行なう)

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

[参考書] 小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』(御茶の水書房)

¥3,200

小林英夫『東南アジアの日系企業』

(日本評論社) ¥3,200

日本経済史

古庄 正

幕末期の日本は、極東の封建国家に過ぎなかった。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の帝国主義国にのしあがった。幕末開港後のこうした日本経済の歩みを、出来るだけ系統的に、また分かり易くお話ししてみたいと思っている。お話す中身としては、今のところ次のテーマを予定している。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と華族の資本蓄積
- (6) 農民の半プロ化と士族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績業と製糸業の発展
- (10) 海運と鉄道の発展
- (11) 鉱山業と重工業
- (12) 寄生地主制と資本主義
- (13) 外国貿易の発展
- (14) 産業革命と公害
- (15) 産業革命と民衆
- (16) 日清・日露戦争と植民地支配

ところで、経済史をも含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。経済史研究の究極的課題は、人類史の中で今われわれがどのような地点に立っているのか、また、どこに行こうとしているのかを、「経済の深み」から具体的・歴史的に明らかにすることにある。日本経済史の場合もちろんその例外ではない。かつて、圧政と貧困から人類を救い出す社会体制として期待された社会主義がソ連・東欧諸国を初めとして瓦解し、残存する社会主義大国中国も、ある種の資本主義国に転換しつつある今日、来し方は分かっても、行く末は不透明なものとなった。「昔は歴史というものがあつたが、今はもうない」ということになるのかどうか、この点についての回答は近い将来には期待できそうもない。それだけに、歴史を学ぶ必要は一層強まった、といってよい。新聞を読んでいて「中国や韓国などアジアの人たち

と話している感じるの、日本についての権威と信頼のギャップである。日本の権威は高まっているものの、信頼の方は逆に低下しているのだ」（『毎日新聞』1992・11・27）という記事が目についた。「信頼は金では買えない」という表題のこの囲み記事で筆者が言いたかったことは、アジアの民は、日本が大国として行動することを受入れながらも、日本に対して不安と警戒心を強めている、ということであろう。第二次大戦中、日本はアジアの諸民族に計り知れない被害をあたえた。にもかかわらず、戦後半世紀たった今日でも戦後責任には目をつむり、その反面では、PKOへの参加を突破口として海外派兵の実績を積み重ねていることがその背景にある。特に植民地朝鮮からは、百万人を越える人々を軍人・軍属・従軍慰安婦・一般労務者として強制連行し、多くの人々を死傷させたにもかかわらず、日本政府と関係企業は何の補償もしなかったばかりか、謝罪さえ拒否してきた。軍の関与を示す決定的な証拠を突きつけられ、従軍慰安婦問題については一応「謝罪」し「真相究明と適切な措置」を約束したが、結局「真相究明」はせず、若干の補償金を支払うことで解決を図ろうとして、被害者と韓国政府の強い反発を招いている。日本政府と関係企業の韓国・朝鮮をはじめとするアジアの被害者に対するこうした傲慢な対応は、決して許されるべきではない。が、それと同時に、過去百年の日韓・日朝間の歴史についてのわれわれの無知・無関心が、これを放任していることも忘れてはならないだろう。日本が再びアジアの、そして世界の孤児にならないためには、日本政府と関係企業のこうした歴史認識を根本的に改めさせねばならない。しかし、そのためには、われわれ自身が歴史について無知・無関心であってはならない。歴史を学ぶことの必要性は、もちろんアジア諸民族との関係だけではない。国内問題についても同様のことがいえる。例えば、今日最大の社会問題となっている「環境問題」について、日本政府も企業もしばしば言及している。しかし「環境破壊」の主因をなす公害については、政府も企業も足尾鉾毒事件からは何一つ学ぼうとはしていない。水俣病患者の訴訟に対する冷酷な措置は、それを例証している。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さら

に21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。
<構成予定>

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の

専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』

(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ』

(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』

〔各年次〕

『エコノミスト増刊, 図説日本経済

1993』(毎日新聞社)

教育経済論

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を究明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義の他、年間5～6回程、その都度現実的理解のために視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

- (1) 欧米先進国の経済の現状と教育
①アメリカ, ②イギリス, ③フランス, ④ドイツ, ⑤日本
- (2) 戦前の経済発展と実業教育の振興
①学制時代, ②学校令時代, ③実業学校令時代
- (3) 戦後の経済発展と産業教育の振興
①復興期, ②高度成長期, ③1970年代,

④1980年代, ⑤1990年代

(1)(2)は前期に, (3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

欠席しないこと。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』

(東大出版)

文部省『産業教育百年史』

(ぎょうせい)

本庄良邦『産業教育体制研究』

(三和書房)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をします。それとともに、アメリカのできごとと関係の深い世界の情勢を、ひろく検討します。

とりあげるテーマには、おおむね次のようなものを予定しています。

前期

〔導入の話題〕

◇新大統領の経済政策とアメリカ経済の近況

〔総論〕

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

〔アメリカ経済各論〕

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

〔世界とアメリカ〕

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATT)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

〔アメリカと世界の諸地域〕

- ◇アメリカとEC
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカと発展途上諸国
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

〔むすびの話題〕

- ◇アメリカの現状と経済学（あたらしい学派の見解）

講義では、一回ごとにひとつずつ（上記の◇）テーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものです。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、楽しくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるように心がけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。今、どうしてもといわれれば、日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書です。

なお、この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいまでもありませんが、さきに述べたこの講義の性格からいえば、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義

については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりです。

財務会計論

遠藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果たすものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か、その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、「企業会計原則」について。
- ⑤ 5月第3週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- ⑥ 6月第1週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑦ 6月第2週

資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。

- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について、引当金とは何か、引当金の設定基準—商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。

後期

- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同上
- ⑮ 10月第1週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表(書)
- ⑯ 10月第2週
同上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同上
- ㉑ 11月第3週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
—総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。

〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

中原章吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って始めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段上がってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいとします。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年度で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎構造』創成社

〔教科書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』
(中央経済社)

会計監査論

飯岡透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の意義と役割
 - (1) 会計監査の意義と機能
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性和その構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国の監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国の監査制度の展開
3. 監査役と会計監査人
 - (1) 監査人の種類とその要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限
 - (4) 監査役および会計監査人の義務と責任
4. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 合理的証拠とその決定要因
5. 監査手続の種類と内容
 - (1) 監査手続の意義と分類
 - (2) 監査手続の内容
6. 内部統制と試査
 - (1) 内部統制の意義と構成内容
 - (2) 内部統制の調査範囲と調査手続
7. 予備調査と監査計画
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的と種類
8. 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
9. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 監査報告書の記載内容
 - (4) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、簿記、財務会計論の講義を履修し、財務諸表について、十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材については、最初の授業時に指示する。

商 業 政 策

岩 下 弘

<授業項目>

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画

- 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 79年改正法
 - 3) 91年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導=抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ-前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策-都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題-商店法
 - 2 フランス-ロワイエ法
 - 3 ドイツ-土地利用計画
 - 4 アメリカ-ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟-中小小売業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場
 - 3) 生業権論
- 七 流通問題と消費者保護政策
 - 1 消費者問題論
 - 2 消費者保護基本法
 - 3 消費者行政
 - 4 生協
- 八 流通問題と独禁政策
 - 1 独占禁止法
 - 2 不公正取引
 - 3 取引慣行

以上

<成績評価>

試験、レポート、出席により評価する。
〔教科書〕教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンス編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I-VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪ねたらよい機関を紹介します。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究室館4階34号室）を訪ねる人もいます。

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

(1) 製品政策

- ① 概念と差別化政策
- ② 多様化・細分化政策
- ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
- ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
- ③ 差別価格と収奪

(3) チャンネル政策

- ① 概念と流通機構
- ② 商業の排除と系列化政策
- ③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策

- ① 概念と人的販売政策
- ② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

(1) 激変する市場環境

- ① 国内市場の変化
- ② ブロック経済化
- ③ 経済規制の緩和

(2) 総合商社の新事業

- ① 川下戦略
- ② 消費財生産部門への参入
- ③ 新事業への対応政策

(3) 総合商社の国際マーケティング戦略

- ① 消費財マーケティングの展開
- ② 総合商社の需要創造活動
- ③ ネットワークと支配

(4) 総合商社と子会社

- ① 子会社戦略
- ② マーケティング管理と子会社

(5) 情報化戦略

- ① 国際化と情報の対応

- ② 通信事業と支配
- ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉

- ① 年一回の定期試験…70%
 - 夏休中の課題 …20%
 - 出席状況 …10%
- ② 評価基準
 - 講義内容の理解 …60%
 - 問題意識 …30%
 - 分析力・応用力 …10%

〔教科書〕曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000

〔参考書〕三浦信・来住元郎・市川貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）¥2,200
石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

原価計算論

加 藤 利 安

〈基本的な視点（問題意識）〉

経済的、社会的環境の構造的変化（たとえば、為替相場の変動、国際貿易摩擦、国際化、ハイテク化、高度情報化、経済のソフト化やサービス化、高齢化、就業意識の変化、消費者の価値観の多様性、女性の社会進出、環境問題の対応）によって抜本的な経営改革の必要性の強調＝リストラクチャリング（生産、販売システム等すべての事業組織の再構築）とグローバル経営が標榜されている今日、これら経済的、社会的環境の構造的変化は企業会計の研究にとっても無関係ではないだろう。もし、そうであるならば、それは原価計算の領域にとってもあてはまるだろう。なぜならば、原価計算は計数的技法として企業会計の一領域を形成し、諸種の計算目的の達成を通じて企業経営組織に貢献するものと考えられてきたし、また今後もそうであると考えられるからである。

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的

手段体系として、その成立の当初から現在に至るまで、さまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に答えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果す目的を5つ列挙している。換言すると、ここでは財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに、最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が議論されている。このように、一定の時代的環境状況の認識の下である特定の社会的役割を果すべく設定されてきた「原価計算基準」も、変容した今日的な経済的、社会的環境下においてその現実的課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしているが、一定の経済的、社会的環境の下で企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、計数的技法としての原価計算が当該目的達成のための手段であるとすれば、目的手段体系の因果的把握が可能となるのではないだろうか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の「原価計算基準」を所論展開の出発点としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを会計現象の一つとして捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することを心掛けることにした。

〈授業計画〉

前期では、原価計算の基礎的考察として原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。ここでは主として、意思決定指向的な原価計算について検討を加える。

〈評価方法〉

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験を行う。

〔教科書〕最初の授業前に指示する。

〔参考文献〕授業時に適宜挙げる。

労務管理論

前期：石井 脩 二
後期：庄 村 長

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめています。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なのは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実に焦点を併せ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用 of 卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業が作りあげてきた強い競争力そのものが問われはじめています。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものが妥当性を問われているということにほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているのかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめています。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝

えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序 章

労務管理ないし人的資源管理とは（4月）

第1章

日本企業が直面している諸問題（4月～5月）

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き（6月）

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開（6～7月）

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800

②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300

③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300

④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

行政法Ⅱ

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ（１）

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛治良堅著『親族法講義』（啓文社）

民法Ⅳ（２）

青山尚史

民法Ⅳ－(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粋身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛治良堅著『相続法講義』（啓文社）

比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国の

シンボル等）

4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

川井克俊

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占、カルテル、企業結合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克俊著『競争政策法概説』（高文堂）¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克俊著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

川井克俊著『いやでもわかる公取委』（日本経済新聞社）

国際関係論

首藤素子

第1に、冷戦後の国際関係の特徴と問題についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これでもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』（有信堂高文社）1993年

〔参考書〕有賀貞他編『講座 国際政治』（東大出版会）1989年（第2、3、4巻）

西洋政治史

浦田早苗

世界は今、大きな転換期にある。冷戦構造の崩壊と社会主義体制の変革、高度産業化に伴う社会の変質などによって、国家や政党、制度や組織、国民や民族などの近代政治の概念に基本的な検討がせまられている。講義では、歴史政治学的アプローチに則った大局的視方から現在ヨーロッパで問題になっている制度や事件の検討を行う。

宣伝広告論

上條末夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政党論

岩井奉信

政党は民主政治の要であるといわれてきた。事実、民主主義国家で政党を主体とする政治が行われていない国はない。しかし、近年、社会的価値の多元化と共に従来の政党政治のあり方が大きな曲り角に来ているともいわれる。本講義では変貌する政党政治という視点から政党とは何か、政党制と選挙システム、政党組織形態などという基本的な問題を論じた上で、日本における政党と議会政治との関係とその変化について、実証的に学んでゆく。とりわけ自民党とその政治のあり方については最新の資料やデータを用いて、派閥や族議員の問題など今日的なテーマを取り上げ、具体的にかつ体系的に論じてゆく予定である。

〔教科書〕岩井奉信『国会議員の研究』（日本経済新聞社）近刊

岡沢憲英『政党』（東京大学出版会）

〔参考書〕岩井奉信『族議員の研究』

（日本経済新聞社）

岩井奉信『政治資金の研究』

（日本経済新聞社）

経営統計

後藤儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学は、もはや資料の収集とそれを表や図で表すだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながら、それらが実際においてどのように応用（たとえば統計的品質管理）されるかを学習する。

〔教科書〕吉野紀・後藤儀一郎著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

国際経営論

桑名義晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本的経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』（中央経済社）¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

保険経営論

石名坂邦昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

財務会計論

渡 邊 恵一郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高 木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行く。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

経営労務論

中 村 眞 人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はどうのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業に働く人々の仕事の現実について考えていきたい。現代日本企業の労務管理諸制度と労働問題を考察の素材とする。

はじめに、問題をとらえるための基本的枠組として、労働市場と分業について話す。つづいて、雇用管理（人事管理）、賃金、労働時間、労使関係という個別の事柄へと話を進めていく予定である。

商 業 史

山 田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐 原 作 美

『万葉集』の中から代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌を中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』（桜楓社）¥1,600

国文講読Ⅱ（中古）

鈴 木 裕 子

今年度は、『源氏物語』を、若紫巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』—（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

菌部幹生

『発心集』を読む。本作品は鴨長明の有名な説話集であるが、本講座では、著者の思想そのものよりも、一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味、及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕その都度指示する。

国文特講Ⅴ（近・現代）

大室英爾

島崎藤村の作品を読む。その人間と文学の統一されたかたちを長い作家生涯をかけてどのように作りあげていったか。詩及び散文の読みを通し、彼をとりまくあらゆる「外圧」を視野に入れつつ考えていきたい。本年度は「春」が中心となろう。

〔教科書〕各種文庫本。開講時に指示。

国文講読Ⅳ（近世）

清田啓子

安永天明期の知識人の機智をあつめて成立した黄表紙を、その生成から完成、下降まで、作者の個性を追いながらたどってみたい。

〔教科書〕プリント

英文タイプライティングⅡ

竹内美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター、各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部 of 学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

国文講読Ⅴ（近・現代）

田澤英藏

「吾輩は猫である」（夏目漱石）を通読する。また、同じ頃に書かれた「倫敦塔」「カーライル博物館」などにも触れてみたい。

〔教科書〕開講後に指示する。

時事英語

岡本誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してやること。

〔教科書〕テープ使用。

国文講読Ⅴ（近・現代）

尾形国治

明治・大正・昭和期の名作を1年間でおよそ12～3作品じっくりと読む。作者とその時代、生い立ちの問題、さらにはその文学的特色と可能性、その限界など、さまざまな角度から考察してみたいと思う。

〔教科書〕各種文庫本

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡本誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点以上をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉 田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野，医療関係の検査診断機器には，顕著なものがある。将来，診療放射線技師を目指す諸君にとって，コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に，アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による
実習

〔教科書〕 コンピュータ教育工学研究所編
ガイドブック『BASIC』
(サイエンス社) ¥1,854

臨床放射線特論 I

本 間 襄

医療の中で，診療録・依頼箋の内容を理解し，相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では，将来病院や医学関係の仕事につく人に必要な知識といえる。

〔教科書〕 定めず

応用計測学

櫃 尾 英 次

医用画像診断装置は，コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では，核医学機器（ガンマカメラ，シングルホトンECT，ポジトロンCT），X線CT装置，MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置，DSA，CRならびにPACSについても，その概要を講述する。

〔参考書〕 岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
(コロナ社)

教職および資格講座

教 職 課 程
 学校図書館司書教諭講座
 社会教育主事講座
 博物館学講座
 社会福祉主事 講 座
 社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
 (履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(上岡 安彦) ……………	1
教育原理(北村 三子) ……………	1
教育原理(坂本 信昭) ……………	1
教育原理(村山 輝吉) ……………	1
教育原理(小山 一乗) ……………	1
教育心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子) ……………	2
教育心理学(教育方法論を含む) (遠藤 司) ……………	2
教育心理学(教育方法論を含む) (国眼 眞理子) ……………	2
教育心理学(教育方法論を含む) (中村 均) ……………	2
教育心理学(教育方法論を含む) (難波 和明) ……………	2
青年心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子) ……………	2
青年心理学(教育方法論を含む) (川田 二夫) ……………	2
青年心理学(教育方法論を含む) (小宮山 要) ……………	3
青年心理学(教育方法論を含む) (牟田 悦子) ……………	3
特別活動(中野目 直明) ……………	3
生活指導(遠藤 司) ……………	3
生活指導(佐藤 尚人) ……………	3
宗教科教育法(小山 一乗) ……………	3
国語科教育法(神谷 道倫) ……………	4
書道科教育法(那須 隆吉) ……………	4
英語科教育法(荒井 良雄) ……………	4
社会科・地理歴史科教育法(長野 寛) ……	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(中島 義一) ……	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(野呂 肖生) ……	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(長谷部 八朗) ……	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(谷敷 正光) ……	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(大久保 治男) ……	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(橋爪 敏) ……	6
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
職業科教育法(前田 幸一) ……………	6
商業科教育法(谷敷 正光) ……………	6

道徳教育の研究(上岡 安彦) ……………	7
教育実習(上岡 安彦) ……………	7
教育実習(坂本 信昭) ……………	7
教育実習(村山 輝吉) ……………	7
教育実習(北村 三子) ……………	7

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育哲学(汐見 稔幸) ……………	7
教育社会学(高島 秀樹) ……………	8
現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹) ……	8
教育評価(大浜 幾久子) ……………	8
教育情報学(難波 和明) ……………	8
教育調査(鈴木 規夫) ……………	8
教育史(北村 三子) ……………	8
教育関係法規(広沢 明) ……………	9
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉) ……………	(9)
社会教育施設(村山 輝吉) ……………	(9)
図書館学Ⅰ(山崎 慶子) ……………	(9)
図書館学Ⅱ(源 昌久) ……………	(9)
青少年問題研究(前期:中野 東禅) ……	9
(後期:和田 謙寿)	
視聴覚教育(赤堀 正宜) ……………	(9)
教育臨床心理学(牟田 隆郎) ……………	9
教育法規研究(神田 修) ……………	9
児童文化(湯山 厚) ……………	9
宗教教育(松本 皓一) ……………	10

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説(粟野 俊之) ……………	10
日本史概説(小松 寿治) ……………	10
世界史概説(井村 行子) ……………	10
世界史概説(渡辺 惇) ……………	10
地誌学概説(橋詰 直道) ……………	10
地誌学概説(長野 寛) ……………	10
地誌学概説(宮口 侖迪) ……………	11
人文地理学概説(小林 高壽) ……………	11
自然地理学概説(早船 元峰) ……………	11
自然地理学概説(安部 喜也) ……………	11
民法Ⅰ(青野 博之) ……………	11
民法Ⅰ(林 幸司) ……………	12
政治学原論(大塚 桂) ……………	12
社会学原論(渡辺 源樹) ……………	12
経済原論(阿部 弘) ……………	13
経済原論(荒木 勝啓) ……………	14
経済原論(小野 俊夫) ……………	15
哲学概説(篠原 壽雄) ……………	15
哲学概説(国嶋 一則) ……………	15

倫理学概説 (久保 陽一)	15
宗教学概説 (洗 建)	15
宗教学概説 (松田 文雄)	15
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	(15)
民間信仰論 (谷口 貢)	15
東洋思想研究 (館野 正美)	16
民衆宗教成立史 (洗 建)	16
歴史哲学 (麻生 建)	16
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	(16)
美術史概説 (中島 亮一)	(16)
日本宗教文化史 (井上 順孝)	16
日本仏教史 (廣瀬 良弘)	16
【職業】	
産業概説 (前田 幸一)	17
職業指導 (山田 勇治)	17
商業実習 (前田 幸一)	17
【商業】	
職業指導 (山田 勇治)	(18)

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I (山崎 慶子)	19
図書館学 II (源 昌久)	19

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	20
社会教育計画 (村山 輝吉)	20
社会教育実習 (村山 輝吉)	20
社会教育実習 (上岡 安彦)	20

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) ..	(20)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子)	20
青少年問題研究 (前期: 中野 東禪)	21
(後期: 和田 謙寿)	
社会教育施設 (村山 輝吉)	21
図書館学 I (山崎 慶子)	(21)
博物館学 I (倉田 芳郎)	(21)
博物館学 II (竹内 順一)	(21)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人)	21
社会体育 I (古田 潤子)	21
社会体育 II (古田 潤子)	21
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	(22)
教育原理	(22)
教育心理学 (教育方法論を含む)	(22)
青年心理学 (教育方法論を含む)	(22)
社会心理学 (坪井 健)	22
教育社会学 (高島 秀樹)	(22)
教育調査 (鈴木 規夫)	(22)
教育史 (北村 三子)	(22)
児童文化 (湯山 厚)	(22)
社会教育行政 (牧野 篤)	22

成人学習論 (牧野 篤)	22
--------------------	----

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I (倉田 芳郎)	23
博物館学 II (竹内 順一)	23
教育原理	(23)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(23)
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	23
博物館実習 I (館務) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	23
博物館実習 II (収集) (倉田 芳郎・所 理喜夫・ 葉貫 磨哉・太田喜美子) ..	23
考古発掘実習 (千葉 基次)	24
博物館実習 III (見学) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	24

(2) 選択必修科目

日本文化史 I (廣瀬 良弘)	24
インド仏教文化史 (奈良 康明)	24
西洋文化史 III (三小田 敏雄)	24
仏教美術 (中島 亮一)	24
現代美術 (宮崎 克己)	25
禅 美術 (海老根 聰郎)	25
美術史概説 (中島 亮一)	25
西域美術史 (相馬 隆)	25
考古学概説 I (日本) (倉田 芳郎)	25
考古学概説 II (外国) (飯島 武次)	25
考古学特講 II (高浜 秀)	25
考古学特講 IV (飯島 武次)	25
日本民俗学 (谷口 貢)	26
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	26
地形学 I (小池 一之)	26
地質学 (貝塚 爽平)	26

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一)	27
※社会福祉原論 (原田 信一)	27
※老人福祉論 (中野 いく子)	27
※障害者福祉論 (原田 信一)	27
児童福祉論 (高橋 重宏)	27
※社会保障論 (近藤 功)	28
※公的扶助論 (伊藤 秀一)	28
※地域福祉論 (和田 敏明)	28
※心理学 (福祉) (井上 孝代)	28
※社会学 (福祉) (江上 渉)	28
※法学 (福祉) (小林 弘人)	28

リハビリテーション論 (原田 信一) ……………	29
社会福祉計画論 (坂田 周一) ……………	29
社会福祉運営論 (坂田 周一) ……………	29
家族福祉論 (田村 健二) ……………	29
医療福祉論 (春見 静子) ……………	29
婦人福祉論 (林 千代) ……………	29
保健福祉論 (安梅 勅江) ……………	30
社会福祉発達史 (林 千代) ……………	30
海外社会福祉論 (中野 いく子) ……………	30

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注 () 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教育原理

上 岡 安 彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』（上・中・下）

（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

教育原理

北 村 三 子

若者の生き方を歴史的に展望することを通して、近代の青年期教育思想の性格を吟味したい。講義は、近代以前の若者の有り様を概観した後、近代青年期の成立とその特性にふれ、次いで青年期教育思想の検討へと進む予定である。

〔参考書〕教場で指示

教育原理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』

（学芸図書）¥950

デューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』

（岩波文庫）¥200

西村絢子他『現代教育を考える』

（昭和堂）¥2,600

教育原理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』（全10巻）（国土社）『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

教育原理

こ やま かず のり
小 山 一 乗

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら、日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象や用語を意識的に対象化し、教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けている用語についてもとりあげてみたい。基本的な留意項目は、①教育学研究の諸方向、②教育とは「何」か、③教育の目的・目標、④教育の内容、⑤教育の方法（教授学習・生活指導）、⑥教育の経営、⑦教育の制度、⑧教師論。生涯学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』

(学芸図書) ¥950

『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200

小中高各『学習指導要領』(文部省,
各¥230, ¥250, ¥370)

『生徒指導の手引』(文部省¥460)

〔参考書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノ
ート(エイデル研究所) ¥1,800

教育心理学
(教育方法論を含む)

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
(教育方法論を含む)

遠 藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

中 村 均

1. 発達
どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達的变化の概観。
2. 学習
どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。
3. 個人差
一人ひとりの違いの把握について。
4. 教育方法
教育メディアを利用した教育方法について。
〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいたした授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学
(教育方法論を含む)

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
(教育方法論を含む)

川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始め、友達と比較をしたりして色々悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多

い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

[教科書] 使用しない。

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

[教科書] 岸本 弘編著『ポイント教育学—青年心理学』(学文社) ¥1,000

特別活動

中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

[教科書] 宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書)

[参考書] 中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

遠藤 司

教師として生徒の「生活」にいかんにかに関わるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適應できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとっての学校生活に適應することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

[教科書] 講義ノートに基づき進めてゆく。

[参考書] 大貫・佐々木編著『心の健康と適應』(福村出版) ¥2,200

宗教科教育法

小山 一乗

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討す

る。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。

- 〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』（曹洞宗宗務庁）¥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』（大法輪閣）¥1,600
『教育小六法』（学陽書房）¥2,200
小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230、¥250、¥370）
『生徒指導の手引』（文部省¥460）
その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。
- 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版、1985年）
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』（桜楓社）¥1,800

書道科教育法

那須隆吉

長い歴史をもつ書の特徴を考察し、その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し、将来の教師としての自覚を促し、指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕未定
〔参考書〕適宜指示する。

英語科教育法

荒井良雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

- 〔教科書〕『英語科教育法の実際』（成美堂）¥2,200
〔参考書〕荒井良雄『英語英文学とともに』（新樹社）¥2,060

社会科・地理歴史科教育法

（平成元年度以前入学生：
社会科教育法（地理））

長野 覚

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち、特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などを具体的に指導する。後期は授業演習を行い、教育実習に備える。

- 〔教科書〕中学校社会科教科書、高等学校地理教科書・地図帳、文部省学習指導要領

社会科・地理歴史科教育法

（平成元年度以前入学生：
社会科教育法（地理））

中島 義一

社会科（地理歴史）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法

（平成元年度以前入学生：
社会科教育法（歴史））

野呂 肖生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地歴科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらおう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕適宜指示する。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

や し き
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を廃止し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならぬ。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原理とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオの上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科教育の原点
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と公民科

6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
10. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
11. 教育評価
12. 教育実習の意義
13. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
14. 社会科教師論
15. 教員採用試験の準備と今年度の採用について(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

定期試験は行わないが、授業での課題の提出、学習指導案の作成、授業実践などで総合的に評価する。

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』(梓出版)

〔参考書〕遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

石川達三著『人間の壁』(新潮文庫)

灰谷健次郎著『鬼の眼』(新潮文庫)

無着成恭著『山びこ学校』(角川文庫)

その他、若干のルポ、小説、社会科・公民科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

- 〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので、常に会場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、公民科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別に模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講

義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 『学習指導要領』（中学・高校の社会）
各自が使用した社会関係の教科書。

〔参考書〕 宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』
（開隆堂）

近藤大生・有本章編著『職業と教育』
（福村出版）

社会科・公民科教育法
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の育成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況のなかで紆余曲折してきたのも事実であり、周知のように、高等学校の社会科は公民科と地歴科の二科に再編されることとなった。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言っておく。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕 開講時に指示する。

商業科教育法

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従つて、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから、「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添をお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている。昨年度も商業科の教員志望者は多数採用されているので、しっかりと勉強して教師をめざして欲しい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオ上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本経済の発展と教育・職業教育
2. 職業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
10. 教育評価
11. 教育実習の意義
12. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
13. 商業科教師論
14. 教員採用試験の準備と今年度の試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

職業科教育法

前 田 幸 一

〈講義目的〉

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式で進めていきます。

〈授業内容〉

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- (1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
- (2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。
- (3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』（多賀出版）

〔参考書〕城山三郎『素直な戦士たち』（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

- 〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（新訂版）（学芸図書）¥900

教 育 実 習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥350

教 育 実 習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などに

ついでに事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成－提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』

（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

西村絢子他『現代教育を考える』

（昭和堂）¥2,600

教 育 実 習

村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項をとりあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教 育 実 習

北 村 三 子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる技術・技能を主題に、文献を読み合い討議をしたい。

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教 育 哲 学

汐 見 稔 幸

今年度も学校に焦点をあて、文化の変容と学校

という基本テーマを立てて議論し合いたいと思います。今日の学校で生じている諸問題の多くは、社会の行動様式や価値観が大きく変化しているにもかかわらず、学校の内側がそれに見合って変わっていないことから生じていると考えられます。新しい学校はどうあるべきか、コンピュータ教育をどうすべきかなどいくつかの角度から、現状を批判しつつ、考えてみます。教職を希望しつつも、教育の今後を少し理論的に考えようという人を歓迎します。参加者の意志によりますが、年何回かの簡単な合宿を行なう予定です。

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象ととらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育（家族、遊びと仲間集団、地域社会など）と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』（明星大学）¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこにまた多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフステージに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていきたいと計画している。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著

『生活世界を旅する－ライフステージの社会学』（福村出版）
1993年3月刊行予定

教育評価

大浜幾久子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法－実験・観察・調査・テスト－の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

難波和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教育調査

鈴木規夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

北村三子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広 沢 明

憲法，教育基本法，子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき，具体的事例に触れながら講義を行う。校則，体罰，内申書，日の丸・君が代，教科書検定，学校事故，障害児教育，民族教育など今日的な教育問題について，法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P.20) 参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

(P.21) 参照

図書館学 I

山 崎 慶 子

(P.19) 参照

図書館学 II

源 昌 久

(P.19) 参照

青少年問題研究

前期：中 野 東 禅
後期：和 田 謙 寿

開講時に指示します。

視聴覚教育

赤 堀 正 直

(P.23) 参照

教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は，必ずしも適正なものとはいいがたい。そのために，感受性に富む若い人たちが，社会のもつさまざまな矛盾を，「問題」というかたちで表現してきている。

本講義では，社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ，その発生の機序と対応について，心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神 田 修

憲法と教育基本法，教育と権利，学校教育・教師と法，教育行政と法などについて学習する。

〔参考書〕①『解説教育六法』1993年版（三省堂）

②神田修他編著『現代教育の課題』
1992年（北樹出版）

③兼子仁，神田修編著『教育法規事典』
1991年（北樹出版）

児 童 文 化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか，その史的推移とか，あるいはこれからのあり方は，といったように概論風ではなく，現に身近にある名作物の児童図書や，リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ，それらを歴史的に，あるいは他ジャンルとの関連，さらには公教育，民間教育運動との関係，といった観点からとらえなおし，子どもを取りまく環境の一部ともなっている

文化財をみなおすいとぐちとしたい。

〔参考書〕上笙一郎著『児童文学概論』（東京堂出版）¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』（いずれも岩波文庫）各¥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』（新潮文庫）¥400
H・A・レイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』（岩波書店）¥1,300

宗教教育

松本 皓一

宗教的情操を培うことは円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

栗野 俊之

前半では、日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを、主に政治史を中心として概観する。後半では重要な問題をとりあげて、具体的に考えて行きたい。この際、関連する史料なども活用したいと思う。

日本史概説

小松 寿治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井村 行子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心に概説する。帝国主義の時代以降に重心を置いていきたい。
〔教科書〕山本・藤縄・早川・野口・鈴木編『西洋の歴史』〔古代・中世編〕（ミネルヴァ書房、1988）¥2,060
大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』〔近現代編〕（ミネルヴァ書房、1987）¥2,000
〔参考書〕西川正雄・南塚信吾『帝国主義の時代』（ビジュアル版）世界の歴史18（講談社、1986）¥1,500

世界史概説

渡辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。
〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

橋詰 直道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関わり方など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学概説

長野 寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている国、および中華人民共和国の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学概説

宮口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕氷見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

自然地理学概説

安 部 喜 也

地球表面の自然を構成する要素としての地形、水、気候、植生等のそれぞれの分布および変動の要因について解説し、また自然のシステムにおける要素の相互関係について考察する。後半には環境としての自然について論ずる。

民法 I

青 野 博 之

〈講義目的（要旨）〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば、民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか（権利）、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか（義務）を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、受講者に自分で民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前 期

民法総則のうち法律行為の前半まで（民法一条から一一八条まで）。

4月、序説（たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。

5月、自然人（たとえば、未成年者が契約をするときにどんな問題があるか）。

6月、法人（たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか）、物

7月、法律行為（たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か）。

後 期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法（民法一一九条から三九八条の二二

まで)。

9月, 法律行為(たとえば, 契約を取り消すことができるのはどんな場合か, 契約を取り消すとどういふ結果になるか), 期間, 時効(たとえば, 時効という制度はなんのために認められているか)。

10月, 物権総論(たとえば, 物権は債権とどこが違うか), 物権変動(たとえば, マンションを買った場合には何をしなければいけないか)。

11月, 占有権, 所有権, 用益物権(たとえば, 土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月, 担保物権(たとえば, 土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか)。

1月, 質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の始めと終わりに答えるが, それとは別に質問時間を設ける)。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数, およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので, これに答えてくだされば, これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく, 自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので, 安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ, 質問をし, 私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また, 私のためにもなる。したがって, 質問および回答はこの講義を進める鍵である。なお, 評価は, 年度末の試験で最終的には決まる。

〈教材〉

教科書: 我妻 栄・有泉 亨著(川井 健補訂)『民法I(総則・物権法)』(一粒社), 教科書は, 上記のものを使うが, ほかに自分が気に入ったもの, 手持ちのものがあれば, それでもよい。

六法: 憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように, 法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は, 『ポケット六法』(有斐閣), 『コンパクト六法』(岩波書店), 『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので, 新しいものの方が望ましいが, 多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。もっとも, 法令索引で「借地借家法」が掲載されているかを調べて, この法律が掲載されているものの方が望ましい。しかし, 借地借家法が掲載されていない六法を買ってしまったとしても単位の取得に致命傷を与えるというほどのものではない。

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」第三編「債権」いわゆる「財産法」と呼ばれる分野を対象とし, その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では, 重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し, 『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

[教科書] 開講時に指示する。

[参考書] 開講時に指示する。

政治学原論

大 塚 桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく, 以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. デモクラシーとリベラリズムの概念, 史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 現代政治理論

[教科書] 特に指定せず。

[参考書] 原田銅『政治学原論』(朝倉書店)

¥5,356

佐竹寛『政治学体系論』(法学書院)

¥3,090

中山政夫『現代政治学』(三和書房)

¥2,575

日下喜一『現代政治学概説』

(勁草書房) ¥2,060

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ, つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら, 集団論・組織論などを中心として基

礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経 済 原 論

阿 部 弘

<講義の目的>

生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買ってきて消費をするという社会で私たちは毎日の生活を送っている。私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ。価値は、社会に役に立つ・有益である、ということだが、このことは今私たちの商品社会にあっては「商品」生産の体系の中で言われることである。「売れるもの」でなければ富とは関係がない。この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけではないから、このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

私たちは「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段にすぎない。社会にそして私たちに利益になるからそのようなものが商品として生産されているわけだが「役に立つ」と私たちには思えても企業・「資本」は売れてしかも利益にならなければ、いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なものでこれさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。「利潤」も株式という形で存在する「資本」を株券を手に入れることで自分のものにできる。「おカネ」がすべてのように思えおカネを手に入れるために種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさんもっているかどうかで、何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は、ある国家を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようなふうともそれは二の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこ

でその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。「経済学」は成立のときから「富」とは何かを問題にしてきたのでその歴史は「富とは何か」の歴史である。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるからこの社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから「経済原論」の講義では3つのカテゴリーとその関係を明らかにしそのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

<講義の方法>

講義は受講生の人数によって異なる。

- ① 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年4回のレポートの作成を行い、最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え、2回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて、講師が添削して、各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。4回のレポートの作成は以下の日程で行う。
No.1：7月上旬 No.2：10月中旬 No.3：12月中旬 No.4：定期テストの時
- ② 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして、グループ毎にディスカッションをして2回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という形をとる。ただし受講生名簿がでてくるのが前期いっぱいかかってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって7月上旬に第1回目のレポート作成を行う。

<評価の方法>

講義形態①のばあい：評価は4回のレポートを通じて行う。しかし第4回目に関しては「定期テスト」のときを利用するので、教務部で出欠の確認を行うという問題がでてくる。このばあい、欠席者は3回までレポートを作成していても自動的に「失格」となる。

講義形態②のばあい：ゼミナール形式をとるので試験は行わない。ただし2回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

受講生の質疑応答等に便利のように講師の連絡先を以下に示す。

研究室：No.2538 Tel:9360

住 所：〒179 練馬区光が丘6-1-4-204

Tel:03-3976-7984

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分（IS-LM分析まで）に限定して行うことにする。

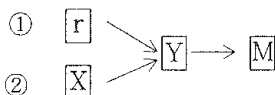
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって（その結果）黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大（黒字増大）と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほど怖いものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上経常収支すなわち輸出－輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大（黒字化）し、Mがふえれば減少（赤字化）する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に応じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausalityが成立つてあろう。さて上述の

答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ経常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち経常収支は増大するのである。こうして、上述の答案は前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給＝総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト＝イン＝スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、年2回実地研修を行う。予定では(1)証券取引所 (2)大蔵省印刷局である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
(学文社)

哲学概説

篠原壽雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする時、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかを受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『荘子』〔内篇¥360, 外篇¥400〕
(中公文庫)

哲学概説

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

哲学思想の基礎的概念や考え方の解明に重点をおく。また書物の読解力を養成するために、教材の重要な箇所を読んで解説する。

〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久保陽一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリ

スト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、実存主義等—現代における倫理の問題—国際的正義、生命倫理等—について考えることにしたい。

〔教科書〕プリント等を配布する。

〔参考書〕川戸好武他『西洋哲学の歴史』
(公論社)

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

佐々木宏幹

(P.26) 参照

民間信仰論

谷口貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館野正美

本年度は、インド伝統医学（アーユルヴェーダ）、グレコ・アラブ伝統医学（ユナニィ）と並んで、世界の三大伝統医学の一つに数えられる中国古代の医学について、医学思想の観点から哲学的に分析し、講じてゆきたい。特にこの中国古代の医学思想の最も原初的な諸形態を、秦の宰相呂不韋の編纂になる『呂氏春秋』を直接的な資料として考究してゆく。

かくして、その医学思想の根幹をなすところの、中国哲学における独自の人間観・生命観を明らかにしつつ、現代医学における諸問題に対する、中国古代医学思想の意義にまで論及してゆきたい。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそも「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

日本文化史 I

廣瀬良弘

(P.24) 参照

美術史概説

中島亮一

(P.25) 参照

日本宗教文化史

井上順孝

日本の宗教文化が、近世から近代・現代にかけて、どのように変化したかを、社会の変化と関連づけながら述べていく。とくに新宗教が宗教文化に与えた影響に焦点を当てる。また日本宗教が海外に進出した場合、どのような変化をこうむるかについても述べる。こうしたテーマを通じ、日本の宗教文化が、どのような面で時代・社会の変化の影響を受けやすいか、また逆にどのような面が影響を受けにくいかに注意を払う。

教室の都合がつけば、できる限り視聴覚教材を利用して説明を行う予定である。

〔参考書〕井上順孝『新宗教の解読』（筑摩書房）
¥1,350
井上順孝『海を渡った日本宗教』（弘文堂）¥1,550

日本仏教史

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

【職業】

産業概説

前田 幸一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり、受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方
3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが、特に上記の3, 4, 5の項目に力を入れて授業を進めます。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）
宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』（有斐閣）

職業指導

山田 勇治

〈講義目的〉（要旨）

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心とした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心に講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えた

と思っています。

〈評価方法〉

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商業実習

前田 幸一

〈講義目的〉

国内よりもグローバル化した対外との企業間の商品取引観点から授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

〈授業内容〉

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

〈評価方法〉

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』実教出版
渋谷源蔵『貿易実務』同文館
藤田栄一『貿易取引の英語』勁草書房

【商業】

職業指導

山田 勇治

(P.17) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山崎慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 もり・きよし原編『日本十進分類法新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』
（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項を取りあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』（学文社）
¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）
¥1,500

(2) 選択必修科目

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 8) 参照

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題（婦人問題）の現状を明らかにし、その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては、

- I. 女性問題を捉える基本的視点
（ライフサイクル論, フェミニズム論争など）
- II. わが国における婦人教育政策の歴史と現状
- III. 国際的動向と女性学の発展
- IV. 女性問題学習の実際
（社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践, その他の活動・実践など）
- V. 今後にむけての課題

という内容を考えている。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 授業中に紹介する。

青少年問題研究

前期：中野東 禅
後期：和田 謙 寿

(P. 9) 参照

博物館学Ⅱ

竹内 順一

(P. 23) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川 正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長しています。企業の生きた姿を知るとは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

- ★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。
 - ★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。
- [教科書] なし

社会教育施設

村山 輝吉

1. 社会教育施設とは何か
 2. 社会教育施設にかかわる人々
 3. 公民館
 4. 図書館
 5. 博物館
 6. 社会体育施設
 7. その他の社会教育施設・関連施設
 8. 社会教育施設をめぐる動向と課題
- [参考書] 適宜指示する。

図書館学Ⅰ

山崎 慶子

(P. 19) 参照

博物館学Ⅰ

倉田 芳郎

(P. 23) 参照

社会体育Ⅰ

古田 潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。
[参考書] 野口三千三著『原初生命体としての人間』(三笠書房) ¥980

社会体育Ⅱ

古田 潤子

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P.23) 参照

教育原理

(P.1) 参照

教育心理学
(教育方法論を含む)

(P.2) 参照

青年心理学
(教育方法論を含む)

(P.2・3)参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕 穴田義孝編『ころ・行動そして社会』
(人間の科学社)

教育社会学

高島秀樹

(P.8) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P.8) 参照

教育史

北村三子

(P.8) 参照

児童文化

湯山厚

(P.9) 参照

社会教育行政

牧野篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。この講義では、戦後の社会教育行政の基本理念をとらえ、社会教育固有のあるべき役割を見据えつつ、生涯学習体系の中において、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方を考察したい。

成人学習論

牧野篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいいい難い。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I

倉田 芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山 輝吉

(P.20) 参照

視聴覚教育

赤堀 正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔教科書〕中野照海・赤堀正宜他編著『メディアと教育』（小林出版）¥2,000

博物館学Ⅱ

竹内 順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・太田 喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・所 理喜夫
葉 貫 磨 哉・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

教育原理

(P.1) 参照

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

千葉基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎が変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

西洋文化史Ⅲ

三小田敏雄

本年度は西洋文化史のうちローマ帝政時代の後期から中世ヨーロッパの成立、ビザンチン文化、中世文化の最盛期に焦点をあてて講義を進める。出席を重視し、成績はレポート試験によって評価する。

〔教科書〕未定

仏教美術

中島亮一

仏教の発生から仏像の誕生、そして敦煌を経て竜門・雲岡へ、更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで）、仏像の様式の変遷を通観し、あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を、精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し、政治と仏教、風土と仏教、特に道教とのかかわりなど、広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野 健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

禅美術

海老根 聰郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどっていく。

（毎回スライドを使用する）

美術史概説

中島 亮一

日本美術の特質と問題点について、各時代にまたがって道教・仏教・儒教あるいは神道からの要請又は影響から、さまざまに変容をとげた姿を再検討し、様式史・精神史の両面から古今の名作の真価を問いなおしてみる。特に東洋・西洋の名作との対比も試み、それぞれの模倣独自性も考察してみたい。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

相馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮

大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田 芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島 武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年（山川出版社）¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年（山川出版社）¥11,000

考古学特講Ⅱ

高浜 秀

吉林・遼寧・内蒙古・甘肅など中国北辺の地域では、漢代以前には中原とは異なった文化が知られている。当時、ユーラシア北方草原地帯では、スキタイ系文化と総称される遊牧騎馬民族の諸文化が栄えていたが、中国北辺の青銅器文化はその東端に位置する重要な文化といえる。これは一方では朝鮮半島の青銅器文化とつながりを持つとともに、中原の文化にも大きな影響を及ぼした。講義ではこの文化について述べる。

考古学特講Ⅳ

飯島 武次

周文化の考古学研究、講義内容は極めて専門的なものにした。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

地 形 学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。内容は最先端の知見を含む。

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔教科書〕佐々木宏幹著『仏と霊の人類学—仏教文化の深層構造』（春秋社）
¥2,400

地 質 学

貝塚 爽 平

前期には、関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。教科書として貝塚著『平野と海岸を読む』

（岩波書店）を用いる。
〔教科書〕貝塚爽平『平野と海岸を読む』（岩波書店）¥1,200

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における对人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』(柴田書店)

老人福祉論

中野 いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展

望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1992』(全社協) ¥2,800

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 1992年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)
(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

高橋 重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというのではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を

明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』
(川島書店)

〔参考書〕開講時に指示する。

体の多元化を伴い進展している。平成5年度は、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎える。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7
『地域福祉論』¥2,500 (中央法規)

〔参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』
(全国社会福祉協議会) ¥2,000

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

心理学(福祉)

井上孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

公的扶助論

伊藤秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

社会学(福祉)

江上 涉

戦後日本社会の変動を人口、家族、産業、教育などいくつかの視点からデータに即して理解しながら、日本社会の特質を考える。(前期)

地域社会に焦点をあて、「コミュニティは崩壊したのか」というテーマに関する議論の展開を紹介して、今後の地域社会のあり方と可能性を考える。(後期)

地域福祉論

和田敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主

法学(福祉)

小林弘人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことからについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕 小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等につて概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

社会福祉計画論

坂 田 周 一

社会福祉における計画の概念を明らかにし、計画策定の技法を実例に即して具体的に明らかにする。技法としては、人口推計方法、福祉ニーズ測定法、最適な福祉サービスの組み合わせを求めるデルファイ法、福祉サービスの効果測定法等の技法を中核としながら、これに関連して線形計画法、PERT法、シミュレーション等のオペレーションズリサーチの技法についても述べる。

〔参考書〕 大村平著『ORのはなし』

（日科技連）¥1,450

その他必要に応じ適宜紹介する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。

〔教科書〕 大山博・武川正吾編著『社会政策と社会行政—新たな福祉の理論の展開を求めて—』（法律文化社）

家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現在の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

〔教科書〕 田村健二『家族—社会の鎖・夫婦親子の鎖—』（金子書房）¥2,000

〔参考書〕 田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2（誠信書房）¥各2,200

医療福祉論

春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論

医療の概念、医療の場、与え手と受け手、医療法、現代医療の問題点

2. 医療領域のソーシャルワーク

歴史、意義、機能、方法、機関

3. 医療ソーシャルワークの実際

事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕 山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）¥2,500

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人（女性）問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』
(ドメス出版)

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中 野 いく子

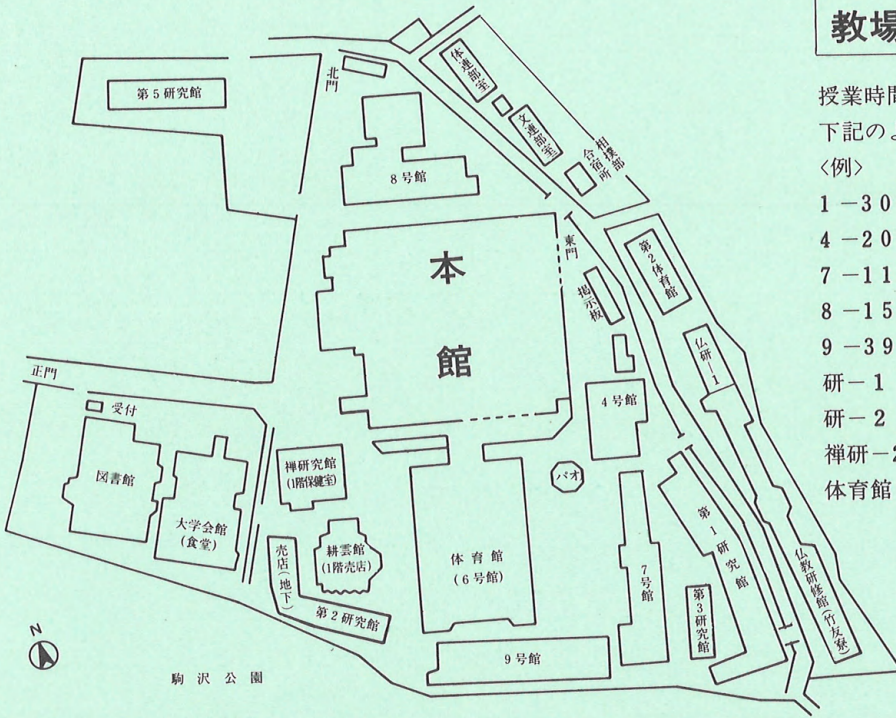
前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見てください。

<例>

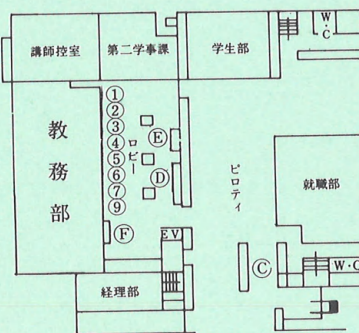
- 1-301 本館(1号館)3階
 - 4-204 4号館2階
 - 7-110 7号館1階
 - 8-150 8号館1階
 - 9-390 9号館3階
 - 研-1 第2研究館1階
 - 研-2 第2研究館1階
 - 禅研-201 禅研究館2階
 - 体育館 体育館2階
- (ただし選択種目により第2体育館になる)

各事務室・掲示板配置図

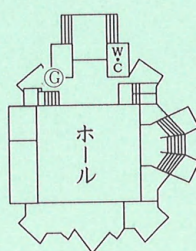
教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ③科目等履修生聴講生卒業証書
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
〈健康診断書および在学証明書は学生部〉
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
(休学・復学・退学・死亡改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更)
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部転科
- ⑧履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部)
法学部・経営学部

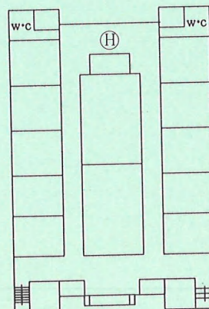
本館 1F



耕雲館 2F



体育館 1F



掲 示

- ①第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項、その他
- ②第2掲示板(裏面)ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- ③第3掲示板ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- ④休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- ⑤授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- ⑥大学院・留学生関係掲示板
- ⑦国際センター掲示板
- ⑧留学生専用・海外留学掲示板
学外諸機関からの案内・募集広告等

